

# 《第1回全体学習》

## 同和問題（道徳）学習指導案

1993年5月14日（金）5校時

3年A組 指導者 森口 健司

1 主 題 人間としての生き方を求めて

2 主題設定の理由

板野中学校に赴任して4年目を迎える。3年間の営みを振り返る時、板野中学校で取り組んだ同和教育の営みが、私自身をこれほど変えていくとは思ってもよらなかった。そんな思いの中で過ぎていった3年間であった。同和教育に取り組んでいく中より、私自身の心の中に、同和教育とは価値観を変えていく営みであるということをも自分なりにつかんではいた。しかし、そのことをこれほど実感することはなかった。昨年度末に私は、「よろこび」（2号）をまとめた。270ページに及ぶ私にとって膨大な記録となった。この冊子「よろこび」（2号）は、板野中学校で同和教育の実践に共に取り組んできた先生方とまとめた「峠を越えて」（1990年度のPART I、1991年度のPART II、1992年度のPART III）と題した冊子をまとめたからこそ、自分なりにまとめることができたものである。

私は「よろこび」（2号）の冒頭に『スダチの苗木とキンカンの苗木』という原稿をまとめた。その原稿は私の思いのすべてであった。私自身がかつてどうしても越えることができなかった峠を越えた原稿である。（以下「よろこび」〈2号〉より）

※

### 《スダチの苗木とキンカンの苗木》

私自身の人生において同和教育に目覚めていく大きな出会いとなった佐藤文彦先生。先生の言葉に「倒れることが恥ずかしいのではない。倒れても立ち上がろうとしないことが恥ずかしいのだ。倒れたら立ち上がればよい。その倒れ方が大きければ大きいほど、倒れたことを大きなバネとして大きく立ち上がる。そのことを私は差別の中を解放を求めてひたむきに生き続ける人たちから学んだ。」という言葉がある。

私の毎日の暮らしにおいて、佐藤先生との出会いは非常に大きなものがある。今も先生の言葉が生活のいろいろな場面で思い出されてくる。いろいろな問題に直面したときいつも思う。それは佐藤先生ならどうされるだろうかという思いである。同和教育に取り組む今の私を創ってくれたのは佐藤先生だと思っている。

私は学生時代を京都で過ごした。私が祖父に連れられて高校3年の時見た京都は、とても美しく心を清らかにしてくれた。祖父と共に歩いた京都御所の小雨に濡れた砂利道。そして、歴史の重みを感じさせるその町並みは、私に京都での学生生活への大きなあこがれとなっていた。そんな高校時代のあこがれが現実のものとなり、京都で学生時代を過ごすようになった。そんなあこがれの気持ちを打ち砕いていくかのように、私は京都の地において部落問題にかかわり、何度となく切なく苦しい思いをしていく。

高校時代に私は丸岡忠雄さんの「ふるさと」の詩と出会い、部落問題にかかわって丸岡さんのような生き方をする人が存在することにたまらない喜びを感じながらも、私は高校時代、ふるさと「徳島」を離れることばかり考えていた。それは部落問題からの逃避以外のなにものでもなかった。私の生まれた町には土方をする人がたくさんいた。それが部落差別に起因するものであるこ

とは頭ではわかっていた。しかし、父と母が土方仕事に従事することを表面では感謝しながらも、恥ずかしさがあった。高校時代、父に連れられて建設現場に何度となくアルバイトに行った。それ以外にも、父の運転する建設会社のマイクロバスに乗ってどこかへ出かけることがある。そんな時、友だちと擦れ違う。父には申し訳ないと思いながらも、知らず知らずのうちに気づかれまいと顔を隠そうとする自分がある。心の中は顔から火が出るほど恥ずかしい気持ちになっていた。

小学校の頃、家庭環境調査の父の職業の欄を書く時、両親が相談していたことを覚えている。土方であること、日雇いであることを小学校の先生方に隠しておきたいという気持ちがあったのだろう。ある年は「運転手」と書く。建設会社のマイクロバスの運転をして他の人夫さんを運んでいたからだ。ある年は「農業」と書く。わずかばかり家族が食べるだけの米を作っていたからだ。どれもこれもすべて嘘であった。当時、親が自分に気を使ってくれていることは小さいなりに痛いほどわかったが、子ども心に私は将来、はっきりと人に言うことのできる仕事につきたいと思うだけで、父の仕事に嫌悪感さえ持っていた。

私が県外の大学へ出るということは、そんな親から逃避することであり、それはその底にある部落問題から逃げていくことでもあった。部落問題から逃げようとした自分が京都においても、部落差別の現実を目の当りにしていく。差別はいつまでも追いかけてくるのかと思った。

京都での部落差別の現実の中で、最もショックだったのは、アルバイト先のおばさんに四本指を突きつけられた時だった。それは私に対してではなかったが、ふるさとを離れて暮らす私には、無理をしてでも私を大学まで行かせてくれた父や母、祖父や祖母の生きてきた道のりの中にもこんな差別がいっぱいあったのかと思われ、その夜遠くふるさとで私を支えてくれる家族のことが思われて、無性に悲しく、体の力が抜けるようになった口惜しさをかみしめていた。私はその日のことを忘れることはない。

もう一つ、母のように洗濯をしてくれ、田舎に帰るときは、必ず京都の土産を持たせてくれ、心の底からこんなすばらしい人はいないと信頼していた下宿のおばさんの言葉も忘れられない。下宿のある下鴨界限をうろつく近くの被差別部落の少年たちを指して言われた。

「森口さん、あの子たちは、生まれがちがいますから。かかわらないで……」

私はこの言葉の奥にあるものを敏感に感じた。部落差別はあらゆる人の中に偏見となって、巧妙に脈々と生き続けていることを深く認識した瞬間でもあった。

信頼する人から出る差別は本当につらいものがある。そのような状況の中で私は部落出身であることをひたすらに隠し続けた。特に心から信頼し、感謝し続けた下宿のおばさんに対して、お世話になった大学2年の4月から大学4年の3月卒業までの3年間、本当のことを隠し続けて京都を去ったことが、今も悲しい思い出となっている。

「おばさん、私はおばさんが言われる生まれがちがうという人たちと同じ立場の人間なんです。私の父親は、私の母親は、厳しい差別の中を世間から笑われながらも、ひたむきに土方をして泥にまみれて、私たち4人の兄弟を精一杯に育ててくれた。私は私の両親や、祖父や祖母を苦しめてきた部落差別をどんなことがあってもなくしていきたいと思っていますんです。」

そんなことが言えたらどんなに自分は救われるだろうかと何度も思った。京都の下宿を引き払う時に、父親が荷物を運ぶために親戚からトラックを借りて私の下宿へ来た。父親が京都のこの下宿を訪れたのはこれが初めてだった。我々兄弟姉妹のために休む事なく働き続けた父親の姿をこの時しみじみと思った。父親は3年間息子がお世話になったお礼にと、スダチの苗木2本と、キンカンの苗木1本をトラックの荷台につんで来た。そしておばさんの住んでおられる庭先に、

息子がお世話になった記念にと植えていった。

あれから11年の年月が流れている。今も私の娘を連れて挨拶に寄せていただくことがある。その時、おばさんは父の植えていった苗木の話をしてくれる。昨年も、「スダチの実はなりませんけど、キンカン立派に実をつけるんですよ」とうれしそうに話される。

私の父、そして私を部落の人間と知ったとしても、おばさんはその苗木を無残に引き抜くことは決してないと信じる。人の心を揺り動かし、やがて変容させていく力が私たちにはあると思う。それは人間のひたむきに誠実に生きる姿であり、優しさであり感謝の心であり、人間の本当の豊かさではないだろうか。

私は苦労しながら、自分のあらゆるものを子育てにぶつけてくれた両親に応えるためにも、教師になろうと思った。そして、私のように揺れながら生きていくであろう部落の子どもたちに応えていく教育、同和教育をしていきたいと思った。しかし、その意気込みだけでは、確かな実践にはなっていかなかった。常に思いが空回りしていく。そしてどこかで自分を押さえていく。自分が傷つくことを恐れていた。

私を部落の人間と知っている人たちとの話し合い、語らいには熱っぽくなるが、私のことを部落出身と知らない人との会話では、常に一歩引いた弱さがあつた。私は部落の人間でありながら、心の奥底では、部落を恥ずかしがり部落を差別していたんだと思う。

そんなとき、県同教から高知で開かれる部落解放の全国集会に参加してみないかという話があつた。当時同和教育主事でもない新任の教師である私がそのような大会に参加することは、当時勤務していた中学校の約40名あまりの先生方に、「自分は部落の人間です」と宣言する意味もあつたと思う。家族に「3日ほど高知である同和教育の研究会に行ってくるから……」と話すと母は、「おまはんがそんな会に出ていくけん、みんな腰を引いていくんと違うん」と言う。その言葉と先輩の先生に「同和教育主事でもないのに、どうしてそんな会に行くのか」と問われたことに明確な答えができなかった自分が、とても中途半端で惨めに思えてきた。他の先生方にも3日も学校をあけてという思いをもたれている。そのことが大きな負担であつた。「いつそ出張、やめたらか」とも思う。そんなうじうじした中での研究大会参加であつた。

しかし、私はその大会でとてつもなく大きいものを手に入れることになる。それは大会の第1日目の夜開かれた全国部落出身教職員の会であつた。部落というものを背負い、苦しみながら、そして揺れながらも、精一杯に部落解放を願い同和教育に取り組んでいる、そんな教師が全国にたくさんいる。その姿が私に大きな喜びを与えてくれた。そしてその会で奈良県の出身の仲間が提出してくれた資料の中に記されていた西口敏夫先生の「よろこび」という詩が、私を今まで思いもよらなかった世界へ導いてくれた。

《よろこび》

西口 敏夫（元全国同和教育研究協議会委員長）

部落で生まれ、  
部落で育ち、  
部落でくらし、  
運動と教育にいのちをかけて60年。

或るときは、烈火の叫びとなり、  
或るときは、草にすだく虫の声となり、  
或るときは、鋭く差別の事実に取り、

或るときは、静かに差別の矛盾を訴えた。

このみちは、きびしい荊の道なれど、  
この道はわが生涯のつとめなり。

ゆくさは、幾多迫害ありとても、  
この営みは、わが終生の、運命なり。

しかして、この営みは、  
わが生命の生きがいにして、  
わが生命のよろこびなり。

（『水平社宣言讃歌』より）

まさしく感動であった。胸の奥からこみ上げてくる感動、私はこの詩がある限り、どんな苦しい状況に立たされようが、頑張ることができると思った。その会の間中、「よろこび」という詩をわが胸に刻みつけるかの如く繰り返し繰り返し読み続けていた。

徳島県から共に参加していたK先生が「よろこび」の詩を見てぼつりとつぶやいた。「この境地にはなれんもんじゃ。こうなれたらなあ。」出身の仲間の悲しみに触れた思いがした。私は「みんな悲しみの中から精一杯に頑張ろうとしている。頑張ってきたんだ。」と自分自身に言い聞かせた。

会が終わったのが、9時30分ぐらいであった。高知県の出身の仲間が飲みにいこうと誘ってくる。そんな声がたまらなくうれしいものであった。

宿舎に帰り、「よろこび」の詩の入っている資料を開き、体中からほとばしるような喜びをかみしめながら、持っていた県民手帳に一字一字を心に刻みつけるように記していった。それ以来8年が経過しているが、毎年新しい県民手帳に「よろこび」の詩を刻みつけ続けている。

※

この原稿は私のすべてであり、私の本当の思いである。この思いを著わすまでに私はどれだけ苦しんできただろうか。頭ではわかっている。差別されるのが恥ずかしいのではない。差別することが恥ずかしいのだ。しかし、そのことを自らの生き方として取り組んでいる部落出身教師は少ない。私自身数多くの部落出身教師と中学時代出会ってきた。その先生方の口から部落に生まれた口惜しさやしんどさを聞かされたのは教師になってからである。むろん私の中学時代はもっともっと厳しい現実があっただろう。私は目の前にいる生徒たちに、私の本当の思いをやっとぶつけられるようになった。それは共に同和教育に自分のすべてをぶつけて取り組んでいく同僚と出会ったからである。板野中学校の3年間の営みがまさしくそうであった。

全体学習という取り組みが継続されて取り組まれている。これほど教師にとって厳しい授業はない。しかしその授業に前向きに真剣に取り組んだ教師のほとんどが、その授業の喜びを口にする。それは自らの本当の思いを必死に生きる中から生まれる本物の仲間との出会いがそうさせてきたんだと思う。

昨年度まとめた「峠を越えてⅢ」の中に、吉住先生が「今ようやくここに立って」という原稿を書かれた。吉成先生が「ともに歩んだ峠への道のりを、今振り返って」という原稿を書かれた。また、阿部先生が「人間として生きる」という原稿を書かれた。その原稿から私はとてつもない

勇気をもらい、今年度も教壇に立ち、私の本当の思いを3年A組の生徒たちにつづけている。生徒たちが全体学習を通して仲間のすばらしさを語るように、私もこの先生方と取り組んだ同和問題学習を通して、人間が人間として生きていくために、いかに仲間というものが大切であるかを学び続けてきたと思う。そんな思いの中で、この主題設定の理由を書いている。

今年度も、3年生を担当することになる。4月8日の学級開きには、格別の思いがこみあげてくる。その学級開きを受けての『峠』の学習、家庭訪問、どれをとっても、同和教育に貫かれている。毎朝、8時に教室へ行く。教卓の上には、生徒の思いがいっぱい詰まった生活ノートが提出されている。一日のスタートの自主学習、職員の打ち合わせまでの15分間を生徒たちと過ごす。ひたむきに問題を解く生徒、思いのいっぱい詰まった生活ノートに精一杯の返事を書く私、毎朝の教室の空気は実にさわやかである。

4月18日、PTA授業参観の日に取り組んだ『峠』の授業は、ビデオカメラの廻る特異な緊張感の中を生徒たちはひたむきに思いを語っていく。まだまだ自分から挙手できなかった生徒もいたが、クラス全員の思いが語られた授業となった。その授業記録を掲載しておきたい。

※

【授業記録】学級開きの授業として

主題「中学最終学年のスタート、今、峠に立つて」

資料 詩 『峠』 (真壁 仁)

1993年4月18日(日) 《PTA授業参観》

板野中学校3年A組 授業者 森口 健司

T1: 仲間と共に本当の思いを語り合う喜び、人間としての存在を確かめ合う喜び、人間としてどう生きるのか、どのように生きていくのか、生きるということを学び合うということは本当にすばらしいことだと思います。3年生になつての初めての授業参観、私はこの授業に『峠』の詩を選びました。私のこの『峠』の詩に込めた願い、私のにとってこの『峠』の詩が何であり、私がこの『峠』の詩によってどのように生かされてきたか。私のこの詩に寄せる思いを皆さんに精一杯語りながら、今人間として何が大切であるかを求め合いたいと思います。

T2: みんなの思いが自分の言葉で語れて、私はこの授業に参加したんだ、3年A組の仲間の一人なんだと実感できる。そして自分にはすばらしい仲間がいるんだという喜びがこみあげてくるそんな1時間にしたいと思います。『峠』の詩をもう一度読んでみます。

※

峠

真壁 仁

峠は決定をしいるところだ。

峠には訣別のためのあかるい憂愁がながれている。

峠路をのぼりつめたものは

のしかかってくる天碧に身をさらし

やがてそれを背にする。

風景はそこで綴じあっているが

ひとつをうしなうことなしに

別個の風景にはいつてゆけない。

大きな喪失にたえてのみ  
あたらしい世界がひらける。  
峠にたつとき  
すぎ来しみちはなつかしく  
ひらけくるみちはたのしい。  
みちはこたえない。  
みちはかぎりなくさそうばかりだ。  
峠のうえの空はあこがれのようにあまい。  
たとえ行手がきまっても  
ひとはそこで  
ひとつの世界にわかれねばならぬ。  
そのおもいをうずめるため  
たびびとはゆっくり小便をしたり  
摘みくさをしたり  
たばこをくゆらしたりして  
見えるかぎりの風景を眼におさめる。

※

- T 3。 3年生になったときの気持ち、また3年生になってこの『峠』という詩に出会ったときの気持ち、その思いを重ねて、みんなの思いを語り合いたいと思います。初めての道德の授業、参観授業ということで緊張もしているだろうけど、みんなで頑張ってみんなの胸の中にある思いを語り合いたいと思います。一人一人が本当の思いを語り合える関係というのは本当に嬉しいものです。みんなのつながりをすばらしいものにしていくためにみんなで頑張り合いたいと思います。それでは挙手してください。
- C 1(女) 3年生になって受験のこととかいろんな不安がいっぱいあるけど、みんなで励まし合いながら頑張っていきたいと思います。私たちは本当に思うことを言い合わなければ、心は通じていけないという気がします。まだ始まったばかりでこれからいろんなことがあるだろうけど、みんなで頑張っていきたいです。
- T 4。 今のTさんの思いにつなげてください。
- C 2(男) ぼくは始業式の日、2年生の楽しかったこととか、いろんな思いがありました。それでこの教室に入ってくるとき、一緒になりたかった友だちとかいるかなあと不安がいっぱいあったけど、僕はこれも長い人生を生きていく上で一つ越えなければならない峠だと思っています。この1年、中学3年という人生の大きな節目をこの『峠』という詩から感じ取ったものを大切に頑張っていこうと思います。
- T 5。 頑張りましょう。みんなの思いをつなげてください。
- C 3(男) 3年になっていろんなことが迫ってきて、2年の方が気楽でよかったという気持ちになったけど、3年生は自分にとって今までにない重要な意味を持っていくと思うので、この詩のように3年生という峠を一步一步登り詰めて行くんだという気持ちで、気を引き締めて頑張っていきたいと思います。
- C 4(女) 私もち3年生になって新しい友だちとうまくやっていけるかとても不安でした。今はどうしても2年生のクラスでのいろいろな風景が頭の中にあるけど、私は今というときを大切に

してこれからの3年生という道のりを精一杯に頑張っていきたいと思います。そして3年生としての1年間の道のりを登り詰めたとき、私の心の中に3年生での風景がいっぱい詰まっているような、そんな3年生にしていきたいと思います。

C<sub>5</sub>。(男)2年生のとき仲のよかった友だちと違うクラスになって、とてもこのクラスが嫌だったけど、いつまでも過去のことをうじうじ考えていたのでは、成長していくことはできないと思うし、これからの3年生という時間を自分にとって最高のものにして行くために、今の気持ちを切り替え、先生がいうように2年から3年という峠を立派に越えて、自分にとって最高のライバルとなり、仲間となっていくような友だちをこのクラスでもつくっていきたいと思います。

C<sub>6</sub>。(女)私は3年A組になってわずか10日ぐらいしかたっていないけど、新しい友だちと仲よくなることができました。今からその新しい仲間とこの1年間で悔いの残らないものにしていききたいと思います。

C<sub>7</sub>。(女)私は『峠』という言葉のイメージとして一番に思ったのは高校入試という峠ということです。これは今まで私が経験したことのないことなので大きな不安があります。先輩たちから3年生は大変だということを今までに何度となく聞かされ、3年生にはなりたくないなあと思ったこともありました。この峠を越えていくためにはいろいろな困難があると思うけど、一步一步、今自分にできることを頑張っていけば、峠を越えられると思います。先生が言うように「継続は力なり」だと思います。

T。仲間の思いにつなげていきましょう。2年生のクラスがよかった。このクラスと別れたくない。そんな思いの中で3年生を迎えた人もいると思います。2年生のクラスの仲間と同じクラスになることを願っていたのに、現実とはそうではなかったという人もいると思います。また、今まで一緒にのクラスになれなかったけど、3年生になって初めて同じクラスになれた喜びをかみしめ合っている人もいることでしょう。この『峠』という詩の一節に、「ひとつをうしなうことなしに別個の風景にはいつてゆけない。大きな喪失にたえてのみあたらしい世界がひらける。」という部分があります。この部分と2年から3年へと進んだみんなの思いと重ねてみてください。「ひとつをうしなうことなしに別個の風景にはいつてゆけない。大きな喪失にたえてのみあたらしい世界がひらける。」という場面について、みんなが思うことを出し合いたいと思います。

C<sub>8</sub>。(女)私は3年生になることによって、2年生のいろいろな場面や情景と別れてきたんだと思います。そう考えると2年から3年になるということは、峠を越えたということになるんだと思います。でもなんとなく峠を越えてきたようにも思えてきます。自分自身が精一杯生き、峠を越えてきたんだと思えるように、これからは頑張りたいと思います。Tさんが言うように1年後には高校入試という峠が待っています。この峠はぼんやり歩いていたのでは越えられないと思います。自分の一步一步の歩みがどうであるかを点検しながら、自分に課せられた一日一日を頑張りたいと思います。

C<sub>9</sub>。(女)私もまだ3年生の風景になかなか入っていけないところがあります。2年生の友だちと別れてしまったのは悲しいけど、それに耐えて今の3年A組の仲間が増えていくように頑張りたいと思います。

C<sub>10</sub>。(男)俺はあまりみんなのことはわからないけど、このクラスになったのは何かの縁があったんだと思います。俺にしてみたらみんなと出会ったのは何かの縁だし、みんなにとっても俺

と出会ったことは何かの縁だと思います。まだ少ししかたっていないけど、みんなと同じクラスでよかったと思うし、森口先生が担任でよかったです。そして、この1年間を最高によかったと言える1年間にしていきたいと思います。

C<sub>11</sub>(男)僕は3年生になって2年生のときの友だちだった子と離れてしまったけど、このクラスで1年間頑張って卒業するときには、このクラスでよかったというようにしたいです。

C<sub>12</sub>(男)2年から3年になって失ったものは大きいと思うけど、新しい世界でまた生まれるのも大きいと思います。2年生のときに学んできたものを糧として、この3年生の一日一日に生かしていきたいと思います。

C<sub>13</sub>(女)1年と2年では苦労することも少し変わっていきました。2年生になったときは1年より大変だと思っていたけど、過ぎてしまえばどれもこれも美しい思い出に変わってしまったというか。今は2年生に帰りたいという気持ちがあります。でも過ぎ去ったことに心を奪われて、今を精一杯に生きることを忘れてしまったら、2年生でのが自分がの中に生かされてこないと思います。生きていくということは今2年生から3年になって思うように、昔はよかったという思いの繰り返しだと思います。でもそれだけではよりよく生きていくことにはなっていないと思います。私は私自身の生き方をすばらしいものにしていくために、2年生までのことをバネとして、3年生を頑張っていきたいと思います。

C<sub>14</sub>(男)僕もみんなと同じで、3年生になって今までの友だちとクラスが別々になってしまったけど、また新たに3年A組というクラスで出会えた友だちを大切に、この1年間自分を精一杯伸ばしていきたいと思います。

C<sub>15</sub>(女)2年生から3年生になって環境も少しづつ変わってきました。私は新しい友だちと出会うことができ、この3年生を新しい気持ちでスタートすることができました。新しい友だちと励まし合って、高校入試という大きな峠を越えていくことができるように、みんなで精一杯頑張りたいと思います。

C<sub>16</sub>(女)今の私は心の中がすごく不安になって、2年生のときの思い出が心の中に浮かんできるときがあります。あのときはよかったなあと2年生の頃ばかりが自分を支配するときがあります。いつまでももうじうじ過ぎさった2年生のことばかり考えているようでは、これからの大切な峠を登っていくことができないと思ってあせってもきます。そんなとき先生が4月8日の始業式の日に話してくれた『峠』の詩のことを考えます。この詩は今の私にぴったりくるように思うし、いつまでも私の心の中に生き続けると思います。『峠』の詩と出会ったこの1年、3年A組のみんなと卒業するまで頑張っていきたいと思います。

C<sub>17</sub>(男)僕も3年生になって仲のよい友だちとクラスが別々になって、3年生のクラスで頑張っていけるか心配だったけど、みんなの意見を聞いて僕も頑張っていけそうな気がしてきました。

T<sub>7</sub>『峠』の詩についていろんな思いが膨らんでいきます。みんなでみんなの思いを確かなものにしていきましょう。語り合うことから大きな喜びが見つかっていきます。一人一人の思いを出し合っていきましょう。

C<sub>18</sub>(女)2年生のときは修学旅行があったし、海にも行けたし、とても平和な日々を送ることができたと思います。でも3年生になったらいろんなことがあって、もっともっと頑張っていかなければいけないと思います。この1年の頑張りはこれからの私の人生にとって大きな励みとなっていくと思うので頑張りたいです。



- T<sub>9</sub>。受験というものが、どうしてもみんなの心の中にのしかかってくると思います。昨年度の卒業生が言った言葉に、「先生、受験勉強って、こんなに苦しいとは夢にも思いませんでした。」という言葉があります。この言葉は成績優秀で板野高校に推薦で合格した生徒の言葉なんですけど、とても心に残っています。でもその生徒はこうも言います。「先生、今までの人生の中でこれほど頑張った1年はなかったし、これほど成長した1年もなかったと思います。」本当に生きるということはそういうことなんだと思うんです。みんなはどう思う。
- C<sub>19</sub>(女)やっぱり3年になって受験というものが目の前に近づいてきたという感じがあるけど、そのことを心配するより、今を大切に頑張っていくことが今の私たちに必要なんだと思います。
- C<sub>20</sub>(男)僕も高校に入るということは、今までで一番大きく険しい峠に差し掛かることだと思います。これからも自分のために頑張って越えていきたいと思います。
- T<sub>9</sub>。みんなもうすでに15歳になった人、これから15歳を迎える人、15歳という人生の節目に立って、15年間生きてきた中で最もみんなの頑張りが、問われる瞬間を迎えることになります。自分自身がそれを登らなければどうしようもない。自分が頑張らなければ、変わりに試験を受けてくれることはない。そういう状況をみんなは味わっていきますよ。頼りになるのは自分一人なんだということを実感もしていきます。助け出してくれる人は誰もいない。自分で歩かなければどうにもならない状況を認識していくと思います。
- T<sub>10</sub>。でもみんな自身の頑張りを支え励ましてくれる人がいっぱい存在します。それが毎日顔を合わせていく3年A組の仲間だと思うんです。夜、家庭学習に、受験勉強に疲れてもう勉強をやめようかと思ったとき、あいつもまだ頑張っているだろうと思う。そう思ったら後30分頑張れるんです。また、テレビやゲームやいろんな誘惑に負けそうになったとき、大切な友だちの頑張りを思うんです。あの子は今頑張っているだろう。あの子と頑張ってよかったなあとはんまに喜び合うために頑張ろう。その思いが2時間、3時間の集中した学習につながっていくんです。
- T<sub>11</sub>。そんな関係が本当の仲間の関係であって、人間が人間として尊敬し合い、信じ合う生きるとなっていくんです。そしてその中でみんな自身の頑張りが、みんなの大きな力となっていくんです。みんなが生きていく中で仲間という存在はとてつもなく大きいんです。みんなは一人では生きられない。1年後みんながそれぞれの進路に進んでばらばらになっても、このつながりというものは、みんな自身の生き方に確かな指針を与えていきます。
- T<sub>12</sub>。共に思いを語り合った共に頑張った仲間というのは、切れないんです。その絆はみんなの心の中にずっと生き続けるんです。そんな絆を深め合う1年にしていきたい。そしてそういう生き方を確かなものにしていく『峠』の詩であってほしいと思います。
- T<sub>13</sub>。どうですか。『峠』の詩。3年生のスタートラインに立った今。この詩を心静かに読み返していく。みんな自身の言葉で、みんな自身の本当の思いをこの詩に寄せて語っていきましよう。
- C<sub>21</sub>(男)僕は小学校から柔道をやってきたけど、一つ一つの技を覚えるのも、僕にとって一つ一つの峠を越えているような感じでした。先輩たちにいろんな技を教わって、先輩たちの励ましで今まで柔道という峠を越えてきたと思うけど、僕は先輩たちとしてきた厳しい練習を僕のこれからを頑張っていく自信にして、県大会優勝という目標に向かって頑張っていきたいと思います。

- C<sub>22</sub>(女)私はやっぱり受験のことが一番心に思うことなんだけど、卒業した先輩たちの合格発表の翌日、テニス部の先輩たちが練習にきてくれたんだけど、先輩たちは受験勉強は本当に大変で、部活の練習をしているときが一番いいよと言っていました。先輩たちは受験という峠を越えて全員目標とする進路に進んでいったので、私たちも今年の合格発表の日には、全員が峠を越えた喜びを讃え合うことができるように、これからの一日一日を頑張っていきたいと思います。
- C<sub>23</sub>(女)さっき柔道の話があったけど、私も柔道部に入って最初はものすごく不安があったけど、先輩たちがいろいろな技とかを教えてくれることがうれしかったです。やっぱりS君が言ったように、柔道の技一つ覚えるのも一つの峠を越えることになっていると思います。私はこの1年、いろんな峠をしっかりと越えていきたいと思います。
- C<sub>24</sub>(女)3年生になって私は仲のよかった友だちと離れてしまいました。でも今はこの詩のように、頑張っていけそうな気がしてきました。私自身が大きく成長していくことができるように、これからの峠を苦しいことがあっても、悲しいことがあっても、それを乗り越えて精一杯頑張っていきたいと思います。
- C<sub>25</sub>(女)私は2年生のときの友だちと同じクラスになれなかったけど、この『峠』の詩を心の支えとして、今の自分がもっと好きになるように頑張っていきたいと思います。
- C<sub>26</sub>(女)私も2年生のときにいつも一緒にいた仲のよかった仲間とばらばらになってしまって、実はずっと不安があったけど、今のこのクラスだったらいけるような気がしてきました。
- C<sub>27</sub>(男)今、僕には2年の思い出と3年になっての希望との二つが見えます。2年のとき仲のよかった友だちとは一緒にのクラスになれなかったけど、3年になって新しい友だちと一緒にすることができたし、今とてもやる気があります。3年生になって本当によかったと思えるように頑張りたいです。
- C<sub>28</sub>(女)3年というのは、やっぱり高校入試というのが一番最初に思ってしまうことです。この峠を立派に越えていけるように、このクラスで精一杯頑張りたいと思います。
- T<sub>14</sub> みんなの思い、語るほどに熱いものになってきました。みんなが繰り返し繰り返し語っていき、思いをつないでいくことがこのクラスの雰囲気や和やかな温かいものにしていきます。語るとは、人間と人間を信頼という絆でつないでいくスタートです。3年生になって初めてのPTA授業参観である。この時間を最高にすばらしいものにしていきましょう。
- C<sub>29</sub>(男)始業式に学校へきたときは、やっぱりショックでした。でもO君が僕たちのクラスに入って、3年生として楽しくスタートを切ることができました。3年生になって新しい夢もできたので、新しい仲間と大きな目標に向かって頑張っていきたいと思います。
- C<sub>30</sub>(女)「大きな喪失にたえてのみ新しい世界がひらける」というところで、私は2年生でこのことを私のこれからを頑張っていく糧として、これからの中学3年生を精一杯に頑張っていこうと思いました。
- C<sub>31</sub>(女)まだ私には2年生のときの仲間にも、まだ引かれるものがあります。いつまでもくよくよするのではなく、しっかりと中学2年という峠を越えて一回りも二回りも成長していきたいと思います。そして3年生としてこの1年を今までの人生で最高だったと言えるようにしたいと思います。
- C<sub>32</sub>(男)僕も3年生になった今は、2年生のことばかり振り返っているわけにはいけないので、この3年A組というクラスで、自分の最高の力が出し切れるように頑張っていきたいと思い

ます。

C<sub>33</sub>(男)僕もみんなと同じで3年生として受験に打ち勝って、この1年を将来の夢につなげていきたいです。

C<sub>34</sub>(男)峠を登るということは、坂を登り坂を降りることの繰り返しだから、坂を登っているときはすごく苦しくてもうやめてやろうと思うこともあるだろうけど、頑張っってその坂を登り詰めるとものすごく気持ちがいいと思う。この気持ちを味わうために峠を登るんだと思います。高校入試も峠と一緒にだと思ふ。だから僕らはちょうど坂を登っている最中だから、後から後悔しないように精一杯頑張りたいと思います。

T<sub>15</sub> みんなは今までいろいろな峠を越えてきた。今年は今までの中で最も厳しい峠に立つ人も出てくるでしょう。でもそれを越えたら、またみんなは心豊かなより大きな人間になっていくだろうし、すばらしい世界が開けていくと思うんです。今のN君の思いにつなげてください。

C<sub>35</sub>(女)3年生になって私は受験というものを間近に感じるようになりました。今年初めて入試というものを経験するので、どのように勉強を進めていったらよいかわからなくて不安なことが多いけど、仲間と支え合うことを通して、この受験という峠を越えていきたいと思います。

T<sub>16</sub> 本当の思いを語り合える、本当のことを言い合えるそんな関係をつくっていく。その中で本当に確かな頑張りをみんなですつかにしていきたいと思うんです。この限られた時間をみんな大切にしましょう。

C<sub>36</sub>(男)僕は今峠に立っていると思うので、今までのことを土台にこれからしっかりと勉強していきたいと思います。

C<sub>37</sub>(男)俺も今峠という言葉の通り、そこに立っていると思います。新しい学校になって、不安もありました。でも皆とやっていこうという気もあります。また、前の学校の友だちのことを思い出すこともあります。けど、この詩を読むと、「すぎ来しみちはなつかしくひらけるみちはたのしい。」とあるけど、この言葉で3年A組のみんなと楽しくやっていこうという目標ができたように思ふ。この目標を達成するために、この1年頑張ろうと思います。

C<sub>38</sub>(男)峠というのは僕は、自分自身に勝って、それで乗り越えていくものだと思います。朝寝坊でなかなか起きれないとかいうのも、自分に負けている姿だと思います。峠をしっかりと登って自分自身、いろんなことに打ち勝っていける人間になりたいです。

T<sub>17</sub> 思いをどんどんつなげていきましょう。みんなで語り合えば50分という時間がものすごく短く感じられる。これはみんなの先輩たちと取り組んだ道徳や同和問題学習の授業を終えるたびに出てきた言葉です。みんなが主役であるこの時間、自分の思いをクラスの仲間に伝えることができた授業だったと、心から自分自身の頑張りを讃えてやれるような思いに自らをしていきましょう。

C<sub>39</sub>(男)3年になって僕たちには、高校入試という大きな目標ができたと思います。僕が思うことなんだけど、僕たちは目標があるから一日一日、前進していくことができると思うんです。また目標があるからこそ、どんな高い峠でもあきらめないで登っていくことができるんだと思います。

C<sub>40</sub>(男)僕はこれからもしろいろとくじけそうになったりするかもしれないけど、そういうときに3年A組のみんなと助け合ったり、支え合ったりしていくことができたならなあと思います。

C<sub>41</sub>(女) 3年生になって受験という大きな峠があるけど、3年A組の仲間と一緒に頑張って、最後にみんなでよかったと言えるようにしたいです。

T<sub>18</sub> 今私はこんな気持ちでいます。僕は私は今こんな気持ちでいるんだという本当の思いが、心の底から言い合える教室でありたいということです。4月8日、学級開きの日、この教室は昨年まで資料室だった関係でものすごくきたなかった。4月8日からみんなが教室をふきまわってくれた。今もO君やE君たちが一生懸命掃除をしてくれている。みんなでこの教室をひたむきに磨いていきたい。そしてすべての面において輝いたクラスにみんなでしていきたいと思うんです。そしてその輝きをみんな一人一人がこれからの人生、大きな峠を越えていくエネルギーにしていけたらと思います。みんなの思いつなげてください。

C<sub>42</sub>(女) 私は『峠』という詩はすばらしい詩だと思います。いろんな人と出会い、いろんなことと巡り合って、一日一日を前進していくことができればと思います。でもいろんな困難にぶつかっていくだろうけど、困ったところはゆっくり歩いて、止まることがあってもまた歩き出していこうと思います。

C<sub>43</sub>(女) 私は本当のことを言うと、2年生のときは知っている人が多いたのでよかったけど、3年生は知らない人ばかりでとても不安でした。でもみんなの意見を聞いていたら私も頑張っていけそうな気がします。この詩を大切にしていきたいです。

T<sub>19</sub> 後ろの掲示板に、みんなの「3年生になって」という作文を掲示してあります。実にみんなは思いが豊かです。みんなのそんな豊かさを分かち合って、一人一人の豊かさをより確かなものにしていきたいと思います。それがみんなが学校にくることの意味だと思います。学び合うことの意味だと思います。本当に頑張りたいです。みんなの思いつなげてください。

C<sub>44</sub>(女) 先輩たちの卒業式がとても心に残っています。A先輩の答辞は今でも目を閉じると心の中によみがえってきます。私たちも1年後にはあの先輩たちと同じように卒業していきます。そのときは今以上に『峠』ということの意味を実感するようになると思います。先輩たちが感動的な最後の全体学習をしたように、また感動的な卒業式をしたように、私たちもこの『峠』の詩を心の支えとしてこの1年間頑張って、卒業証書をもらうときは最も輝いていたと思います。

T<sub>20</sub> あの感動、あの思い。それは一生懸命生きたもののみが、心の底から実感していくものだと思います。高校入試が終わった日、夜9時を過ぎた頃だったと思います。卒業生のH君から電話がありました。最後の全体学習をしてほしいという電話でした。僕やはこの全体学習でつながり、全体学習のときに自分を見つめ自分を取り戻すことができた。だから最後にどうしても全体学習をやってほしいという電話でした。あの最後の全体学習は、卒業生のH君を始めとする先輩たちの切なる願いで実現したものでした。彼らは学校全体であの全体学習をやりたかったのに、それを実現することはできず3年生だけの全体学習になったわけですが、みんなの中にはあの全体学習を見た人も何人かいると思います。あの授業で語られたこと、あの授業で吹き出てきた先輩たちの涙。あの場面は忘れません。あれこそ生きた授業なんだと思いました。そして、あの授業を受けて卒業式でのAさんの答辞が、卒業生全体の中にこみ上げる感動となって広がっていったと思います。Aさんが最後に訴えた思い。「同和問題学習に取り組んでいた私たちは輝いていたと自信を持って言うことができます。」そして「私たち卒業生はこの差別と闘おうとする炎を今、在校生の皆様に託します。」と訴え

たこと。今も鮮やかです。私たちはこの中学3年という時代を自らに課せられた大いなる峠を越えるために、ひたむきに生きたんだと胸を張って語れるように、つながり励まし支え合って一人一人が確かな歩みを続けていきたいと思います。時間がきました。みんなの言葉でこの授業を終わりたいと思います。だれかありませんか。

C<sub>45</sub>(女)3年生は今まで経験したことのない壁にぶつかったりで、大きな坂を登っていくことになっていくと思います。3年生という峠路を今歩み始めたところだけど、いろんな思いに引き止められて、足を踏み入れることが恐くなるかもしれないけど、一生懸命に歩き続けることをこれからの目標として頑張っていきたいと思います。その頑張りを確かなものにしてくれるのが、仲間の存在だと思います。自分というものをしっかりと自覚しながら、仲間との絆を大切に頑張っていきたいと思います。

T<sub>21</sub> 本当につながっていきましょう。あなたと出会えてよかった。お前と出会えてよかった。そんな思いにしていって1年にしていきたい。頑張りたい。終わります。

※

以下、その翌日の生活ノートのいくつかである。

※

今日の参観授業、発表できてうれしかった。一番に手を挙げて発表したのは、お母さんが来ると思っていたので、お母さんが来ていないうちに発表しようと思っていました。2回目の発表は、自分でも何を言っているのかわからなかったけど、最後まできちんと言えたと思うので、よかったと思います。

今まで部落差別についてやいろいろな差別について学んできたけど、そのことがいろんな面役に立ってきたと思います。全体学習で発表したときも緊張したけど、一度発表すると慣れるもので次から次へと発表できて、自信ができました。今までの全体学習で学んできたものには大きなものがあると思います。

峠には大きい小さいがあるけど、自分の生活の身近にあるものだと思いました。私たちにとって受験は確かに大きな峠だと思うけど、これからの生活の中で直面していく問題を一つ一つ乗り越えていけば、越えられるものだと思います。私は受験ということばかりを考えて、他のことがおろそかになっていかないようにしようと思います。今日、M君が言っていたけど早起きも峠なんだなあと思いました。そんなM君の発言は楽しい気持ちにしてくれました。

私も朝はなかなか起きられなく、目覚まし時計が4個もあるのに、止めてはまた寝てしまいます。峠を越えるということは考え方を換えればすごくおもしろいものだと思います。最近はず2年の頃とかの生活よりずっとハードで、勉強はもちろん、宿題はしなければならないし、御飯、風呂、寝ることなどもしなければならないので大変だと思います。でもきちんとしたいので頑張ろうと思います。また、今の自分を見つめて、今という時間は何に使うべきなのかを考えたいです。

昨日、黒板に『峠』の詩を書いていたとき、Kさんが手伝ってくれました。2年で同じクラスだったけど、あまり話をしませんでした。優しい子なんだと思いました。今日、Kさんが発表したとき、私もうれしかったです。これは何においても同じで、友だちが頑張っているから自分も頑張れると思う。身体にも気を配って頑張ろうと思います。(A子)

※

今日、道徳の時間に峠の詩を書いて、そのバックに絵を書いてある旗を見て、すごいと思ったし、先生の顔もなんだかうれしそうな表情でした。それに何年か前の旗なのに、綺麗なままで驚

きました。これも私たちの先輩の思いや峠についての考え方が込められているから絶対に傷まないんだと思います。

また去年の先輩が初めて『峠』の詩について語り合った文章を読んだ中で、ブラスバンド部の先輩の文章が心に残りました。

《私は今まで手を挙げて意見を言うことで、みんなに「ええかつこうしょんと違うん」と、陰でこそそ言われるのが一番つらかった。自分から手を挙げて意見を言ったりした時、みんながその思いをわかってくれるクラスだったらいいなと思う。自分もみんなの意見や思いがわかるように努力したいと思う。》

先輩が陰で嫌なことを言われたりしたことがあったなんて、本当に考えられませんでした。部活動では笑顔が多くて、いつも私たちを励ましてくれていたのに、つらいこともあったんだなあと読んでみて初めてわかったこともありました。やっぱり私は後輩として表面だけを見ていたと思います。

それと先生の話で、先生が家庭訪問でいろいろ話をして、先生の話に感動して涙を流したおばあさんが、先生が部落の人とわかったとたんに急におばあさんの流していた涙が消えてしまった話や、先生の友だちの結婚がうまくいかなかった話から私は、部落差別があるから間違った人間がでてくるんだと思いました。（B子）

※

今日初めて、3年A組で意見を出し合って、みんなの思っていることを聞くことができずごくよかったと思う。でも私は自分から発表することができなかった。周りのみんなが語っていることを聞いているだけではいけないと思った。

今回の峠の授業、一人一人の意見を聞く中でみんなが思っていること、考えていることは一緒なんだと思った。みんな今は2年生のことをいろいろ思っていると思うけど、3年A組というクラスでこの仲間と出会えたのも何かの縁だと思う。中学最後の峠である中学3年という峠を登り詰めたとき、自分がどれだけ成長しているかを楽しみに、これからの一日一日を新しい仲間と精一杯に頑張っていきたいと思う。またこのクラスの仲間と共に今まで以上に同和問題についてしっかりと学んでいきたいと思う。

今まで私は全体学習をしても、前もって学習プリントにまとめた内容を読み上げるだけだった。これからは学習プリントに書いたことをそのまま言うのではなくて、真正面を向いて自分の本当の思いをはっきりと語っていけるようになりたいと思う。綺麗事の発言で終始してきた自分ではなく、本当の自分をさらけ出すことを一番の目標にしていきたいと思う。（C子）

※

今日の授業参観での『峠』の学習、『峠』という詩は私たちに口では言い表わせないものを与えてくれた気がします。今までの道のりとこれからの道のりを思うと、気が遠くなるような気がして、「このままでいいのか。あれでいいのか。」などと不安な気持ちになります。しかし、「友だち（仲間）も、今同じように峠に立って、私と同じ気持ちでいるんだ」と思うと少し励まされます。そんなとき私は「人間は一人では生きていけない」という言葉の意味がわかるような気がします。もし自分一人が不安や心配の気持ちを抱えているとすれば、だれに相談していくのでしょうか。友だちに相談する、両親に相談する、先生に相談するといったように、どこかで絶対人の力をかり、知恵をかりないと生き抜いていけないと思います。

それと同様に峠というのも、人生の中で自分のあり方を繰り返し見つめ直していく機会であり、

私たちにとってなくてはならないものだと思います。峠を登り詰めるまでの道のりは人さまざまだと思うけど、一人一人が生きる目標として最終的に目指す峠は同じだと思います。

私だけの考えなのでピン트가ずれているかもしれないけど、私たちが目指すものは、最終的に「よりよく生きる」ということだと思います。そこに行き着くまでの峠には、楽しかったり苦しかったりで、私たちはさまざまな思いの中で揺れていくと思うけど、私は峠とは私が本当の人間としてよりよく生きるために、人生の中で避けて通ることができないものだと思って、頑張っていこうと思います。

私は今までにも、いくつかの峠と出会ってきたけど、くじけそうになったり、弱音を吐きそうになったりして、少しでも楽な方に進もうとしてきました。でも、これからはせつかく峠という詩に出会ったのだから、このことを生かしていつでもどこでも胸をはって頑張っていけるような勇気のある人に成長していこうと思います。苦しくても仲間がいるということを忘れずに、お互い頑張って生きていこうと思います。(D子)

※

私は今日の参観授業のとき、けっこう緊張していた。最初はビデオカメラが気になったりしていた。一番始めに「手を挙げて発表していこう」というようなことを先生が言ったとき、手を挙げようと思ったけど、恥ずかしいというか、みんなの前で自分の意見を言う勇気がなくて、手が挙げられなかった。Tさんが一番に手を挙げたのはすごいなあと思った。それから何度か手を挙げようとしたけど、なかなか手が挙がらなかった。何分かが過ぎて思い切って、手を挙げて指名されたとき、考えていたことが頭の中から飛んでいってしまい何を言っているのかわからなくなった。何か自分でもよくわからないことを言ってしまったようにも感じている。2回目には手を挙げたときは、1回目より緊張せずに普通にしゃべれたと思う。私は昨日の生活ノートに書いたように、一回でも自分の意見を言うぞと思っていたので、みんなの前で意見を言うことができてよかったと思う。

でもまだまだだと思う。まだまだ学習プリントにまとめたことを言うのが精一杯で、自分の本当の言葉にはなっていないようにも感じる。みんなの前で私の本当の思いを語っていけるようになりたい。今はまだ緊張して上手に自分の気持ちを言い表わせないし、つまったりしてしまうけど、自分なりにだんだんと語れるようになりたい。そしてまた、みんなで全体学習をすると思うけど、そういうところでも自分の思いが言えるようになりたい。いつもだったら全体学習のときだれかが言ってくれると思って、本当の意味での参加はできていなかった。それでは駄目だと思う。そんな気持ちがあるから差別がなくなっていきたいんだと思う。全体学習では今日の参観授業よりもっともっと緊張するかもしれないけど、頑張りたいと思う。

今日の授業でまた3年A組のみんなとの絆が深まったと思う。もう私たちは3年生、高校入試という峠に向けて頑張っている。これからはしくじけそうになっても3年A組の仲間で支え合って頑張っていきたいと思う。そして、みんなで立派に峠を登り本当の喜びをつかみ合いたい。(E子)

※

今日は参観日で少し緊張した。僕は2回手を挙げて発表したけど、一番最初気が引けてしまって手を挙がらなかったのは情けなかった。意見を持っているのに手を挙げて発表できないということは、ただ勇気がないだけだと思う。みんなで勇気を出し合うことができる授業をこれからもやっていきたいと思った。

峠の詩について僕は思う。人それぞれに考え方は違うと思うけど、峠の詩は今峠の頂上に立って、過去と未来の両方が見えて、未来への歩みを始めようとしている僕たちを「頑張れ」と励ましてくれているような気がする。今日の授業みんなの発表が、僕の考えに自信を与えてくれた。今日の参観授業、もっとお母さんたちがたくさん来て、この詩の奥の深さを知ってほしかったと思う。

手を挙げて発表することが怖い人もいるだろうけど、みんなを信じて心を開いていくことをしなければずっと手を挙げられないままで、授業の度に後悔ばかりして少しも成長していくことができないと思う。僕はそんな仲間のために常に心を開いていく一人であり続けたいと思う。そして心の底から信じられる仲間をつくっていきたい。(F子)

※

この『峠』の授業は、思いを語り合うことのすばらしさを生徒たちに実感させていく。かつて出会った生徒たちがそうであったように、この1年生徒たちは、この詩『峠』を心の糧として、精一杯に仲間と共に支え合い、励まし合いながら生きていくと思う。そのぐらい学級開きの時に会おう詩『峠』は強烈な感動を残していく。

『峠』の学習でスタートした道徳の学習、今年も人間としての生き方を共に考えていく時間として、私は精一杯に私の思いを語り、生徒の思いに誠実に心を動かしていく。部落差別の現実について私の思いをおつけた翌日に記されてきたG子の生活ノートには、燃えるような怒りが私の心の中からわきおこってくる。G子は次のように記している。

※

私は自分が初めて部落の人間だと知ったとき、別にショックもありませんでした。それは少しずつわかっていたからかもしれません。小学校のときは部落差別の問題ではなく、いじめなどの問題を中心に道徳の授業をしていました。

小学校の頃は部落に生まれたというショックはなくても、中学生になって3校の小学校からたくさんの人と中学生生活を送るようになって、みんなに自分が部落の人間だということを知られるのが恐かったです。嫌だったです。そんな思いで中学1年生の生活を送っていました。でも中学2年になって考えが、思いが変わってきました。別に知られたっていいわ。私のことを知って逃げていく人は、部落差別をしている人じゃ。そんな子は友だちではないと思いました。私を部落の人間と知って友だちでいてくれる人はたくさんいます。それがうれしいです。

先生が今日の道徳の時間に先生の友だちが、結婚差別によって結婚ができなかった人がいると言っていましたけど、私も実際結婚差別をされた親戚のお兄ちゃん、お姉ちゃんがいます。お兄ちゃんの方はうまくいなくて、お嫁さんが家出をしてしまった状態になったけど、お姉ちゃんの方は旦那さんが、自分の両親を説得して、周りの人みんなから祝ってもらえる結婚式になったそうですが、やっぱり見ていてつらかったです。まだ差別って残っているんだと本当に思いました。

隣の家が部落だったりそうでなかったり、橋を渡った向こうとこっちが部落だったりそうでなかったりして口惜しいです。なのに部落というその一言で、私たちをいやに思う人がいます。それってすごくつらいです。けれど私がもし部落の人間でなかったら、こんなふうな思いは持てなかったと思います。そう考えると私は、部落に生まれてよかったと感じます。

けどこんなふうに思っているのは、自分が部落の人間だからであって、例えば障害者差別を見ると、障害をもっている人たちは口惜しいつらいと思うことがあるけど、私たちから見れば、



その気持ちを最後まで理解していくことはできないような気がします。何かをしてあげたい気持ちもあります。でも障害者の人たちを見るとつらくなります。目が見えない人、耳が聞こえない人、しゃべれない人、歩けない人いろいろな障害があります。もし私がそうになったらと想像します。いやです。なりたくありません。そう思うと普通の子でよかったと思っています。これが差別です。私の心の中には差別心があります。だれだって、生まれる場所や自分の未来を選んで、生まれてくるわけではないのに、どうして人間ってこんなに弱いんだろうと思います。

以前『自分以下を求める心』という資料を勉強しました。自分以下を求める心って、ライバルとかそういうんじゃないで、自分の弱いところ、悪いところなんかを隠すために求めてしまうんだと思います。私は水泳が苦手です。泳ぐのも遅いし、長い時間泳いでいられにし、長い距離を泳ぐことができません。それを授業でするとき、一緒に泳ぐ列の子で水泳が苦手な子がいたらホッとします。よかったと思います。これってすごいずいといと思います。絶対ずいいです。けど水泳をうまくなりたとか、速く泳ぎたいというやる気はあるんですが、やっぱり駄目です。それが逆に自分の得意なものならば、いつでもやりたいと思います。弱いところを見せる必要がないからでしょうか。どうしても自分が有利な方へ持って行ってしまいます。

小学校6年生のとき、研究授業で「ペロ出しチョンマ」をしました。なぜだかわからないけど、いろんなことを発見する度に涙が出てきました。みんなも泣いていたり泣きかけだったりしました。周りにいた先生方も、泣いていました。なぜあのときあんなに涙が出たんだろうかと思うすごく不思議です。けれどあのとき、わたしたち児童も先生も、周りにいた先生方も、一つになれたと思います。もう一度あんな感動がほしいです。（G子）

※

生徒たちは本物の同和問題学習を熱望していると思う。すべての生徒たちに心の底から胸を張らせていく同和問題学習、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」とうたわれた水平社宣言の思想を自らの生き方にしていく同和問題学習。私は、私の精一杯の思いを届けていこうと思う。

また重荷を背負いながらも、ひたむきに頑張っている。I夫が生活ノートに次のような思いを綴ってくる。

※

最近、無言電話が多い。ものすごく腹が立つ。でもそれがもしお母さんだとしたら、今度無言電話がかかってきた時、僕の気持ちを伝えたい。「早く帰ってきてほしい」と……。でも無言電話がかかってくるまではお母さんのことを忘れていた。お母さんがいなくなって約3年が過ぎていたからだ。本当に早くお母さんが帰ってきてほしいです。（I夫）

※

またI夫は、次のような生活ノートを記してきたこともある。

※

今日、掃除が始まって体育館へ行ったら、宮崎先生が僕のだいお前になくなった体育館シューズを見つけてきてくれた。うれしかったけど、なんか僕の心にグサッとくるものがあつた。それは2年の時、体育館シューズがなくなった日を思い出したからだ。僕はシューズがなくなった時、腹がものすごく立ったけど、少し不安があつた。どんな不安かというと「自分は陰で差別されているんじゃないか」ということだった。（I夫）

※

さまざまな思いの中で、学校生活を送る生徒。厳しい現実の中で、ひたむきに頑張っていこう

とする生徒の姿に、私は私のすべてをぶつけて精一杯に応えていきたいと思う。こんな生徒たちとの出会い。私はかつて経験したことのないような家庭訪問を繰り返していく。それは板野中学校での3年間の取り組みが、私に意味のある家庭訪問を実践させてくれたと思う。かつて出会った生徒たちの声が心の中でこだまする。

「先生、私たちは高校へ行っても、新しい世界に入っても先生と共に学んだことを心の糧に頑張っていきます。先生と学んだ同和問題学習は宝物です。」

卒業生たちとの営みを土台として、より一層の取り組みを築き上げていく。それが新しい世界で苦しみながらも、ひたむきに頑張ろうとしている卒業生に対して応えていくことだと思う。そんな思いが、今年度の家庭訪問をより一層充実させていった。今までの家庭訪問でこれほど同和問題について語る先生はいなかったと戸惑う保護者もいただろうが、これが私の使命であるかのように話を続けていった。特に対象地区生徒にとっては、とてつもなく心に残る家庭訪問となっていた。家庭訪問翌日の生活ノートのいくつかを記しておきたい。

※

今日は家庭訪問でした。進路の話だけで終わると思っていました。でも先生は同和問題の話をしてくれました。私は今年から学習会にいくのはやめにしようと思っていました。理由はいろいろありますが……。でも私は今年1年で、今の自分がどう変わっていくか学習会でも頑張ってみようと思います。今の自分より1年後の自分が好きだといえるようになりたいです。(J子)

※

今日は2日遅れの家庭訪問でした。40分ぐらい話をして9年間で一番長くてしかも内容のすごいものになりました。家庭訪問らしい話と、同和問題の話と、他の先生方の話とかで、本当にすごいいいと思いました。先生、私は思います。どうして私たちの背後には部落という言葉がついているんだろう。どうしてその一言で人間の値打ちが決まるんだろう。どうして隣同志の家が、部落であつたり部落でなかったり、橋を渡った向こうとこっちが、部落だつたり部落でなかったり、考えてみたらおかしいことばかりです。けれどそれは時代をさかのぼって行けば、身分制度や貧富の差。こんなことから差別や自分以下を求める心になったんだと私は思います。貧富の差というのは、米の作り方が日本に伝わってきてできたと思うんだけど、貧富の差があるんなら米や伝わって来なかった方がよかったとは言えません。それを正していくのが今の私たちではないかと思っています。

今考えてみると、生まれてきたばかりの赤ちゃんは、だれよりも真っ白の気持ちをもっているんじゃないかと思っています。お父さんやお母さんから一生懸命言葉を覚えて、人を憎む気持ちなんてこれぼっちもなく、泣いて笑ってすごく純粋だったと思います。私にも赤ちゃんの時がありました。いつの間に私の心の中に差別心というものができたんでしょうか。いつの間に私の心はきたなくなってしまうんでしょうか。今日一番思ったこと、それは《赤ちゃんって神様よりも綺麗じゃないかなあ》ということです。

先生、お母さんが先生のことすごいと言っていました。先生のような先生はなかなかおらんとってお父さんやお祖母ちゃんの前でほめちぎっていました。(K子)

※

今日、家庭訪問で先生が貸してくれた本(「よろこび」2号)をお母さんが一生懸命読んでいました。私も読みたかったけどなかなか読めません。お母さんが一人で読みながらぶつぶつ言っていました。私も読みたいと思っています。今日は合わせて勉強を3時間以上はしました。もっ

としたいと思っています。夜、お母さんと学習会のことで話をしました。お母さんは「学習会に行かないということは、部落問題から逃げているということだ」と言いました。私はその時「ああそうか」と思いました。今まで逃げていたんだ。だから学校での部落問題学習の時も、意見があまり言えなかったんだなあと思いました。でもこれから1年、みんなと共に頑張っていきたいと思っています。特に私たちの学習会場は、参加人数が少ないので私だけの時たぶんあると思います。そんな時でも頑張って参加できるようにしたいと思っています。今日の家庭訪問はとても勉強になったしよかったです。(N子)

※

私は先生が家庭訪問で部落のことを話してくれてよかったです。お母さんと差別の話をしたことは全くなかったのが本当にいい機会だったと思います。私は思います。私はどんなに言われようがかまわない、私というものが差別と闘っていくことで何人の人が救われていくのでしょうか。もしかすると救われないかもしれませんが。だけど私というものの語りが差別している人を助け出せるかもしれません。いや助け出さなければいけないんだと思います。あの「よろこび」という本を読んでみたけど、すごく熱い思いというものが伝わってきます。同和問題というたった4文字、差別というたった2文字、そのことが私たちにのしかかり私たちを苦しめます。

中学1年の時、解放文化展の作品で差別というテーマで詩を考えたときがあります。

“差別”

たった2文字だけれど  
おそろしい2文字  
たった2文字だけれど  
にくたらしい2文字  
人間のつくった  
たった2文字だけれど  
その2文字で  
世の中  
つらいことや悲しいことなどがある  
このたった2文字を  
人間は  
なくさなければいけないと思う

こんな詩をつくってくれたクラスメートがいました。この詩を読んでたった2文字だけれどすごい恐い、人を死にまで追いやるほどの2文字なんだと思いました。

自分をかくして生きていつて、自分のことを堂々と言えないような人生はいやです。早く差別をなくしていきたいです。そして堂々と胸を張って生きていけるような社会にしていきたいです。(O子)

※

今日家庭訪問がありました。まさか家庭訪問で同和問題の話をするとは思いませんでした。自分は部落出身だということを知っていたけど、小学校の時は自分自身が無関心だったから、自分が部落出身だからどうという気持ちにはならなかったけど、中学校に入学してびっくりした。1年の時の担任の先生は清重先生で、清重先生も森口先生のようにものすごく熱心で清重先生の思いというものが段々とわかってきました。

初めの頃は「何でもこまでするのか」と思って発表なんか全然しませんでした。だけど本当の思いを語り合うというのは、すごく勇気があることなんだろうようになって、昔の自分では駄目だと思い、発表も1回から2回、3回へと増えていきました。本当の思いというのは自分しか知らないし、その思いは語っていかないと決してわかり合うこともないと思います。私ははっきり言うし発表しない人が、差別していくようになるのではないだろうかと考えています。それは昔の私がそうだったと思うからです。昔の私は自分の意志というものもなかったし、常に周りに流されてきたと思います。今の私は小学校の時より、すごく成長したと思います。

実際私は部落出身ということで差別を受けたことはありません。だから実際に部落差別がすごいものだという事は、話でしか聞いたことがないから、実際の気持ちというのはわからないような気がします。

私は全体学習を2回やってきたけど、一番くやしかったのが、1年の時に全体学習が終わった後に、同学年の人が「何でもあんなに発表するんえ。先生に言われよんと違うん」と言われた友だちがいました。私はそれを聞いた時、すごく腹が立ってこいつこそ差別しよるんじゃないかと思いました。その時のクラスのみんながそう思ったはずです。1年C組でした全体学習は後悔のない全体学習だったのに……。どんなに頑張ってもそういうやつがいるから部落差別がなかなかなくなるんだと思います。

今の3年A組が頑張っても、他の学年や他のクラスが無関心だったら、熱い炎は燃え上がらないだろうし、ますます苦しむ人が増えていくばかりだと思います。私はこれ以上苦しむ人を出したらあかんと思うし、そのためには第三者の目で差別を見過ごす人を絶対なくしていかなければならないと思います。私は森口先生と3年A組のみんなとで差別をなくしていくためにどんなことがあっても頑張ります。

3年A組の思いを、私や森口先生の思いを、全学年の人にわかってほしいです。早く3年A組の全体学習をやりたいです。(R子)

※

この1年間、人間としての本当の生き方をこの生徒たちと共に、つかんでいくんだという思いにさせられた家庭訪問の連続であった。今年度のクラスには、昨年一昨年に担任した生徒の弟や妹も何人かいる。同和問題学習を土台としてつながった関係というものはすごいものがある。同和問題が語れるということは、人間としての本当の思いが語り合えるということなんだろうということも実感する。一昨年に担任したE夫の姉は、家庭訪問の数日後、次のような手紙を弟のE夫に言付けてくれた。

※

お久しぶりです。お変わりありませんか。「よろこび」早速読ませてもらいました。後輩たちも頑張ったみたいですね。授業記録を見て「私も参加したいなあ」と何度思ったかわからないぐらいです。さて高校に入学して1年余り、中学時代にある程度予想していた通りで、高校というのは本当に勉強ばかりです。去年も同和問題学習のLHRが何度かありましたが、その内容はたいてい意識調査か作文で、それができたら自習。そういえば集会とかに急に代わったこともありましたが。たまに話し合いがあっても先生がしゃべるだけ……。こんな状態だから私自身「言うだけ無駄」と妥協してたりもしているんですが……。中学時代「高校でも頑張ろう」と皆と約束したのに恥ずかしいです。けれどどうすればいいのかわからない状態で、たまに差別的発言を耳にしても「それはおかしいと思うじょー」と苦々しく笑いつつ言うのが精一杯なんです。それ以上

言えば、「いい格好して」とか言われるからそれが怖いんです。頭では言わなければいけないとわかっていても、いつも言葉が喉に詰まって飲み込んでしまっていて……。本当に情けない思いがします。先生は今これを読みながら愕然としているかもしれませんね。中学時代、あれだけみんなの思いに応えていた私という人間が、今では自信をなくした消極的な奴になっているんですから……。もしかすると私はこのまま高校を卒業するかもしれません。自分の言いたいことを飲み込むことを繰り返して、そのうち何もできなくなってしまうかもしれない……。本当に私は馬鹿です。とても悔しい……。先生、本当の友だちをつくるというのは大変です。

先生にお願ひがあります。板中の特に3年生のうちに、私のように板中生の少ない高校に進む子に、絶対的な自信をつけてあげてほしいんです。というか、困った時、壁に当たった時、いつでも相談に行ける場所をつくってあげてほしいと思います。私は現に今、3年生だった頃のメンバーで、せめて旧3年B組のみんなと語り合いたくてたまりません。板野高校に進んだ子たちは頑張っているという噂をよく耳にするけど、他の子たちはどうなのか。私のようになっている子もいるのか。いろんなことを知りたいし、いろんなことを聞いてもらいたいです。私の考えからすると、自信をつける＝無茶苦茶すごい絆を結ぶことになります。何か自分の意見が矛盾しているみたいですが、私も相談しようと思えば、相手はどこにでもいるんですよ。

何か私の近況報告みたいになってしまったので、「よろこび」の感想も書きたいと思います。全体授業でいつも先頭に立っていた女の子（Kさんだったと思いますが……）が、とても印象に残っています。Iさんとどぶってしまいました。私たちはやっぱり同和問題が主に話し合いのネタだったけど、去年はいじめやエイズ問題についても話し合ったみたいで、すごいなあと思いました。私たちが中学3年の時、後輩を見ていた限りでは、こんなすごい授業をやるとは思えなかったの、驚いたしそんな見方をしたことを反省しました。特に「ゴンタこそがたたかいを」の全体授業の記録は羨ましかったです。なんて表現すればいいのかわからないけど、とにかく羨ましかったです。また、私たちより団結力がすごいように見えて少し悔しい気もしました。

最後の吉成先生の言葉には、本当に涙が出るかと思いました。『たかが縄跳であれだけ熱くなれる』って、何に対しても言えると思うんです。全体授業も見方によれば「たかが話し合い」かもしれません。でもあんなに熱くなれるんだし、泣きたくもなるし……。『熱くなる』ってとても大切なんだと思います。人間冷めてちゃ、他人の痛みも苦しみもわかりませんよね。道端の石ころとか、そこらの虫にも目を向けるくらいの心の余裕がないと、他人のことなんて考えられませんよね。そして、そうやって熱くなれるきっかけをつくってくれるのが、友だちであると思います。中学の頃は先生のおかげもありますが、私は友だちの頑張りによって熱くなってきたと思います。

考えてみると、先生が本気で本音を語ってくれなければ、あの「ナイン」の授業とかはなかったと思います。高校の先生はやっぱり「上から」みたいに感じるんです。3年B組みたいなクラスにはたぶんもうなることはないだろうけど、個人で見ると3年の時みたいな友だちはいくらでもできると思います。だけど、私たちってやっぱりすごかったんですね。今さらながらに実感して、あの頃に戻りたくなります。でも『ひとつを失うことなしに別個の風景に入っていけない』んだから、これからは見ないといけませんよね。つらいけど……。

最後になりますが、去年のうちに板野中学校の取り組みはあっちこっちに広がったみたいですね。今年入った大麻中学校出身の後輩と、試合で友だちになった上板の子が、私たちの授業のビデオを見たて教えてくれました。何かうれしかったです。これからのこの取り組みが広がってい

くと確信しています。先生も頑張ってください。私もできる限り頑張っていきます。

「よろこび」が私の手に渡ってからすぐに読んだんですが、いろいろ忙しくてこの手紙を書くのが遅くなってしまいました。今年は弟がお世話になるそうで、姉としては複雑な気分です。でも3年という大切な1年を森口先生なら、有意義にしてくれるだろうと安心しています。よろしくお願いします。（E夫の姉より）

※

同和教育は教育の中核だということを私は、自らの同和問題学習の営みの中から実感してきた。週1時間の道徳の時間を中心に同和問題の学習に取り組んでいるが、それは日々の生徒との対話、私自身の本当の思いを生徒たちに精一杯ぶつけていく中から、同和問題学習の時間が充実していくと思う。その営みをより確かなものにしていくのが、毎朝提出される生徒の思いが綴られた生活ノートである。高校へ進学した生徒の高校での同和問題学習の不満（これは中学生の不満でもあるが）の中に学級での同和問題学習の時間、作文を書くことに時間が使われていくというのがある。同和問題学習は常に本当の思いをぶつけていく語り合いの時間でなければならないと思う。なかなか生徒の本音を引き出していくのは困難な状況もあるが、教師自身が最も厳しいところに立って同和問題を教師自身の問題として語れた時、生徒たち、特に対象地区の生徒たちは胸を張り自らを語っていくようになる。日々の学級指導の中での私の語りに応じて記してきた生活ノートをいくつかをしるしておく。

※

今日先生は本当に思っていることを書いてこいと言っていました。今から本当に思っていることを書きます。私は小学校2年から学習会に行っています。初めのうちは楽しみでした。でも友だちと遊べないし、友だちに「何でM子ちゃんは学習会にいきよんのに、私は行けんの。」とか聞かれたりしました。自分が部落出身だから学習会に行っていると知ったのは、小学校の5年ぐらいでした。でもあまりその時のことを覚えていません。中学校では学習会のある日の給食の時間の時、校内放送で「今日は〇〇会場と〇〇会場です」というけど、あの放送が嫌です。「〇〇会場の3年です。」（今の私の学習会の会場）と放送が流れてきた瞬間、重い気分になります。こんな思いになるのも、私は学習会に行っていることを恥ずかしいと思っているからでしょうか。

中学校に入ってある子と話しているとき、急に「M子ちゃんって、学習会にいきよん？」と聞かれました。私が「うん!」というとその子はびっくりしたように2・3歩下がりました。ショックでした。「やっぱり差別ってあるなあ」と思いました。初めてでした。あんなショックを受けたのは……。

私のおじいちゃんは、字の使い方をよく間違っています。例えば、「え」と「へ」、「は」と「わ」、「お」と「を」、「ず」と「づ」とか、まだあります。それとか平仮名とカタカナが混じっていたりします。昔は字もあまり書かなかったのか、角張った字であまり綺麗な字ではありませんでした。漢字などはあまり書きません。読むのも難しい字になると読めません。お祖母ちゃんはおじいちゃんに比べれば、字も書けるし読めます。昔の学校はどんな状態だったんだろうと思います。みんな学校に行って楽しかったのかなあと思います。

「母の願い」を読んで、文章の中に、「私の心の中に部落は悲惨であり、貧しくそこに住む私たちは賤しいもの」という意識が、知らず知らずのうちには入り込んでいたのです。」という部分があるけど、私の心の中にもこの考え方があるんだと思います。だから学習会の放送がある時、恥ずかしい気持ちになるんだと思います。第1回目の全体学習で自分の思っていることを自分か

ら手を挙げて発表しようと思います。(M子)

※

私はこの3年A組で部落差別をなくそうとする炎を燃えあがらそうと思います。3年A組で差別をなくそうとする人はたくさんいると思います。口先だけの語りではない。どんなことがあってもこの3年A組で、3年A組のみんなで頑張れるように本当の語りを心の底からの語りを部落差別にぶつけていけたらと思う。3年A組のみんなとなら頑張っていけるそんな気がします。やる時はやるクラスだと思います。森口先生と出会えてうれしい。みんなと出会えてうれしい。今そんな気持ちでいっぱいです。板野中学校に入学して2年が過ぎたけど、全体学習のあの思い、あの涙。聞いたり見たりしてきたけど、どれもこれも心の底からこみ上げてきた熱い思いの中の語りだとすぐわかりました。(T子)

※

今日、先生の話の中でA高校で数学を教えている先生のことを聞いた。一生の友情ってやつばかり存在するということを教えてくれた。でも私にはまだ一生の友だちってというのは、いつどこで出会うのかわからない。だから、私は友だちのよさを見落とさず、友だちに自分のことをもっとわかってもらえるようにアピールしようと思う。(N子)

※

先生の言葉で心が感動したりするのは、本当の心の底から差別をなくしたいと思っているからだと思います。私はまだ先生ほど強いものを持っていません。でも私も、差別をなくしたい、みんなと頑張っていきたいと本当に思っています。差別を受けた人の話を先生から聞くと、なんかつらい、いやな気持ちになります。そして心のどこかで、少しだけ私には別に関係ないとか、自分だけよかったらいいと思っているところがあります。先生の話聞いて嫌な気持ちになるというのは、こういうことを思っているからだと思います。私はこんな自分が嫌だからどうにかして直したい。つらい気持ちをもっている人のことを考えたらほんまにつらいです。私自身を本物にしていくために、みんなと闘い続けようと思います。私たちが闘い続けるというのは、先生が言われるように私たちの本当の思いを語り続けることだと思います。私は今まで自分の本当の気持ちを言わないで、綺麗事ばかりというか、自分のきたない気持ちをみんなに知られたくないからそれを隠して発表してきました。

森口先生が正直な気持ちを「あゆみ」に書いてこいと言ってくれたから、自分の本当の気持ちを書きました。でも差別をなくしたいというのは、私のほんまの気持ちです。心の中にある少し汚くて嫌な気持ちをどうにかしてなくしたいと思います。これからは今までのように綺麗事を言わないで自分のほんまの気持ちを言いたいです。そして3年A組のみんなとほんまに闘っていきたいです。

今日のこの「あゆみ」に自分のほんまの気持ちを書いて自分のきたないところを見直せました。もうこんな気持ちがなくなるようにしたいと思います。そして差別に立ち向かい、自分を語れるようにしたい。はじめは大勢の前では緊張するかもしれない。でも5月のいつかにある全体学習では言いたいと思います。そして、いつかは自分のようなきたない気持ちを持っている人に私の思いを聞いてもらい、自分のおかしいところに気づいてもらえたらいいなと思う。(H子)

※

僕の心の中には差別する心があると思います。小学校の時、部落差別はどういうものかは知りませんでした。中学1年の時、映画などで部落差別がどのようなものであるかを知りました。そ

の時、こんなむごい差別があるのかと涙が出ました。しかし友だちの中に部落の子がいると知ったら、その子を僕は差別してしまうと思いました。そして今まで仲良しだったのに、話をしなくなるかもしれないし、その地方にもなかなか行かなくなると思いました。でもそのとき吉成先生のもとで、部落差別や障害者差別などいろいろな差別問題について学んでいきました。道徳の時間を通して徹底的に学習していきました。障害者差別は板野養護学校の人たちと交流しながら学習を深めていきました。その学習の中で障害を持った人たちへの差別心は消えていったと思いました。しかし、街の中で障害者を見るとへんな目で見てしまいます。そしてしばらくすると僕は「何を考えよんな」と思って、心の中で「かわいそうじゃなあ」と思うだけです。それではいけないと思っていても、周りの人たちが気になってしまい、助けてあげることができません。

2年の時は、部落差別の授業は、こう言うと思ったら先生が納得すると思って発表していました。それはクラスの中に何人もの人が、「それがどしたんな」というような態度でいたからです。せっかく差別に立ち向かっていく心ができたのに、クラスのしらけた雰囲気の中で、僕自身の前向きに取り組んでいこうとする姿勢もくずれていったと思います。それは僕の心の中にまだ差別する心があって、その心に僕自身が負けてしまったからだと思います。

3年になって僕は一からやり直そうと思います。森口先生のもとで、差別に立ち向かう強い心を持ちたいと思います。今は先生の話や、道徳の時間が長いと思いますが、最終的にはもっと聞きたい。もっとやりたいと思えるようになりたいと思います。(S夫)

※

先生の今日の話はとても感動したというか、自分の悪かったところがどんどん思いだされてきた。陰で悪口を言ったりしたこともあります。けど言っている時に私自身も嫌な自分だなと思うことがよくあります。けどやっぱり悪口を言うってしまうのです。

最近はそのような気持ちをなくしていこうと努力しています。けどまだまだ綺麗な心にはなれません。友だちがだれかの悪口を言っているときに一緒に言うのではなくて、それはいけないことだと言えるようにしたいです。そうしないとどんなに努力しても、すぐ嫌な自分にもどってしまうと思います。自分が好きになりたい。人に好かれる人間になりたい。そして人を嫌う心もなくしたいです。(J子)

※

もうすぐ全体学習がある。3年生として初めての全体学習なので、少し緊張しています。私が小学校の時「学習会へ行っている子は、みんな頭が悪い子や」という噂が流れて、私もその一言で学習会へ行っている子に対する見る目が変わってしまいました。その噂を今思い出すと腹が立ちます。自分にもすごく腹が立ちます。「部落の方へ行ったら何をされるかわからん」と言っていた人もいます。私はその日、遊ぶ約束をしていた部落の子と遊びませんでした。今思うと恥ずかしいです。その子は本当にすごく優しい子なのに、私は一言の噂で友だちをなくしてしまったような気がしました。

1年の時、このことを担任の清重先生に打ち明けると、「友だちと噂とどっちが大切なんや」と言いました。「けどそれは終わったことやからしかたない。ほなけど、お前はこれから一生懸命勉強して、つぐなうことをしなければいかん」と言ってくれました。私は自分の意見を言って、「間違っていることは間違っている」と訴えていきたいと思います。(O子)

※

今日、森口先生の話聞いて本当にすごい人たちがいると思いました。僕は今まで部落差別と



他のいじめなどの差別を別のものと考えていました。それは部落の人たちを心の中で差別していたからです。そして自分は部落の人たちとは関係ないと思っていました。でも部落の人を差別する心は立場の弱い人や障害のある人を差別することと同じだと思いました。

家族の人や僕の身近にいる年寄に「〇〇の子だけは関わられんよ」と言われたりして、大人がそんなことを言うなんてと思い、とてもショックだったことがあります。僕には差別されている地方の友だちがたくさんいます。その子は本当のいい友だちです。年寄たちが対象地区の人たちを馬鹿にするたびに、心の中で〇〇君を馬鹿にするなと思います。でも年寄の前ではうなずいていました。それで年寄から話を聞かされるたびにだんだん迷ってきて、少しは年寄の言うことを信じてしまうようになりました。それによって対象地区の人に対する差別心を持つようになってきました。友だちに聞いても、やっぱり年寄にそんなことを聞かされたとか言っていました。僕はこの１年間で、まず自分の差別心をふりのけたいです。（F子）

※

今日、社会の資料集の中にこんな話を見つけた。実話だと思います。

ある女の人が男の人と恋人になって、男の人が女の人を両親に紹介しました。女の人が部落の人と知った両親は反対。女の方は姓名をかえて男の人の家を出入りしていたけど、結婚となるとそうはいきません。二人は東京へ駆け落ち、でも見つかって別れさせられました。妊娠していた女の方は、親の説得で子どもをおろしました。男の人からは後で50万円が払われました。

私はこの話を通して、部落差別の怖さを知りました。その厳しさを多くの人が口にするけど、本当に苦しく厳しいものだと思います。部落差別によって生まれてくる子どもの生命が奪われ、その生命の代償がたった50万円。ひどい表現かもしれませんが、たった50万円で一つの生命がなくなりました。ひどいと思います。部落差別はほんまに許せんと思います。部落差別はまさしく生命に関することだと思います。先生が生命をかけて部落問題に取り組んでいくという意味がわかったような気がします。差別がなくなっているという今に、こんな現実があります。それを私たちはなくすために頑張っています。いい格好しているんじゃないで本当にそう思います。私たちは差別がなくなったという前に、本当の現実を見ていかなければいけないと思います。

（Y子）

※

私の日々の問いかけや語りかけに応じて、生徒たちはその誠実な思いを生活ノートに綴ってくる。生徒たちの心の底は、清らかであり新鮮である。磨けば磨くほど光を放っていく。私は毎朝そんな思いになりながら、生活ノートに私の精一杯の言葉を返していく。

そんな生徒たちの思いに応え、この１年の全体学習の取り組みをより確かなものにしていくために、昨年度の３年生が最後に実施した全体学習の記録を学年通信《きずな》に掲載し、３年生全体の生徒たちに読ませた。またその最後の全体学習に取り組んでいくまでの卒業生の思いや、その学習をやり終えた卒業生の思いを綴った記録も全体学習の授業記録に添えて生徒たちに紹介した。その学年通信《きずな》は、「板野中学校３年の絆、一人一人が差別解消の主体者として」と題してまとめた。その内容は卒業生の答辞から始まる。そしてそれは全体学習に取り組んでいく熱きものを生徒たちの中から、わき起こさせていくねらいがあった。その原稿は以下の通りである。

※

板野中学校３年の絆、一人一人が差別解消の主体者として

きずな《絆》という言葉、私には格別の思いがあります。私たちが学校へ来ることの意味、それは互いの存在を信頼し、尊敬し合う、共感と連帯の絆をつかんでいくためだと思います。毎日のようにこの学年通信をまとめてくれる豊田先生に感謝しながら、私たちに中に、より確かな絆を育てていく授業実践を積みあげていきたいと思っています。その授業実践は、3年生全体で精一杯の思いを語り合う中から、より確かなものへとつながっていくと考えます。

みんなは卒業式の日、卒業生がみんなに残してくれた答辞を覚えているでしょうか。それは次のようなものでした。

※

今静かに目を閉じますと、過ぎ去った3か年のさまざまな思い出が浮かんでまいります。何もかもが新鮮で期待と不安に胸ふくらませながら臨んだ入学式。クラス一つになり、友情の輪をより広げた体育祭や文化祭。

また、2年生の修学旅行は自然の雄大さに感動し、戦争の悲惨さに触れ、平和への願いを強くした貴重な体験でした。真夏の太陽の下で、雪の舞う寒さの中で友と励まし合い、厳しい練習に耐えた部活動。自分との闘いだった受験勉強。

そして、学年、学校全体で取り組んだ同和問題学習。私たちはこの同和問題学習で涙を流しながら自らの想いを語る友と、差別の怒りに震えた友と共感し合い、支え合い、仲間の絆を深め合うことができました。「本音を語る」たったそれだけのことがどれほど苦しいことなのか。私たちはこの学校で、この体育館で初めて知りました。

同和問題学習に取り組んでいたときの私は「輝いていた」と自信を持って言うことができます。私たち卒業生は、この差別と闘おうとする炎を、身体を熱くする炎を今、在校生の皆様にご託します。

※

この文章を読むたびにこみあげてくる熱いもの、それは差別解消に向けて生徒たちともに自らのすべてをぶつける本物の同和問題学習ができたんだという誇りや喜びの中から、こみあげてくるものだと思います。今年もこの先輩たちの思いをしっかりと受け継ぎ、差別解消への取り組みをより確かなものにしていくために、学年全体での同和問題学習に取り組んでいきます。

この学習は、先生方にとってもとても厳しいものがあります。みんなの中に部落差別が入り込んでいるように、先生たちの中にも部落差別が入り込んでいます。先生たちもみんなに本当の思いを語りながら、精一杯に頑張っていきます。そして、本物の喜びをみんなとつかみ合いたいと思います。

先生たちは全体学習に取り組むために、次のような計画を立てています。

※

資料（予定です）

- 第1回全体学習・3年A組の公開授業と3年全体での授業（5月14日）「母の願い」
- 第2回全体学習・3年D組の公開授業と3年全体での授業（5月27日）「自分以下を求める心」
- 第3回全体学習・3年F組の公開授業と3年全体での授業（6月15日）「意識の芽ばえ」
- 第4回全体学習・3年C組の公開授業と3年全体での授業（9月30日）「私の目をみて！」
- 第5回全体学習・3年E組の公開授業と3年全体での授業（10月28日）「ゴンタこそが……」
- 第6回全体学習・3年B組の公開授業と3年全体での授業（11月25日）「Y子は獅子になった」

※

資料は変更するかもしれませんが、実施される日は決まっています。一つ一つの全体学習が、それぞれのクラスが部落差別解消に向けて歩いていく大きな峠になっていくと思います。3年生の仲間全体で部落差別という峠を立派に乗り越えていきたいと思います。

全体学習のスタートに際して、先輩たちが取り組んだ全体学習の記録を紹介しておきたいと思っています。高校入試が終わった翌日に取り組んだ最後の全体学習の記録です。その授業について、まとめた文章も最初に紹介したいと思います。卒業していった先輩たちの思い、みんなでこれからの全体学習に取り組む糧としていきたいと思っています。この「きずな」、卒業生の授業記録は永久保存の「きずな」です。穴が開くぐらい読んでもらいたい。そしてみんなの思いを確かなものにしてほしい。以下の文章は、昨年度の3年生の先生方でまとめた「峠を越えてⅢ」に載せられた文章です。今年はみんなで「峠を越えてⅣ」をまとめていきます。

※

第1回から第5回の全体学習、3年生の全クラスが1回は公開授業を行ない、学年全体で部落問題に対する思いを語り合ってきた。私たちは、この営みの中で同和教育の喜びというものを生徒と共につかんできた。しかし、その思いはこの実践を積み重ねていくことによってまだまだということが、わかってくると思う。かつて板野中学校へ赴任した1年目、第1回目の全体学習を実施したおり、板東武先生からメッセージをいただいた。そのメッセージには、「人間が美しくあるための抵抗の精神、それは子どもたちとすばらしい授業を創ることだと信じます。学ぶということは、『昨日の自分より今日の自分が好き』になることだと思います。」と記されていた。今年度の全体学習は、そんな願いの中で取り組まれてきたように思う。第1回目より2回目、2回目よりも3回目というようにもっともっと大好きな授業、生徒たちが生き生きと輝く授業を創造していく。それが1年間、すべてのクラスが公開授業をやり、学年全体で同和问题学習に取り組む意味だと思う。

最後にこの1年間の全体学習の取り組みの中で、私に強烈な刺激を与え続けてくれたK子が、私にその思いをぶつけてきた文章をこの全体学習のさらなる前進をめざして記しておきたい。

※

部落問題、差別問題に取り組むということは、綺麗な言葉を探し、より綺麗な言葉を語ることではない。差別者に打ち勝つことが部落問題、差別問題に取り組むことなんだと思う。みんなが言う正しく綺麗な言葉も、自分の差別心をごまかして語るから周りの人にとっての言葉ではなく、自分のためだけの綺麗な言葉になってしまうと思う。

本当の自分にとっての綺麗な言葉は、そういった差別心や弱い心へのごまかしを取り払ったときに出てくるものだと思う。そして差別者に打ち勝つ強さを身につけることから、すべては始まると思う。

自分の差別心や弱い心をごまかして差別解消を語るから、友だちのためにか、人のためにかいう言葉が出てくる。自分からその問題を遠ざけるために、他人事にしまうんだと思う。人間は弱いから自分がそのドロドロした中に入ろうとしない。いつも自分をごまかそうとする。それでは、部落問題や差別問題は決して解決していかない。部落問題や差別問題は、自分自身の問題であり、自分自身の中にある差別と闘うことから始めなければならないと思う。そして、そこから差別者に打ち勝っていく本当の強さが生まれていくと思う。

※

第1回から第5回までの全体学習、私は正直なところ、これほども盛り上がりがあるとは思っ

ていなかった。昨年度の3年生の印象が強烈であり、今年度出会った生徒たちに対する思いは、当初それほど強いものではなかった。4月に『峠』の詩を学んだ時、一番峠を越さなければならなかったのは私自身であった。しかし、全体学習の取り組みを積み重ねていくことにより、私はクラスの生徒たちや3年生全体の生徒たちが大好きになっていった。1回1回の全体学習は3年生と共に生きる私の心の糧であった。

私がそうであったように、生徒たちも自らの思いを語り合った全体学習の取り組みを支えとして、中学3年というさまざまな峠や高校入試という人生の大きな峠に向かって頑張り続けてくれたと思う。そして、その頑張りには厳しい現実の中でも、精一杯に頑張ることのすばらしさを実感させていく一日一日となっていたと思う。

高校入試が終わった日、夜9時過ぎであったと思う。D組の生徒H夫から電話がある。H夫は第5回目の全体学習で、自分の部落出身という思いを学年の仲間におつけた生徒であり、3年生のボスの存在の生徒である。第5回の全体学習の時の発言は次のようなものである。

※

発表するような柄ではないと思う子もいると思うかもしれませんが、僕も部落に生まれた一人の人間です。みんなの幸せを願って差別をなくしていこうと思いますので、みんなと一緒に頑張ってください。

※

H夫からの電話の内容は、卒業式までに是非とも最後の全体学習をしてほしいということだった。昨年度、卒業式の予行の前日に最後の全体学習を実施して、その感動が丸ごと卒業式の中に流れていったことを思い出す。最後の全体学習をしたいということは、吉成先生たちと幾度となく話していた。しかし、今年は日程的に厳しいかもしれないという思いがあった。そんな思いを振り払ってくれたのがH夫からの電話であったと思う。

これまで幾度か3年生を担当し、高校入試を終えた卒業式までの緊張感のなくなった日々を時間を持て余した状態で過ごしてきたことがある。時間があれば、その時間はソフトボールやバスケットボール等のレクレーションに費やされてきた。本来自分を縛るような授業が苦手であったH夫からの電話は本当にうれしいものがあった。この1年間の全体学習の取り組みによって、生徒たちの部落差別解消に寄せる思いは大きく変わってきたと思う。それが最後の全体学習をやりたいという思いになってきたんだと思う。

H夫は私に全体学習にかける思いを切々と語る。

「先生、この取り組みはどんなことがあっても後輩たちに続けてほしいと思っている。今までいろいろと先生方に迷惑をかけることがあったけど、この全体学習に取り組んだ思いというのは、本物だったことをわかってほしいと思う。」

その訴えは私たち3年教師集団の思いとまさしく重なるものであった。その思いを受け止める中から、その電話の翌日、卒業式の練習の時間を使っての全体学習が実施された。3時間目の始め、30分程を卒業式の入退場等の基本的な練習にあて、3時間目の後半から4時間目にかけての全体授業を実施した。

その全体授業は、生徒たちの内からこみ上げてくる願いや思いのほとばしる全体授業となった。この授業の口火をきったのも、H夫であった。全体授業の最初、他にも挙手していた生徒がいた。でもこの全体授業の前に何人かの生徒が私に訴えてくる。

「先生、今日絶対H君を最初に指名してほしい。H君の思いは僕たち全体の思いなんです。」

私はこの生徒たちの思いに応えてH夫を一番最初に指名した。H夫の訴えは次の通りである。

※

今まで全体学習をしてきて、3年生は初めに比べて十分まとまった学年になってきたと思います。いろいろな資料を使って学んできました。最後の全体学習も、1年生、2年生を交じえた全体学習にしたかったという思いがありましたが、3年生だけの全体学習になってしまいました。あと少しで僕たちは卒業なので、2年生にあとを継いでもらいたいと思っているし、3年生だけになってしまったこの授業を2年生に贈る言葉として、この全体学習を進めていきたいと思います。

※

この言葉は3年生全体の中に最後の全体学習の意味をしっかりとわからせていくものとなっていく。この取り組みをこの感動を後輩たちにしっかりと伝えていきたいと願う生徒の姿。そこにはすごい感動が生まれてくる。しかし、この授業にかけた生徒たちのエネルギーは、もっともっと大きな叫びをあげていく。やがて3年生の熱気に応えるかのように、1年生のあるクラス、2年生のあるクラスが体育館に入ってくる。これは3年生の生徒たちの思いをより一層奮い立たせていくものとなった。3年の教師集団に連帯していく先生方の存在は、3年生の生徒たちに大きな喜びを与えていった。そして、その場面に刺激され、学年全体の一層の奮起を促したA子の発言は、生徒一人一人の中に電気が走るような衝撃を与えていく。A子は訴えた。

※

今、今日の授業は3年生だけって言ったけど、1年生とか2年生の人も来てくれてすごうれいんです。私たちは5回全体学習をしてきたけど、何やかんや言ってもまとまってないかもしれん。綺麗事言えるかもしれんし、あんなこと言うてと思うとる子もおるかもしれん。けどいいかげん格好つけるんやめないかんと思う。ほんまみんなやって差別なくしたいと思うとるはずやし、いじめよる人やって、ほんなんしとうないっていう気持ちもあるはずやと思う。なんや関係ないって格好つけてしまう自分が情けないと思うとる子もおると思う。こうやってみんなが言うて全体学習して、今まで私たちが頑張ってきたことがなんだったんだろうと思う。Kさんの話を聞いていても、ほんまにつらあなって私たちの関係ってこんなもんだったんかと思う。3年生、まとまっとるような振りしてほんまはまとまってないかもしれん。今ここでまとまらんかったら後はないけん。このままだったら今の私たちは1年・2年の子に頑張ってほしいや言えんわ。今私たちがきちんとしていかんかったら、全体学習も終わってしまうような気がするし、先生やって一生懸命になっとるのに、私たちが期待裏切ったら、どうしようもないと思う。1年の子も、2年の子も、頑張っていこうという気でここに来てくれとるんやけん。私たちがしっかりせないかん。1年の子にも2年の子にも頑張ってもらおうと思うし、1年の子にも2年の子にも発表してもらいたいと思う。私たちの気持ちを一つにして、1年や2年の子に思いをつないでいきたいと思っています。

※

この発言は、生徒たちに心の底からこみ上げてくるような思いを語らせていくようになる。いじめられてきた生徒が訴える。学校へなかなか来れなかった生徒が語る。今まで心の中にひっかかっていたものを吐き出すように語っていく生徒。その中で卒業式の歌の練習のとき、一生懸命に歌を歌う仲間がいやがらせをした生徒がいるということに対する怒りや、いやがらせを受けている仲間がいるのを黙って見ていたそのクラスの生徒に対する怒りを語った発言がある。K子の

言葉である。

※

卒業式の歌の練習をしていたときに、私の友だちがいやがらせを受けたそうなんです。その友だちが悩んでいる顔をしてきたので、私が「どうしたん……」と聞いたら、隣の組の子にいやがらせを受けたって、すごく悲しそうに言ったので、私そのとき友だちに聞いたんです。「あんたの組の子、何も言わなかったん……」って言ったら、「ううん、見ていたけど知らんふりばかりしよった」ってすごく悲しそうにしていたんです。「いやがらせやったこの友だちの〇〇さんも何も言わなかったん。あの子なら言うんとちがうん……」って聞いても「ううん、言わなかった。何も言うてくれなかった。」って言うんです。私すごく腹が立って、その子の組に殴り込みにいこうと思ったんです。

※

これは4月、入学式の歌の練習のときにもあったことである。全体学習の中で幾度となく語ってきた。本当の思いが語り合える関係でありたい。そして、心の底から思いきり歌が歌える関係でありたい。そのことがまだまだ実践されていない現実がある。思い切り歌が歌えない切なさを信頼という言葉を通してS子が語る。

※

信頼というのは自分の嫌な部分も全部さらけ出せたり、格好つけなくても一緒に過ごせる友だちとの間にできるものだと思います。私は卒業式の歌の練習をしていても、あまり大きな声で歌うことができません。大きな声で歌っていたら音痴とか言われへんかと思って、声がどうしても小さくなってしまいます。そんなことを考えてしまうのは、友だちを信じていないということだと思います。私は格好をつけて生きるのではなくて、友だちを信じてありのままに生きられる生き方がしたいと思います。さっき歌の練習の時、いやがらせを受けた子が私のクラスにおるというのを聞いて、私はクラスの仲間として、そのことに全然気がつかなくてごっついつらかったです。

※

この最後の全体学習が、生徒一人一人の卒業式での歌声を確かなものにしていったと思う。繰り返し練習をしてきた卒業式の歌であったが、この全体学習によって卒業式のときの歌声が最も感動的であり、最も大きな歌声となっていた。全体学習でつかんだ仲間を信じる心は、生徒たちに自分をごまかすことなく、思い切り歌が歌えるという姿勢をつくりあげていく。今年の卒業式も、そのことを確信する卒業式となった。

この最後の全体授業はこれ以後も、生徒自身が直面していることについて、また両親が部落差別をしている現実について、決して途切れることなく生徒の思いは語られていく。

やがて12時30分は過ぎ、4時間目終了のチャイムは鳴る。給食の時間になっている。生徒はどうしてもこのことだけは言わせてほしいという目で私を見つめている。このまま授業を続ければ、永遠に終わることがないそんな授業展開になっていく。私は最後の決断をする。

「今手を挙げている人、どうしてもみんなに訴えたい思いのある人、起立してほしい。その人たちの発言でこの授業は終わりにする。」

30名前後の生徒が起立したように思う。ほとばしる涙と共に、生徒の思いは訴えられていく。涙でいっぱいになった後半、いよいよ後数名の発言で授業が終わろうとした時、O子が初めて自分の苦しい胸の内を語り出す。しかし、その発言は涙で途切れてしまう。涙で言葉が出てこない。担任の励ましの声が聞こえる。生徒たちの祈るようなまなざしがO子に励ましとなって注がれる。

でも涙はどうしても止まらない。涙に遮られどうしても言葉は出てこない。止まることを知らなかった〇子の涙を私たち教師集団は、いつまでも心に止めていかなければならないと思う。その〇子を必死に励ますように、2年生のとき同じクラスだったT子が涙で顔をグシャグシャにしながら語った。

※

さっき〇さん（涙で発表ができなかった）が初めて発表してくれてごっついうれしかったです。いっぱい辛いことがあって涙が止まらんけど、言いかけた後のことを最後まで頑張って言ってほしいです。

※

このT子を始めとする仲間の励ましの中で〇子は授業の最後の最後で語り出す。〇子の涙の発言の中に計り知れない〇子の苦しみを感じ取ったのは私だけではないと思う。どれだけの苦しみが悲しみがあっただろうか。私は〇子の言葉をあの場面をどんなことがあっても忘れないと思う。〇子の言葉である。

※

私は2年生の時、とてもつらい思いをしたことがあります。そのことを今でも考えるとすごく涙が出てきます。でもその時は、私自身がすごく弱くて強くなろうとしなかったと思います。これからずっと生きていく中で、私は弱い人間として生きていくのではなくて、強い人間として生きていきたいと思います。

※

〇子の発言で授業は終わった。13時20分であった。50分のオーバーである。最後の全体学習は涙の全体学習となった。

授業の翌日、〇子と2年生のとき同じクラスだったS子は、涙で発言ができなかった〇子について、その涙の底にあったものを記してきた。その生活ノートをこの1年の全体学習のまとめとして記しておきたい。

※

〇子さんが今日泣きながら自分のつらかったことを最後に語ってくれた。2年生の時から卒業を目前にした今日まで、〇さんはあのつらい気持ちをずっとずっと自分の心の中に閉じ込めていたんだと思う。2年生の時私は〇さんと同じクラスだった。1学期は普通だった。でもいつからかクラスの中でいじめを受ける子が出てきた。それは女子ばかりだった。だから男子や、もしかしたら当時の担任の先生も知らなかったかもしれない。私が知っているだけで3・4人はいた。だれがいじめを受けたというのは、いじめを受けた子の友だちから聞いただけで、本人からは聞いていない。みんなはだれがいじめを受けたというのうすうすわかっていたし、いじめをした子がだれかというのもだいたいわかっていた。でも誰一人やめさせることができなかった。私もできなかった。陰ではみんなで集まって「許せんなあ」って言えても、実際目の前にするとへらへらニコニコと仲が良さそうにふるまっていた。特に3学期がひどかった。どんどん墮落していく友だちも出てきた。クラスは目茶苦茶になってきた。クラスの雰囲気嫌だった。学校に行くのが嫌だった。でも何もできなかった。〇さんは学校の中では元気そうだったし、平気そうに見えたし、それに嫌なことをされた子とも仲良さそうにしているように見えたから、あんまり気にしてないんだと思っていた。でも今日の〇さんの発言を聞いて、ずっと〇さんはつらかったんだと思った。仲良さそうにしていた時も、元気に笑っていた時も、ずっとずっとつらい気持ちを抱

えていたんだと思った。私が気がつかなかっただけだった。気がつかないで勝手に自分で違う解釈をしていた。〇さんは私が思っていたよりも何十倍も何百倍も深い心の傷を背負っていたんだと思う。今謝りたい気持ちでいっぱいです。気づかなかった自分がほんまに恥ずかしいです。

前に学習した資料の文章の中に、「差別はありませんと言わせる社会自体に差別がある。」という文章があったけど、今日やっとその文章の意味がわかったように思う。あのとき〇さんが仲良さそうに平気そうにしていた苦しさや悲しさがやっと見えてきた感じがする。〇さんを始めとするいじめられた仲間を黙らせてしまうクラスの雰囲気こそが、いけなかったんだと今になって気がつく。あの雰囲気を変えれなかった私たちが〇さんに何も言わせないようにしてしまったんだと思う。仲間を支えることができなかった私たちが駄目だったんだと思う。

3年生になって全体学習をやり始めて、3年生全体が盛り上がったあの日から、私たちは変わったと思う。全体学習を通して仲間同志が支え合うことの大切さがわかってきたし、仲間を信じることの喜びを味わうこともできた。信じるということのすばらしさを私はこの全体学習で実感し続けた。

今日2年生の時墮落しかけていた友だちも立ち直って発表していた。それもこの全体学習によって頑張ろうという気持ちが沸き起こってきたからだと思う。人間って、努力したら変われると思う。仲間と一緒に強くなっていきたい。私の友だちが、また私自身が、将来差別を受けるかもしれない。そのときはこの1年間、3年の仲間と取り組んできた全体学習や3年B組の道德の時間の熱いものを思い出して、堂々と立ち向かっていきたい。どんどん力をつけて……。そして3年B組の仲間や3年全体の仲間と支え合って、いつまでも頑張り続けたい。

もうすぐ卒業だけど、板野中学校で取り組んだ全体学習、同和問題学習は絶対忘れない。みんなとやってきたことは決して偽りではない、まさしく本物だと思う。

私はこれから自分を信じて、自信を持って生きていきたい。自分を好きになりたい。卒業式は体育館がめげるぐらいに、でっかい声で歌いたいと思う。みんなで……。

(「峠を越えてⅢ・全体学習、輝ける日々」より)

※

最後の文章が今も私の心につき刺さります。その最後の文章をしっかりと考えていきたいと思っています。その部分をしっかりと読んでみてください。今一度記しておきます。

※

前に学習した資料の文章の中に、「差別はありませんと言わせる社会自体に差別がある。」という文章があったけど、今日やっとその文章の意味がわかったように思う。あのとき〇さんが仲良さそうに平気そうにしていた苦しさや悲しさがやっと見えてきた感じがする。〇さんを始めとするいじめられた仲間を黙らせてしまうクラスの雰囲気こそが、いけなかったんだと今になって気がつく。あの雰囲気を変えれなかった私たちが〇さんに何も言わせないようにしてしまったんだと思う。仲間を支えることができなかった私たちが駄目だったんだと思う。

※

この前に学習した資料こそが、第1回目の全体学習で学習する資料「母の願い」です。この資料は、改めて資料として皆さんに配りますが、ここで紹介しておきたいと思います。この「母の願い」と題した資料は先生方に対するものですが、全体学習は先生方と共に3年全体で同和問題の解決に向けて取り組んでいくんだという思いの中で、この資料が選ばれました。この資料に込められたお母さんの願いをみんなで考えていきたいと思います。そして、みんなで確かな生き方



をつかんでいきたいと思います。

※

### 『母の願い』

私自身が部落出身ですと言えるようになったのは、ほんの数ヶ月前です。自分は部落出身だと知り、どうしてこんな所に生まれたのだろうとくやし涙を流した遠い昔の日々がありました。

そして、部落の青年と恋愛し、結婚して3人の子どもの恵まれました。子どもたちを育てていく中で、部落出身であることをどうして私が教えなければならないの……。教えることじたいが差別を認めることになる。

自分さえしっかりしていれば、健康で純真な子どもに育てれば差別はないと信じていました。学校へ行くようになるとおのずと学習会に参加しなければなりません。何も知らず、いや疑問を抱きながら子どもの通う姿は、私にはつらくもあり、腹立たしいものでした。しかし、行くなどとも言えず心の中で悩むだけの私でした。

そして、気がついたのです。それは、私の心の中に部落は悲惨であり、貧しく、そこに住む私たちは賤しいものという意識が知らず知らずのうちに入り込んでいたのです。だから、自分自身が顔を上げることができなかったのです。

その意識があったからこそ、故郷に誇りがもてず、部落を名乗れず、生まれたことを恨んでいた自分があったのです。

しかし、部落に生まれたことをそんなに簡単に喜びに変えられますか……。たとえ喜びになっても、どれだけそれを表現できますか……。いえ、差別が渦巻く社会の中で、表現なんて出来ようはずがありません。ではどうすれば故郷を誇りに思い、そこに生まれた私たちも人間としての喜びを感じられるようになるのでしょうか。

故郷に住む若い母親たちとそんなことを話し合いました。その話し合いの中から、いつもいつも差別はなくなったかのように自然にさりげなく会話するのではなくて、このつらくてどうすることもできない気持ちを語り合っていこう。先生に話していこうとする部落差別を真ん中に据えた会が生まれました。

会の中では、「私は同和地区外からここへ来ることによって差別解消の役割をしていると思っていた」とか、「廃品回収の山をトタンなどで隠せばきれいになってみる目も変わるのじゃないかしら」とか、「教養・知識・文化面を取り入れたらもっと認めてもらえるのにねえ」というような会話がかわされていきました。

会も積み重ねてきましたが、私には部落出身であると知ったときの悲しさはどうしても忘れられません。お母ちゃんがお膳の上で書いている習いかけのような幼稚な文字を見て部落差別というものを嫌というほど感じました。友だちのお母さんにあの子と遊んだらいかんと言われても、私は黙ってうつむいていました。こんな気持ちを子どもたちに絶対させたくない。必然と先生から親から声が上がリ、私たちも勉強しようということになりました。しかし、本当に勉強というものはしんどいです。それを今日まで続けられたのは、先生の姿でした。

教師だから同和教育をするのではなくて、人間として許せない、許すことができない差別を解消していくんだという先生の姿、今日にでもなくなってしまうと願う部落の人たちの思いを受けて自分は一体何をすればいいのか今もなお暗中模索の状態と言われる先生の姿、国民的課題と言われているが一体自分とどう関わりがあるのだろうかという先生の日々悩む毎日ですという先生の姿、そんな先生方の姿を見て、私たち部落の親が少しずつ差別を訴えていけるようになりました。

差別は黙ってはいはなりません。あなたの、部落民である私に対する意識がこんなに私を苦しめていますと訴えていかなければいけないのです。こんなに強く発言できるようになったのも、多くの頑張る教師の姿を見たからです。研究大会や講演会、いろいろな大会に出席することによって差別の厳しさを感じていったからです。

この頃こんなことを思うようになりました。差別の厳しさを知れば知るほど、この子どもたちをしっかりとさせ、将来きつと出会う部落差別に負けない子どもたちを創っていこうとする先生の姿について私は一言言いたいです。

部落の親にとっては、無心になって遊ぶわが子をどれだけいとおしく可愛いものであるか。この子が差別によって人生を狂わされることがあったとしたら……、そう思うだけで差別を今すぐにもなくしたいと働きかけます。先生たちは将来子どもたちは差別に出会うという前提で取り組まれています。そこなんです。先生は無心に遊び、学び、素直な目で「どうして僕たち、学習会にいかなあかんのや」と訴えてくる子どもたちに応えてやっていますか。「差別は先生かて許さへんで、学習会にいかんでもよい社会を先生が創っていつてやるで」と応えてくれていますか。「お前たちも一緒に差別解消に取り組むんやで」とはっばかけてやっていますか。つまり、私が言いたいのは部落差別をなくしていく一人になってほしいのです。

先生じゃなくて一人の人間として、差別を許さない生き方を見せてやってほしいのです。いけないことはいけないと言える人間になってほしいのです。部落に住む人たちの中でも差別はなくなっていると言われる方がありますが、「差別はなくなりました」と言わせる社会自体に差別があることに気がついてほしいと強く願っています。

(全国同和教育研究大会福岡大会での会場からの発言から)

※

この資料についての感想、あゆみ等にまとめてください。繰り返し繰り返し読んでほしいと思います。続いて卒業生が取り組んだ最後の全体学習の記録です。卒業生の一つ一つの語りに込められた願いをみんなでしっかりと受け継ぎ、みんなで全体学習への取り組みをよりすばらしいものにしていきたいと思います。

※

#### 【授業記録】

第6回全体学習全体授業 主題「本当の思いを語り合える喜びを求めて」

1993年3月12日(金)第3校時

3年全体 授業者 森口 健司

T<sub>1</sub> 今から最後の全体学習ということで話を進めていきたいと思います。またみんなのいろいろな思いを語り合いたいと思います。みんなが学校へ来るのも、今日を入れて3日だけです。この1年、B組、D組、C組、E組、A組と全部のクラスが1回ずつ公開授業をやった思いを語り合ってきたわけですけど、最後にこのことだけはみんなに伝えておきたい。このことだけは、みんなにわかってほしいと思うことを出し合う時間になったらと思います。昨晚ある子が電話をくれました。話の内容は、最後の全体学習を是非ともやってほしいということでした。先生もその子と同じ思いでいました。みんなの思いをもっともっと聞いておきたいし、先生の中にもわかってもらいたい気持ちがいっぱいあります。

T<sub>2</sub> 全体学習、3年生の最後、思うことを出してほしいし、語ってほしいと思います。みんなの言葉を待っています。挙手してください。

DH(男) 今まで全体学習をしてきて、3年生は初めに比べて十分まとまった学年になってきたと思います。いろいろな資料を使って学んできました。最後の全体学習も、1年生、2年生を交じえた全体学習にしたかったという思いがありましたが、3年生だけの全体学習になってしまいました。あと少しで僕たちは卒業なので、2年生にあとを継いでもらいたいと思っているし、3年生だけになってしまったこの授業を2年生へ贈る言葉として、この全体学習を進めていきたいと思います。

MK(女) 今の発表を濁してしまうような感じになってしまうけど、最近、卒業式の歌の練習をしていたときに、私の友だちがいやがらせを受けたそうなんです。その友だちが悩んでいる顔をしてきたので、私が「どうしたん……」と聞いたら、隣の組の子にいやがらせを受けたって、すごく悲しそうに言ったので、私そのとき友だちに聞いたんです。「あんたの組の子、何も言わなかったん……」って言ったら、「ううん、見ていたけど知らんふりばかりしよった」ってすごく悲しそうにしていたんです。「いやがらせやったこの友だちの〇〇さんも何も言わなかったん。あの子なら言うんとちがうん……」って聞いても「ううん、言わなかった。何も言うてくれなかった。」って言うんです。私すごく腹が立って、その子の組、B組に殴り込みにいこうと思ったんです。あんなに全体学習で良いことばかり言よって、実行に移せんのかと思って、森口先生がついているのにどうして止めることができるのかと思って、その夜、森口先生に電話したんです。いろいろ話をしてくれて心が落ち着いてきたんです。今まではみんなに期待を持ってしゃべっていったけど、私は今回の全体学習を通して、私の友だちやいじめられている子に対して、私自身どれだけ思いを伝えていくことができるか、自分自身を試すために訴えていこうと思います。

MK(女) みんなに言うけど、いじめられよる子が惨めでないです。いじめよる子が惨めなんです。私たちは全然惨めでないんです。いじめて差別するということは楽なんです。でも差別に立ち向かうということはすごく苦しいんです。差別に立ち向かう間は苦しいけど、それを乗り越えた時のうれしさってもう何とも言えんぐらいうれしいものなんです。

MK(女) 最近、私は体育の時間のバスケットボールのゲームの時、私を嫌っている子たちにこてんぱんにやられたんです。突き飛ばされたんです。だけど私は負けなかった。試合でも8対8の同点だったし、私は全然反則も使わなかった。そのことは私が勝ったということなんです。その子たちは私を脅してくるようになつてきたけど、私は全然脅されませんでした。私はだいぶ強くなれたと思うし、それはその子たちに勝ったということなんです。そういう私を見よって周りの子は、すごく情けないように思うかもしれないけど、私はこういう自分にすごく誇りを持っています。私はこの1年ですごく強くなったなあと思って、その時の自分が何とも言えないぐらいうれしかったんです。だから私の友だちにも強くなってほしい。強くなってから何もかもが始まるんだと思います。みんなが言っている綺麗事、差別はいけないという綺麗な言葉はみんな発表しているけど、それは本当の綺麗な言葉ではないと思うんです。みんなは今まで作文で綺麗なことを書いてきたけど、私は本当に綺麗な言葉は、ほんまに自分が強くなって差別心をなくし始めたとき綺麗な言葉って見えてくると思うんです。単に綺麗な言葉を探して全体学習でしゃべることが、差別に立ち向かっていくことではないと思うんです。私は差別者と闘うことが、差別問題に取り組むことだと思うんです。私はまだまだ発表していくけど、私の友だちにも強くなってもらいたいし、そういう気持ちを込めて今日の全体学習に取り組みたいと思います。

T 3。本当に思っていることが言える関係であってほしいと思う。それがこの取り組みがスタートした一番に理由なんです。この4月、みんなが3年生になったばかりの頃、入学式の歌の練習をしていたとき、Kさんが言ったようなことがあったんです。一生懸命声を出して歌を歌ったら、椅子を引っ張られたり、嫌な言葉を言われたり、だから心の底から思いきり声を出して歌うことができなかった。そんな訴えを4月にも聞いていたんです。私はそれはほんまの人間関係ではないと思ったんです。信頼し合えたら腹の底から歌が歌えるし、本当に思うことが言える。そういうつながりをつくっていきたい。ほんまにみんながつながっていったら、それがこの学習のスタートだったと思うんです。でもまだまだ口惜しい現実がある。H君が言ってくれたこと、Kさんが言ってくれたこと、この全体学習が最後です。みんなの本当の思いでつないでいってください。

YT(男)H君の発言について、僕も一緒になるかもしれないけど、ずっと全体学習をしてきて、僕たちはいろんなことを学んできました。最終的には、みんな信頼できる仲間を創るために全体学習に取り組んできたような気がします。この最後の全体学習を2年生や1年生に見てもらえない聞いてもらえないのが、とても残念だと思います。こうやってビデオに映して1年生や2年生に見せても、この会場にいて僕たちの熱気を感じながら授業を見るような感動はないと思うんです。この学習のすばらしさは直接耳で聞いて目で見て、それでやっとわかっていくものだと思うんです。この全体授業でみんな1年生や2年生に伝えておきたいことがいっぱいあると思うんです。僕たちの思いを思いきり語り合っていきたいと思います。

RO(女)Kさんの発表の中にも出てきたけど、3年生になってからの第1回目の全体学習で、友だちに自分がいじめられているということを聞かされて、助けてほしいと言われたことがあったんです。そのことを自分なりに、この全体学習をしていく中で考えていったんです。これはこのままにしておいたらいけないと思いました。それでも私はその全体授業の中で、返答に一瞬悩んでしまって、迷わずに発表することができなかったんです。それはやっぱり私の中に差別心というものがあったからだと思います。けどその次の日だったと思うけど、いじめられていた友だちの周りに友だちが集まっていたんです。やっぱりみんなその子を守ってあげたいという気持ちがあったんだと思います。そのこともあるんだけど、この全体学習とかを通して、自分のいろいろなことに対するものの見方が変わっていったように思います。みんなの発言に励まされてきたし、先生の発言や頑張りが私の中で大きなプラスになっていて本当に勉強になりました。この学習は絶対に続けてほしいと思います。先生に頼むような形になってしまうけど、来年もずっと頑張って続けてください。

T 4。ありがとう。

KO(男)だれの中にも差別心はあると思います。差別心をなくすために、この全体学習に取り組んでいると思います。全体学習もこれからも続けていってください。よろしくお願いします。

DT(男)今まで1年間全体学習をしてきたので、1年、2年の人たちのもこれをずっと続けてもらいたいです。

DY(男)Kさんに言いたいんだけど、Kさんは友だちのために何かしてあげたことがありますか。それがないからその友だちとかが、いじめられるんじゃないですか。

MK(女)私が友だちにやってあげたことは、私の友だちに聞いてみなければわからないけど、私は私なりにできることをやってきたという自信があります。だけどその友だちのためにどういう影響を与えることができているかは、その友だちに聞いてみなければわかりません。私は

私の友だちのことについて話したいんだけど、器用な汚い生き方のできる友だちではないんです。だからこれからもどんどんいやがらせを受けるようになるかもわからないけど、負けないでほしい。私もどんどん強くなりたい。涙が出てくるけど許してください。私も強くなっていくし、友だちにも強くなってもらいたい。はっきり言って私も私の友だちも、他の人にとっちらいてもいなくてもどちらでもいい存在だったんです。都合の良い時は優しくして、都合の悪い時はいじめて、私たちをいじめて発散して気持ちのいい顔をする。そういうようなことをしてたまに優しくしてくれた時に、私たちは単純だから、あの子は優しいんだと思ったら、すぐ裏切っていやがらせをしてくる。どうしてなんだろうと思います。私の友だちはそんな感じでいつもいやがらせを受けています。私は私の友だちに言いたい。これからもどんどんいやがらせを受けるかもしれないけど、差別者の思い通りになって、その人に合わせて、その人を祭り上げたら、その差別者は喜んでいけど、そんな情けない生き方だけはしてほしくない。私たちは差別者の都合のいい人間になっていったらあかんと思う。私たちは絶対惨めではない。私たちを惨めな人間と思い込ませよるのが差別者だと思うんです。私たちをいじめて自分が上になったような気分にいる。そんな人間に絶対負けたらあかんと思う。だから強くなっていかなあかんと思う。私ができるのはそんな話をして友だちを励ますことだけです。助けることはできんけど、励まして一緒に頑張ることはできると思う。私は友だちに私の生き方を見てもらって、友だちに勇気を持ってもらって、友だちが差別者と闘うような生き方をつかんでもらう。残念ながら最後の頼れるのは自分だけだと思うし、だから強くなってもらいたい。私もどんどん強くなっていくから、一緒に強くなっていきたい。私がこんなにしつこく友だちの話をするのは、私自身が今までいじめられてきたし、今も差別されているし、だからこそ惨めにされよる人間が強くなって差別者に勝っていかなあかんと思うんです。私は私の友だちにかけているんです。今の私の友だちなら私のような生き方ができると期待しているから、私も一生懸命に頑張れるんです。

MK(女) これからも差別者にいじめられていくことがあると思う。その度に悩んでいたら生きていけないと思う。私だってたまに死にたいと思ったこともあるし、私みたいな人間はこの世で生きていけん、生きとるけんいじめられたりする、ほなけん死んだ方がいいと思ったことがあったんです。みんなには想像ができませんかもわからんけど、死ぬか強くなるか。私にはその二通りしかないんです。私は強くなりたい。私の友だちにもこの全体学習で発表してもらって、本当に強くなってほしい。私が友だちにできるのはここで手を挙げて友だちを一生懸命に励ますことしかないし、自分が強くなって生きていく姿を見てもらうしかないんです。

T 〇 そこまで一生懸命になっている思い。今語ってくれた差別の本質というか構造というか。自分が人をいたぶって見下げて踏みつけていく。それでもそのことに気づかないで、自分の差別心をごまかしていく。自分がなかなか見えてこない。早くみんな自身の本当の姿、人間としての本当の生き方やあり方に、目覚めてほしいという願いを持って思いを語ってくれる仲間がいる。その仲間の思いにみんなの本当の思いをつないでほしいし、共に頑張っていく仲間の一人であってほしい。ちょっときついかもしれないけど、みんなに言いたい。口先だけの格好だけの見せかけだけの自らを偽った人間にはなってほしくない。本当に差別をなくしたいという生き方をつかんでほしい。それがこの学習に取り組んでいる私の一番底にある思いなんです。つなげてください。

ST(男) ちょっと水をさすようで悪いけど、こんな全体学習をみんなでやれてきたんだから、1年

や2年にもつないでいって、板野中学校の伝統にしてほしいと思います。

YM(男) Kさんが言ったように、自分をもっと強くなってほしいと思います。他の人がいよることを真似するのではなくて、自分なりの意見を持っていったら他の人とかに流されんと思います。間違っただけを自分でしてしまったり、他の人がやっていることに自分も入って悪いことをするということは、自分が弱いからそうなると思います。もっと自分の意志を強くして、他の人に流されんようにしてほしいと思います。

NS(女) 私の友だちにお金を何回も持ってこいと言われてきた子がいました。でも私はその子のために何もしてあげられませんでした。でもこうして全体学習をしてきて、私も少し変わってきたような気がします。強くなれたような気がします。

AI(女) 全然関係のないことなんですけど、ちょっと言わせてください。これは3年生の初めから思っていたことなんですけど、みんなの話が続いているのに立ち切るようで悪いんですが、私が言いたいのは私の部活「美術部」のことなんです。美術部は私が2年の時は、清重先生が指導をしてくれて同好会として立派に活動していました。そして清重先生がいなくなって、美術部は廃部になりかけました。どうしてかという先生がいなくて活動ができないということです。そして今度は美術の先生も美術同好会を担当してくれないということでした。それで美術の先生でなくてもだれか顧問をつけてほしいと頼むと美術同好会は清重先生が好きでやっていた部活だから、ちゃんとした部活でないし、顧問はつけられないということでした。美術部はその時10人程部員がいました。普通部活というのは、やりたい人が集まってできるのが普通だと思います。そして結局は教頭先生が顧問についてくれることになったんですが、もともと教頭先生は美術の先生でないの、私が3年生の3学期までたいした活動もせずに来たんですが、私が何か一つ変だなあと思ったのは、富加見先生が人権部をつくったでしょう。人権部は人権部でいいんです。それで私がおかしいと思ったのは、富加見先生が人権部をやりたいと思ったら、それから部員が集まってちゃんと活動ができるのに、どうしてやりたいと思って集まっている美術部が活動できないのかなあということでした。今は3学期に新しくおいでた美術の先生が教えてくれています、美術部の活動は1学期、2学期とあまりできませんでした。部落問題の学習でみんなが一生懸命話しているのに途中で全然関係にことを言っすみません。けどこれは私の友だちや美術部の仲間全員がずっと言いたかったことなんです。今日全体学習があるというので、一度みんなにも聞いてほしいと思って言いました。

MK(女) Iさんに続けるんですけど、私もIさんからそのことを聞いていたので、私このことは近藤先生に言ったことなんですけど、私もちょっとおかしいなあって腹を立てていたんです。どうして先生が勝手につくった部活が続けられて、美術部で今まで自分たちが好きで一生懸命守ってきた美術部が、どうしてつぶされなければならないのかと思って、私すごく腹が立っていたんです。私、その時思ったんですよ。部活というのは生徒が自分が好きだから一生懸命やっていこうとするものではなくて、先生の管理の上でやっていたんだなって……。そのとき物凄くショックだったんです。それから近藤先生が職員会で話し合ってみると言ってくれたから、その場はホッとしたけど、そこのところはおかしいと思ったんです。全体学習とかをやっているけど、矛盾したようなことがいっぱいあると思うんです。私の身の周りでも、先生の間でもそのようなことを直していかなければいけないと改めて思います。

T。 ありがとう。だから全体学習がつぶされそうになっていくんでしょう。だからこそこの取

り組みを続けていかなければならないと思うんです。私たちの周りにはまだ根本から洗わなければならないことがいっぱいあると思うんです。その中から私たちの確かな生き方が生まれていくと思うんです。

MK(男) 4月から始まって5回にわたる全体学習で僕たちは、差別を見抜く力と間違った考えを正しく直していく力をつけたと思います。そしてもっと大切なのは互いに信じ合える友だちや本音を語り合える友だちをつくることができたことだと思います。そして何よりここで発表しているみんなをここににいるみんなが支えていかなければ、この全体学習はここで終わってしまうと思います。だからここに人でも、差別に苦しめられてつらい思いを持っている人もいます。だからそんな思いを持っている人をなくすためにも、今ここにみんながそんな人たちを支えて意見を言ってもらいたいと僕自身思います。

RA(女) 今、今日の授業は3年生だけって言ったけど、1年生とか2年生の人も来てくれてすごくうれしいです。私は5回全体学習をしてきたけど、何やかんや言ってもまとまってないかもしれん。綺麗事言えるかもしれんし、あんなこと言うてと思うとる子もおるかもしれん。けどいいかげん格好つけるんやめないかんと思う。ほんまみんなやって差別なくしたいと思うとるはずやし、いじめよる人やって、ほんなんしとうないっていう気持ちもあるはずやと思う。なんや関係ないって格好つけてしまう自分が情けないと思うとる子もおると思う。こうやってみんなが言うて全体学習して、今まで私たちが頑張ってきたことがなんだったんだろうと思う。Kさんの話を聞いていても、ほんまにつらあなって私たちの関係ってこんなもんだったんかと思う。3年生、まとまるとるような振りしてほんまはまとまってないかもしれん。今ここでまとまらんかったら後はないけん。このままだったら今の私たちは1年、2年の子に頑張ってもらいたいや言えんわ。今私たちがきちんとしていかんかったら、全体学習も終わってしまうような気がするし、先生やって一生懸命になつとるのに、私たちが期待裏切ったら、どうしようもないと思う。1年の子も、2年の子も、頑張っていこうという気でここに来てくれとるんやけん。私たちがしっかりせないかん。1年の子にも2年の子にも頑張ってもらおうと思うし、1年の子にも2年の子にも発表してもらいたいと思う。私たちの気持ちを一つにして、1年や2年の子に思いをつないでいきたいと思います。

T ♪ 今のAさんやKさんの思いにつないでいってください。

R0(女) この全体学習を始める前に、教室でみんなで発表しようなって約束したんです。Aさんが言ったようにここでほんまの思いを伝え合うことができなかつたら、もう後がないと思うんです。私たちのクラスだけではなくて、みんなが発表できたらいいと思います。みんながあの約束を忘れないようにみんなで発表できたらいいと思います。

AA(男) 自分一人でも差別を解決していこうとする姿勢がいます。

HK(男) 僕たちの学年は勉強も悪いし、よく物とかを壊すけど、全国的に誇りにできる全体授業ができるということだから、みんなもこの取り組みを誇りに頑張っていけたらと思います。

MK(男) 話は変わるけど、僕は小学校の時、板野中学校は悪いところだと聞いていました。でも3年生のなって全体学習に取り組んできて、板野中学校は学校全体で差別解消に取り組んでいるすばらしい学校だと思うようになってきました。

YS(女) みんなに一つ教えてもらいたいことがあるんです。信頼の意味を教えてください。今頃になって教えてもらうのは遅いかもしれないけど、どうしてもそのことをはっきりしておきたいんです。信頼の意味を教えてください。

MK(女)信頼ということの意味は、自分が一生懸命に友だちと共に何かに取り組んで付き合っているうちに、この子なら私のことをわかってくれるという思いが生まれてくる。私の場合はそれが信頼だったと思うんです。信頼というのは相手から生まれてくるものではなくて、自分が一生懸命に頑張っていく中で、この相手なら信じていることができるという思いとなって生まれてくる。それが本当の信頼だと思うんです。私はそう思うんです。

T。本当の思っていることが伝え合える関係、己を偽ることなく、ごまかすことなく語り合える関係、そんな関係をつくるためには、まず自分が立ち上がっていかなければ、本物の信頼に出会うことができないんです。そして、みんなが立ち上がるとは、ここで手を挙げて本当の思いを語るということです。また、みんなが一生懸命に歌が歌える関係もそうだと思うんです。歌を歌った時、ちゃかしたり馬鹿にする人間がいない関係、みんなが心の底からわかり合えて信じていることができる関係、そんなつながりを求めて頑張ってきたんでしょう。卒業式もそうだと思うんです。信頼というものを明らかにし、立派に別れて立派につながっていく。そんな信頼を求めて頑張ってきたと思う。みんなに心の底から言いたい。本当の信頼を求めて仲間の思いにつなげていこう。これが最後だ。

CO(女)これが最後の全体学習になるけど、去年の3年生が私たちに全体学習を続けてほしいと言った時、私は私たちにはできんと思ってたし、すごく不安だった。今みんなが発表するのを聞いていたら、私たちにもできたんやなあという感じがしてうれしかったし、去年の3年生が私たちに言うてくれたように、今は私自身、1年、2年の人にこの全体学習を続けてほしいと本当に思う。去年の3年生が私たちに言うてくれた気持ち、今わかるような気がする。それとKさんの友だち、今Kさんが一生懸命に頑張っているのに黙って座っているのは、Kさんを裏切ることになると思う。頑張してほしいと思う。

SK(女)信頼というのは自分の嫌な部分も全部さらけ出せたり、格好つけなくても一緒に過ごせる友だちとの間にできるものだと思います。私は卒業式の歌の練習をしても、あまり大きな声で歌うことができません。大きな声で歌っていたら音痴とか言われへんかと思って、声がどうしても小さくなってしまいます。そんなことを考えてしまうのは、友だちを信じていないということだと思います。私は格好をつけて生きるのではなくて、友だちを信じてありのままに生きられる生き方がしたいと思います。さっき歌の練習の時、いやがらせを受けた子がB組におるというのを聞いて、私はB組の仲間として、そのことに全然気がつかなくてごっついつらかったです。

NN(男)差別する人が一人でも減るように、これからも全体学習を続けてほしいと思います。

CM(女)私はすごく大切に思っている友だちが、つらい目にあっていても何もしてあげることができませんでした。私はKさんみたいに強い人間にはなれませんでした。その友だちからこういうことを聞かされた時も、影でそんなんずる何とか、卑怯なとか言うだけで、私はその相手の子には何も言えなかったし、最後の方にはそのつらい思いをしよる子が何も抵抗せんのだったら、もうええんと違うんと言っておきまわっていました。結局自分が卑怯な人間だったんだと思います。でも私は一生懸命に強い人間になりたいです。いつまでもみんなと頑張れる人間でありたいです。

KT(男)僕が差別解消への行動を起こせたのは、全体学習ぐらいです。僕の他にもそういう人が沢山いると思います。もし全体学習がなくなったら、僕みたいな人間も行動に移せる機会がなくなってしまうので、1年、2年の人にも頑張って続けてもらいたいし、僕たちができなかつ



たことをやり遂げてほしいです。

DY(男)全体学習を続けてほしいけど、3年D組の全体学習の時の6時間目の全体授業で2年生の生徒が、笑いながら発表していました。あんな形で発表するような全体学習は絶対してほしくないです。

YI(女)1年、2年の人にも発表してもらいたいです。私はこの全体学習を少し面倒くさいと思っていた時がありました。でも友だちの涙を見て、友だちの思いに触れて、本当に一生懸命に頑張りたいと思うようになりました。

YM(男)Oさんが言っていたように、僕たちはここにくる前に、みんなで約束しました。けどまだ手を挙げられていない人がいます。みんなのことがまだまだ信頼できないのかなあと思います。本当に信頼できるんだったら頑張って手を挙げてください。

YA(男)さっきA君が言ってくれたことに続けて言いたいと思います。僕たちはやがて新しい進路に進んでばらばらになってしまいます。板野高校に行く人は100人ぐらいの仲間がそばにいてくれるけど、板中の仲間と別れてたった一人や二人になる人もいます。その一人や二人になった人が、仲間はずれにされたり、いじめられたりするかもしれません。そんな時A君が言ってくれたように、一人一人がもっともって強くなっていかなければ、これからはやっていけないと思います。僕もたぶん、みんなと別れて一人になると思うけど、みんなと頑張ってきたことを支えに頑張りたいと思います。

NS(女)3年になっての6月ぐらいに私が言った一言で、私は何人かの人にひどくいじめられました。そのことを私は黙ってだれにも話さずにおこうと思っていたけど、AさんやMさんに相談しました。そのときAさんやMさんはいろいろと言ってくれました。それで少し落ち着きました。でもこれからは高校生として強くならなあかんけど、いじめられると思うと恐いです。

MK(女)発表して恐いとか、誰々さんの目が恐いと思うのは、差別者に好かれようと思う心があるからだと思うんです。発表しなかったり、何も言い返さなかったり、反抗しなかったら、差別者に気に入られるでしょう。だから発表できないんです。私の友だちもいやがらせを受けた時何も言わなかったんです。「どうして何も言わなかったん、私がちゃんと言うてあげる」と言ったら、後から何をされるかわからないので恐いというんです。後から何かされるのが恐いというのは、その差別者に気に入られようとしているんです。何も言わなかったら差別者に気に入られるし、被害も加えられない。そう考えると黙って泣き寝入りした方がいいと思ってしまう。でもそれは自分自身をほんまに惨めな情けない人間にしてしまうことなんです。絶対差別者の思い通りになるような人間になってはならないと思うんです。泣き寝入りして、思い通りになっていて、絶対に幸せになっていかないし、それは差別者を増長させて差別を肯定して差別を繰り返させてしまうことになっていくんです。そんな状態の中でいくら差別問題を語り合ってもそれは何の解決にもなっていないんです。私は差別者と闘いながら、差別問題に取り組んでいくという姿勢をみんなが持っていかなければ、この全体学習も本物にはなっていないし、単なる綺麗事の世界で終わってしまうと思うんです。

DY(男)Kさんに聞きたいんですけど、そのいじめられよる友だちには何かしてあげましたか。

MK(女)私には励ますぐらいのことしかできていません。その子が差別者と闘えるような人間になるように私は今一生懸命、私の本当の思いをここで語っています。その時は、カッとなっていやがらせをした子のいるクラスや友だちのいるクラスに殴り込んでやろうと思ったけど、森口先生に電話をして、今話したようなことを考えるようになりました。

NS(女)私がさっき言ったことについてですけど、私は心の中で差別者に好かれようと思ったかもしれませんが、でもいじめられた時のつらさって、ほんまにつらいんです。その気持ちはいじめられた人にしかわからないと思います。

CO(女)自分をわかってもらうことだけ考えて、人のことをわかろうとしないのでは何も変わっていかないと思います。それと1年生と2年生の人は、今私たちがしていることを見てどう思いますか。それが聞きたいです。

RO(女)さっきのSさんの発表についてですけど、Sさんの苦しみは差別された人にしかわからない苦しみだと思います。私はあまりそういうことをされたことがないのでわからないんですけど、差別された時とその後が問題なんだと思います。そこで泣き寝入りというか、黙ってしまったら、負けたことになるかもしれないけど、私は負けん気が強いのでなくそと思って言い返したりすると思います。それはその人次第だと思います。すごいこれは難しいことだと思うけど、その後で差別された人がどう反応し、どう行動するかということで、その人のその後の生き方に大きな影響を与えていくと思います。周りの環境とか、友だちとの関係というのもあるだろうけど、やっぱり頼れるのは最終的には自分一人だから、自分が強くなっていくことが最も大切だと思います。そして、自分に自信を持つことが強くなるということになっていくと思います。自分に自信を持ってなくそという気持ちで立ち向かっていけたら、その人の生き方は絶対すばらしいものになっていくと思います。みんながそうってほしいと願っています。

ET(女)私はSさんの気持ちはあまりわからないので応えることはできないけど、Kさんに助けてもらった人はわかると思うんです。これは全体学習が始まった頃から思っていたんですけど、Kさんはいつも友だちのことを話してくれるけど、その友だちがKさんに応えている場面を見た記憶がないんです。だからKさんの思いをそのまま受け止めてSさんに自分の気持ちを言ってあげてほしいと思います。それとたくさんの人が1年や2年の人に全体学習を続けてほしいと言っているけど、今の3年生には一番始めにした全体学習のような感動はないと思うんです。あの時みんなが流した涙やみんなが一つになれた感動をしっかりとよみがえらせて、ビデオを通してでも伝わるようなすごく大きな感動として訴えていかなければ、今のままでは全体学習はなくなってしまうと思います。私たちには今しかないのだから、自分の本当の気持ちを訴えていかなければ、今までの私たちの頑張りは何だったんだろうかと思うようになってしまうと思います。仲間の流した感動の涙を決して無駄にしないためにも、今の全体学習を精一杯に頑張らなければと思います。

T。ほんまに最後や。Tさんが今言うてくれたこと……。しっかりとかみしめて頑張っていこう。

HT(女)3年E組の人たちはうすうす気づいていたかもしれないけど、私は2学期に入ってちょっとして学校に来るのが嫌になって、登校拒否をしていました。他のみんなと違ってだれかにいじめられたとか言うのではないんですけど、とにかく学校に来るのが嫌で、結局自分の方から逃げていたんだと思います。その時は何人かの友だちが電話をかけてきてくれて、「どしたん？」って聞いてくれたけど、結局少しも自分から話ができませんでした。電話を受けるのも物凄く苦しくて、今思い出しても嫌です。結局あの時、自分が自分に立ち向かえる強さがあったら、私は登校拒否になんかならなかつたと思うし、自分で周りの人に迷惑をかけることなしに、自分で片付けることができたと思います。でもあの時はどうしていいのか全く

わからず、ずっと学校を休んで友だちとかにいろいろ励ましてもらったけど、結局問題なのは自分で自分はどのような行動をとればいいのか少しもわからなかったし、友だちに学校にきてほしいと言われても、行きたくないの一点張りで行かなかったし、あのとき学校を休んで何かわかったかと言うても何もわからなかったし、結局嫌な思いをただけで、また学校に来れるようになったけど、私は私なりに少しは強くなれたような気がします。だけど、あのとき励ましてくれた友だちや先生や親たちにも迷惑をかけて、先生や友だちにもごっつい苦しい思いをさせたと思います。このことは3年E組で学活とかがあったときにも言おう言おうと思っていたけど、ずっと言えなかって、本当にみんなを信じていたのに言えなかって、自分にも何か負い目みたいなものがあって、物凄く言えないということが心に残っていて苦しかったけど、今ここでみんなに話ができたことがとてもうれしいし、心の負い目を少しなくなっってよかったと思います。私は今の3年生のみんなを信じているし、このことで何か言われても、あのときは私が悪かったのだから、何も言い返すことができないけど、あのとき私にはああするしかできなかったし、自分の中でも結論はでませんでした。でも私のわがままで周りの人に物凄く迷惑をかけてしまったし、あれだけ迷惑をかけても支えてくれたり、励ましてくれたみんなを私は心の底から信じているし、そんなみんなに最後の全体学習をこの程度で終えてほしくないと思います。

T<sub>10</sub> 仲間の思いに応えていこう。

TA(男)今までずっとTさんと同じクラスでTさんと言えば、いつも何でも一番にやったり、まじめに取り組んだりして、僕はちょっと尊敬の目で見えていました。けど、Tさんにそんな思いがあったなんて、僕は今まで全然知りませんでした。何か今、何とも言えない気持ちです。

ET(女)卒業の少し前までクラスの一員の本当の気持ちを知らなかったということは、すごくつらいです。Tさんがそんな思いをしていたのは、私も全然知らなくてすごく情けないです。Tさんの思いを3Eのみんなや3年のみんなで見受け止めていけたらすごくうれしいです。

AA(男)全体学習を2年や1年に続けてほしいといったけど、全体学習が続くということは差別がまだ残っているということなので、一日も早く部落差別を解決していくことがこれからの大きな課題だと思います。

AM(女)あんまり上手に話ができませんかもしれないけど、みんな後少しで卒業してしまうし、高校もバラバラになっていろんな差別とかに出会うときがあると思うけど、みんなここで学習したことをいつまでも心に刻んでいて、いつかみんなで本当に差別がなくせるように強くなってほしいと思います。ほなけん、違う高校に行っても、いい友だちをつくってその人と信頼し合って、毎日毎日少しずつ強くなっていけるような人になってほしいと思います。

TK(女)私はもちろんD組のみんなを信頼しているんだけど、今聞いていたら発表している人の言葉の一言一言が重くて、みんなの発言に比べて自分が今言っていることは綺麗事のように思えて、そのことが不安でなかなか手を挙げることができませんでした。でも今立って発表できてうれしいです。みんなと意見が違ってもいいけど、1年や2年の人に発表してほしいという発言もあったけど、私は残り時間は3年生のみんなに精一杯発表してほしいです。

1・2年の人で発表したい人がいるかもしれないけど、残り時間を3年生にください。

KH(男)Tさんは今まで自分がつらくて言えなかったことをここで言うことができました。それでTさんも強くなったと思います。人間というものは、最後の最後までものすごい力が出せるので、だからみんなその要素を持っているはずなので、これからの生活でそれにもっと磨きをかけてほしいと思います。

T<sub>11</sub> 時間がオーバーしています。最後の全体学習、みんなにとって悔いのない最高のものにしたい。今挙手している人、起立してください。最後順番にマイクを回し、みんなの発言を保障して最後の全体学習をしめたいと思います。それでは順番をお願いします。

SI(男)僕は今ここで発表したことをずっと忘れたくはありません。そしてみんなの一言一言を大人になってもずっと覚えていたいです。

KE(女)私はTさんとかA君とかM君とかと一緒にTさんと同じクラスでありながら、Tさんが休んでいたのは他の理由があると思ってかつてに解釈して全然知りませんでした。3年E組で平和に暮らしてきたと思っていただけ、Tさんの苦しみに全く無関心だった自分が今とても嫌でした。それと今日の全体学習を通して、Kさんの思いやIさんの意見を聞けてよかったと思います。先生にもいろんな人がいるから、なかなかこの全体学習のよさを理解してくれない人もでてくると思うんです。でもこの学習はみんなで心をつなぐに取り組んでくることによってそのすばらしさがわかってきたので、一緒に取り組むこともせずに遠くから見ている先生には、この全体学習のすばらしさがわからないかもしれないけど、1年生や2年生にも頑張ってもらってそんな先生方にも、全体学習のすばらしさをわからせてあげてほしいと思います。

TI(男)この全体学習を通して、今までしてきたことは大人になると必ず役に立つときがくると思います。中学校を卒業するともうこういう機会はなくなってしまうと思うけど、今の自分をそのままにしておくのではなく、常に進歩し続けるような自分でいたいと思います。

HO(女)私はTさんのことをよく知っていると思って、毎日電話をしていたけど、ただ「早く学校に来なよ」としか言えませんでした。本当のTさんの気持ちがわかっていませんでした。Tさん、本当にごめんなさい。私は高校はTさんと別れるけど、ずっとこれかも忘れずにいたいし、高校へ言っても一生懸命友だちを信じて、たくさんの友だちをつくっていきたいと思っています。

YO(男)Tさんが学校を休んでいるのは知っていたけど、ただ調子が悪いのだと思っていました。Tさんには2年生のときいろいろとお世話になっていたのに、僕はTさんに対して何もできませんでした。クラスが離れたといっても、もっと広い範囲で人の気持ちがわかる人間になりたいです。

MK(女)3年生になって今まで全体学習をしてきたけど、今思ってみると本当に私が自分の心の底から思っていることを言えたのかなあと思います。みんなを信頼してきたと私は思うんだけど、やっぱり自分の本音を言えてない部分があったのではないかなあと思いました。

KS(男)僕はこれまでの1年間で振り返ってみると、3学期になって惨めなことが一回あったことを思い出します。僕はいじめられることを恐れてみんなから逃げる回数も多かったです。一番つらい思いをした2月19日、僕は肩を痛めて泣いていました。僕はC組の子に馬鹿にされました。本当につらかったです。2年生の修学旅行の頃、物凄く痛めつけられていました。修学旅行の2日目、僕は泣き寝入りをしました。黙って耐えるだけでした。今思うと3年間で泣き寝入りをしたことが2回あります。たとえ高校へ合格できても笑えないと思います。この発表をする前は興奮して心臓もドキドキしていました。自分自身は本当に最低な人間だったので全然強くなれませんでした。高校に行けたらどんなになるかわからないけど、とにかく気合いを入れて頑張りたいです。

SN(男)さっきちょっと前にA君が言ってくれたことに続くんだけ、これからみんな違う高校に行くと思うけど、今までやってきた3年間の全体学習のことや今ここでやっている全体学習

のことをこの体育館の中にいる先生方や1・2年の子や、それから同じ部活をしていて違う高校へ行く子やに少しでも3年間のことを心に残していてもらいたいです。

AM(女)全体学習に来る前にある子と約束をした発表をすることができてよかったと思います。D組の女子もほとんど立って発表してくれたので、とてもうれしかったです。このことを高校に言っても忘れずに頑張りたいと思います。

DY(男)今、後ろで聞いている1・2年生の人の中には、もう早く帰りたいと思っている人がいるかもしれないけど、よく聞いてください。僕の親戚は今、部落問題に直面しています。僕の親戚の女の人が、ある男の人と付き合っていて結婚しようとしているんです。その相手の男の人はK町の部落の出身で、僕の親たちがそんな男の人との結婚は許せんと言っているんです。そのような状況で親戚の女の人を家を出て行くと言っているんですが、そんな時、僕の親が部落問題は後10年してもなくなりませんと言い切りました。僕の親が言うには、部落差別をするように親たちから教育されてきた人たちが完全にいなくなるまでには時間がかかるということでした。その人たちがいなくなっても、そのまま放っておいたら人間には弱い部分がいっぱいあるから、知らず知らずのうちに部落差別をしていくと思うんです。だから僕たちがしてきたような部落問題に対する学習は、絶対になくしてほしくありません。これからも続けてほしいと思います。

H0(女)私はこの全体学習をずっとしてきた中で、初めて発表します。私は……………。(涙)

AT(女)この板野中学校に入学してからずっと部落問題学習に取り組んできたけど、この学校に入学して本当によかったと思います。これからみんなはバラバラになって高校は離れるけど、いっぱい差別に出会うことがあると思うけど、この3年間で学んだことを思い出しながら頑張っていきたいと思います。

YB(男)この授業を始める前の休み時間に、その子の友だちも発表するから、発表せえよって言うてまわりよる子がおって、物凄くそのことに感動して、こんな友だち関係を守っていけたら友だち同志のいじめとかいうものが絶対なくなると思いました。

MH(女)最後の最後まで何にも言えないのは嫌だから立ちました。たったこれだけの言葉でも言えてよかったと思います。Kさんほどは言えないかもしれないけど、これからも頑張りたいと思います。

HM(男)今までいろんな人の思いを聞いてきたけど、僕もその人たちに応えていくことのできる人間でありたいと思うし、みんなの思いを心の糧として僕自身ももっと強くなっていきたいです。

YF(女)最近私の仲のよい友だちが5・6人から悪口を言われて泣きながら相談に来たことがあったんです。私は陰口を言うのはすごく卑怯なことだと思うから、言わないようにしているんですけど、その時は思わず「何それ!」と言ってしまいました。その5・6人は関係のない人でその友だちのいいところを全然わかろうとしないのにすごく腹が立ちました。けどその陰口を言われた子がすごく強い子で結局私は何もしてあげられなかったけど、そんな卑怯なことはこれから絶対したくないなあと思いました。

A0(男)この1年間は発表できず、悔いが残った1年間でした。僕が大人になった頃、この全体学習の取り組みによって部落差別がなくなっていることを信じたいです。

HF(女)私は今までこういう場面で話をしたことがあったけど、他の人にとったら綺麗事という感じで聞こえたことがあったかもしれません。でも私は本当に言いたいことがあったから発表してきました。もう少しで私たちも卒業です。みんなバラバラになるけど、みんなでこうやって意見が言えたことを忘れないでほしいと思います。

AA(女)もう少しで卒業で高校生になったら、他の学校の子と勉強して生活するようになると思うけど、もし差別に出会ってもKさんのように負けないで強くなって生きたいと思います。

YT(男)今まで全体学習にみんなで必死に取り組んできたけど、最後の最後にまとまったような気がします。こんな全体学習が高校になれば数少なくなつて、その限られた時間を大切にしなければ、部落問題学習ができなくなつてと思うんです。高校での部落問題学習は、僕たちが勇気を出して本当の思いを語っていったとしても、その思いに応えてくれる人は数少なくなつていくと思います。いつもずっとやってきてその最後に僕たちの連れが悪いことをしたりして、先生方に迷惑をかけたことがありました。でもこの全体学習で語ってくれた仲間の思いは本物です。この最後の全体学習にみんなはかけていました。僕たちはいっぱい失敗してきたけど、この全体学習を通して培った部落差別をなくしていこうとする熱意だけはだれにも負けません。この思いは、1・2年生に自信を持って最高の贈り物として贈ることが出来ます。これからも差別解消をめざしてみんなで頑張り続けたいです。

YT(女)私はここで発表するのは初めてです。ずっと発表したい気持ちがあったけどできませんでした。最後の最後に言えてうれしいと思います。私はA町の友だちに板野町は恐いと言われたことがあります。その子は板野町には来るなと言われたことがあると言いました。特にM地区には絶対行くなと言われたそうです。そのことを言った人は板野町の人だということでした。その人は板野中学校出身で、私たちより三つ年上の人でした。三つしか違わない板野中学校出身の人にそんな人がいるということがごつついむなしかったです。その人は悪いことをしている人だけど、根性までくさつとると思いました。M地区はやくざがいっぱいおるけん行くなつて、言ったら殺されるとか、わけのわからんことをいっぱい言ったそうです。確かにM地区の人の中には派手な人もいます。でもいい人ばかりだと思います。私がこんなふうに思えるようになったのも、この全体学習のおかげだと思っています。前の私だったらこんな考え方できなかったと思います。板野中学校にいてよかったと思えるようになりました。森口先生の生徒でほんまによかったと思います。この3年生のみんなと全体学習ができてほんまによかったと思っています。

TH(女)さっきOさん(涙で発表ができなかった)が初めて発表してくれてごつというれしかったです。いっぱいつらいことがあつて涙が止まらんけど、言いかけた後のことを最後まで頑張つていってほしいです。

MF(女)私はいつもKさんに相談ばかりして、いつも助けられていました。何をするのでも弱虫で逃げてばかりでした。発表する前に何度か手を挙げていたんですけど、半分ぐらいしか手が挙がりませんでした。やっぱり逃げていたんだと思います。それでやっぱり友だちを裏切りたくないから言いました。これからはもっともっと強くなっていきたいと思います。

MK(女)私の友だちに対して言いたいんだけど、ここで発表することが私のために発表しているのならやめてもらいたい。いつも全体学習が終わる度に、「ごめん、Kさん発表できなかった」って言われてきたけど、私が望んでいるのは私のための発表ではなくて、自分のために発表してそして強くなってくれることを私は望んでいるんです。わがまま言うけど本当に私が望んでいるのは、本当に友だちが強くなってくれることが、私の本当にうれしいことなんです。それと私、今初めて言うけど、この3年間、絶対親と森口先生と近藤先生以外に弱音を吐かなかったけど、初めて言います。Tさんはいいなあと思うんです。みんなから優しくされて……。でも私は本当の優しさというものを味わったことって、今考えてみればなかったように思うんですよ。私が優しさを受けたのは、私を利用するための優しさばかりで、私って一

体何なんだろうと思うんです。みんなにとって私って利用していじめるだけのそれだけの存在でしかなかったんだらうかって思えて……。それと私の友だちが私にこう言ったんです。「Kさんには絶対勇気があるわ」って、友だちにとって私の存在って何なんだろうと思うんです。この3年間、私は全然弱音を吐かんかったつもりやけん初めてです。みんなにわかってもらいたいなあという気持ちで言います。私は自分に自信がなくて、みんなのように綺麗に人と付き合うことができなくて、余計に突っ張るところがあつて、ごつついつらい思いをしたこともあったんです。私みたいな人間から見たらTさんって本当に幸せやなって思うんです。それは私の思い違いかもしれないけどそう思ってしまうんです。

MK(女) それと差別問題というのは、はっきり言って今から10年たってもたぶんなくならんと思うんです。それは今の大人が汚い生き方をしている、その生き方を私たちが見ているからです。私たちの中にもやっぱり差別心があります。その差別心はなかなか取り払えるものではありません。私たちが差別解消の担い手になっていくという自覚を持ちながら、この取り組みを私たちの生き方を通して私たちの次の世代に託していくことが、これからの私たちに託されていると思うんです。決して今の大人たちのような本音と建前をうまく使い分けていく、醜い生き方はしないというこの全体学習のような確かな部落問題学習をしっかりと学んでいく必要があると思います。私はそんな気持ちで差別問題に取り組んでいます。それと私は、差別者と一緒に差別をしながら生きている人たちと一緒に話を合わせて差別問題に取り組みたくない。私は本当の共感できる人、そして私と一緒に強くなって差別問題に取り組んでくれる人とこの問題に取り組んでいきたい。これからも頑張るので、もし私の意見に共感してくれる人が一人でも二人でもいたら、これからも一緒に頑張っていきたいと私は思います。

MT(女) 私は小学校から今までとても苦しかったことがあるんです。それは小学校の頃から私をいじめた女の子のことで、とても苦しい思いをしてきたんです。私も悪いかもしれないんだけど、その子は今この場にいるんです。まだ恐い気持ちがあります。そのことを言うのは本当に恐いです。後でいじめられたらどうしようと思います。前の全体学習で言ったらよかったんですけど、私、恐くて言えなかったんです。それはさっきKさんが言ったようにやっぱりその子に好かれようと思っていただけなんです。とても悲しくて、私も死にたいと思ったことがあるんです。早く死ねば楽になれるのに、自分で自殺でしようかと思ったことがあるんです。でもそんなことしたら、お父さんとお母さん悲しむし……。でもその女の子に小学校からいじめられてきてとてもつらくなって、とても悲しくて……。これ以上私を傷つけないでください。自分でそう思っているのかもしれないけど、私は弱い人間だから、もうこれ以上いやみとか言わないでほしいです。

H0(女) 私は2年生の時、とてもつらい思いをしたことがあります。そのことを今でも考えるとすごく涙が出てきます。でもその時は、私自身がすごく弱くて強くなろうともしなかったと思います。これからずっと生きていく中で、私は弱い人間として生きていくのではなくて、強い人間として生きていきたいと思います。

T<sub>12</sub> みんなの訴え、ほんまに大事にしていきたい。こんなに立派に闘っているみんなだからこそ、立派につながって、立派に励まし合って、立派に卒業して行ってほしい。時間がかなりオーバーしたけど、みんなとこの時間を過ごせこと、私たちは忘れることはない。最後にAさんの書いてくれた答辞の一節を紹介して終わりにします。

※

今静かに目を閉じますと、過ぎ去った3か年のさまざまな思い出が浮かんでまいります。

何もかもが新鮮で期待と不安に胸ふくらませながら臨んだ入学式。クラス一つになり、友情の輪をより広げた体育祭や文化祭。また、2年生の修学旅行は自然の雄大さに感動し、戦争の悲惨さに触れ、平和への願いを強くした貴重な体験でした。真夏の太陽の下で、雪の舞う寒さの中で友と励まし合い、厳しい練習に耐えた部活動。自分との闘いだった受験勉強。そして、学年、学校全体で取り組んだ同和問題学習。私たちはこの同和問題学習で涙を流しながら自らの想いを語る友と、差別の怒りに震えた友と共感し合い、支え合い、仲間の絆を深め合うことができました。「本音を語る」たったそれだけのことがどれほど苦しいことなのか。私たちはこの学校で、この体育館で初めて知りました。同和問題学習に取り組んでいたときの私は「輝いていた」と自信を持って言うことができます。私たち卒業生は、この差別と闘おうとする炎を、身体を熱くする炎を今、在校生の皆様に託します。

※

T<sub>1</sub>。最後の全体学習を終わります。

※

この学年通信《きずな》は13枚に及ぶ膨大な記録となった。この13枚の記録は、生徒たちの心の中に鋭くつき刺さっていく。生徒たちは卒業生の思いを精一杯の頑張りを通して、受け継いでいこうとしている。そんな生徒たちの思いが、私の心の中にも広がっていく。この学年通信に寄せて生徒たちは燃えるような思いを生活ノートに綴る。以下T子の生活ノートである。

※

今日先生にもらった先輩たちの最後の全体学習の授業記録が載っている《きずな》を読みました。なんかすごいなあと思いました。そして、私たちもこんな全体学習をして板野中学校を卒業していきなさいと思いました。この《きずな》を読んでいたら、すごく先輩たちが頑張ってきたことがすごく伝わってきました。特に最後の方に語ったH Oという人が心に残っています。涙を流しながら一生懸命に語ったんだと思います。最後に自分の思いをみんなに聞いてもらいたかったんだと思います。私もいじめを受けたことが小学校の頃一回ありました。友だちから無視されたりしました。でも私はみんなの前でそういうことをされたと、その頃言えなかった。とても弱かったんだと思います。反対にいじめをしたこともあった。いじめられるということがとてもつらいことであるのを知っているのに、みんなからいじめられないように一緒になってある子をいじめたことがあります。ものすごく情けない人間だったと思います。

みんなの前でそんな自分のきたくないところとか、弱いところを言うのはすごくむずかしいと思います。でもそんな自分の本当のところを言い合ってこそ、先輩たちのようにつながれるんだと思います。先輩たちは本音を語り、一人一人の苦しさをわかっているから、絆ができつながっているんだと思います。私もみんなと絆をつくっていきなさいです。

最後に先輩の答辞が載っているけど、この中で「私たちはこの同和問題学習で涙を流しながら自らの想いを語る友と、差別の怒りに震えた友と共感し合い、支え合い、仲間の絆を深め合うことができました。」とあります。こんな関係ってすごいなあと思いました。やっぱり本音を語ってこそ、こういう関係ができていくんだと思います。本音を語るというのは苦しいかもしれない、でも苦しいからと言ってやめるのは、みんなを裏切ると同じだと思います。私も本音が言えるようにしたいと思います。そして、先輩たちと同じように自信をもって、自分たちは「輝いていた」と言えるようにしたいと思います。先輩たちの「差別と闘おうとする炎を、身体を熱くする炎を」受け継いで、5月の全体学習を頑張りたと思います。(T子)

※



クラスの大半の生徒が、このT子のような思いを生活ノートに記してくる。その生徒一人一人の思いをつないでいくために、道徳の時間、生徒一人一人の思いを語り合った。その授業は、「みんなはこの卒業生の思いをどのように受け止めたのか」という私の問いかけで始まった。その私の問いかけに、生徒たちはひたむきに思いを語っていく。その授業の後半にY子が、自分の中にあったこだわりと苦しい胸の内を語り出す。そして、部落出身である自分の思いをクラスの仲間に切々と語っていくことを通してY子の心の中にある大きな峠を越えようとした。

それはまさしく3年A組の仲間への信頼の心に貫かれた部落宣言であった。この発言によってクラスの生徒全体の中に大きな衝撃が走る。同和問題を自分の生き方の問題として突きつけられた瞬間でもあった。翌日にY子の記してきた生活ノートは強烈なものを私に残していく。

※

今日4時間目は道徳の授業でした。「私は部落の人間だそうです。」と言った時、何か一瞬不安を感じました。変な目でみんなに見られへんかなあと思いました。けど給食の時間も、授業中も、休み時間も、掃除の時も、帰りもみんなの私への態度は変わらなかった。いつもと同じだったように思う。

やっと本音を言えた、語ることができた私は、今一つ峠を登り詰めたように思います。お母さんは差別を受けるのを怖れています。仲間はずれにされると思っています。みんなからの冷たい視線を受けるのを怖れています。私は怖れてなんかない。どんな大きな壁にぶつかっても、絶対乗り越えてやる。自分だけだったら不安で仕方がないけど、仲間がいれば怖れるものは何もない。仲間は私を支えてくれる。私も他の仲間と一緒に仲間を支えていきたい。そんな人間関係をつくっていきたい。絆で結ばれるような仲間の一人になりたいと思います。

一瞬でも不安を感じたのは、仲間を信じずに疑ったからだと思います。今まで一緒に同和問題学習に取り組んできた仲間なのに、信頼しないでどうする。疑ってどうするんだと今になって思っています。

小学校の低学年の頃は学習会に行っていたと思います。でも小学校のある時期から、学習会に全く参加しなくなりました。でも私は本心で学習会に行きたかったんです。「Y子ちゃん、何で学習会いかんの」って友だちに何度も聞かれました。私は「お母さんが行かなくていいって言うけん」としか言いませんでした。

その時は学習会って何だろう。行っていない子もいるのに、どうしてあの子やだけがいきよんだろう。何で私は行かんのだろうとか、いろいろ疑問に思ったけど、いつからか思わなくなって、中学校に入って初めて部落という言葉を知りました。初めは関係ないと思っていました。今考えてみると大有りでした。だって私自身が部落の人間だったんですから……。

考えてみれば変な話ですね。部落差別って、何で勝手にそんなことされなあかんのと思います。差別しよるヤツみたら「アホちゃうか」と思います。お母さんが「差別されるけん行かなくていい」ということ自体差別を認めることになる。差別を何のためらいもなく許していることになると思います。そこが差別の不思議なところだと思います。勝手に植え付けられた考えをそこまで成長させてしまう人間の弱さ、自分の誇りが持てない弱さが差別を大きくしているんだと思います。私は思います。部落の人間だからといって恥ずかしがることは絶対ない。こそこそ隠す必要もない。森口先生のように堂々と生きればいいと思います。森口先生は私のお手本になってくれています。A先輩やM先輩もすごいです。私はA先輩やM先輩みたいになりたい。卑屈になんかならなくていい。今までのようにこれからも堂々としていればいいと思う。

私のお母さんも差別はおかしいというちゃんとした考えは持っています。ただそこから成長していないだけだと思います。勉強すれば私たちみたいになれると思います。お母さんはこう言っていました。「部落の人間が差別をなくすように勉強したって、差別しよる人につたわらなあか

ん。部落の人間より差別する人がこういう勉強をせなあかん」って、私は少しおかしいと思いました。私は差別する人もされる人も一緒になって勉強する必要があると思います。

最後にお母さんはこう言いました。「やっぱりお母さんやは、Ｙ子ちゃんみたいに同和問題学習やしてないけん。考え方が違うかもしれんなあ」って……。初めは違っていても最後には一緒になる。一緒の考え方で差別のない世の中にしていきたい。もちろん私一人だけではどうすることもできない。たくさんの仲間がいて初めて達成できることだと思う。みんなで本音を語り合いたい。同和問題学習を通してわかり合いたいと本心から思います。（Ｙ子）

※

このＹ子の思いを３年全体の思いにしていきたいと思う。そのために生徒一人一人が心の底から喜びを感じ取ることができる全体学習を今年も実践していきたい。私は第１回の全体学習の資料に「母の願い」という資料を選んだ。

「母の願い」と題した本資料、それは1992年11月に北九州市で開催された第44回全国同和教育研究大会福岡大会の分散会場（教育内容の創造「社会認識」Ａ）のフロアーからの発言である。私はその分散会に提案発表者として参加していた。帰県後その時の状況を次のように記している。

※

昨年度第43回全国同和教育研究大会（奈良大会）に続いて教育内容の創造「社会認識」へ参加した。提案報告をするということで、今年の大会は私にとって格別思い出深く意義深い大会になった。私は昨年度の大会において、自らの実践を繰り返し繰り返しフロアーから発表した。その発表する姿や徳島県同教・板野中学校の森口という名前を多くの人が覚えていてくれたことが、今年の大会で最もうれしかったことである。

その中の一人が、分科会第１日目の前半に発言された京都府の対象地区のお父さんであった。そのお父さんが部落の人間の誇りについて語っておられる姿に、１年前のことがよみがえってきた。私は思わず挨拶にいった。

そのお父さんは、私の顔を見るなり、顔を紅潮させ言われた。「先生に会いたくて、先生の名前を報告集の中に見つけてこの分科会にやってきたんだ。先生、今度京都へ来て私の仲間に話をしてくれないだろうか。」私はこの言葉に震えるような感動を覚えた。

私の名前を報告書集の中に見つけて、この会場に来てくれた県外の人がいること、これ以上うれしいことはなかった。また後半に発言された兵庫県の対象地区のお母さんの発言にも心が熱くなった。それはまさしく私たちへの心からの励ましであった。その発言に圧倒されていたとき、そのお母さんが私を見て言われた。「森口先生でしょう。去年、先生の発言を覚えています。今年の先生の報告書の中身に胸がいっぱいになって、この分科会場にやって来たんです。」私は今年の全同教に提案発表者として参加できたことをたまらなくうれしく思った。

その他にもたくさんの人が私に声をかけてくれた。「共に頑張りましょう。先生、私も頑張ります。」いく人の人と握手を交わしただろうか。私にはすごい仲間がいる。そのことに感謝の気持ちでいっぱいになった。そして、全国にはまだまだ私の知り得ぬすばらしい人たちが存在する。その人たちとすばらしい出会いをするために、今私に問われている実践、自分にできる精一杯のことをやっていきたいと思う。

いよいよ分科会２日目、私の提案報告のとき、目をキラキラ輝かせて聞いてくれる京都のお父さんや兵庫のお母さん、会場に溢れる人たちに、同和教育の本質と喜びをしみじみ語っていく。発表時間をオーバーする私を精一杯支えリードしてくれた司会の先生にも胸がいっぱいになる。同和教育の喜びとは、本物の教育に出会う喜びなんだとしみじみ思う。

昨年度の取り組みをまとめた「峠を越えて」という冊子を有償資料として一部販売したが、それを求めにきてくれた。県外のある中学校の校長先生が次のように言われたという。

「昨年、徳島で行なわれた道徳教育の全国大会（第25回全日本中学校道徳教育研究大会）で森口先生の授業を見たんです。あの授業にど肝を抜かれ、同和教育の実践に取り組む中からあのような授業が成立するようになったと言われる森口先生の言葉に感動して、私は初めてこの全同教大会に参加したんです。その報告集の中に森口先生の名前がある。ひょっとしたらと思ってこの分科会場に来たら森口先生の発表に出会うことができました。本当に来てよかった。」

そんな話を資料の販売をしていていた徳島県同教の松村先生から聞かされて、たまらない喜びを感じていった。これからこの取り組みの輪を広げていくために頑張っていこうと、新たな勇気が沸き起こってきた。

※

この全同教大会への参加は、同和教育に取り組もうとする私に、限りない喜びと生きがいを与えていくものになっていった。上記に述べた兵庫県のお母さんの発表された内容が本資料である。発言される時、そのお母さんは言われた。

「私はこのことを話す時、涙が出て言いたいことの半分も言えなくなってしまうんです。だから私の思いをまとめてきました。その思いを読ませていただきます。」

自分の本当の思いを語ろうとすると涙が出て来る。そんなお母さんの思い、その思いが自分なり痛く感じられた。声を震わせながら発言される姿に私が胸を熱くする。このお母さんのひたむきな思いを板野中学校の生徒たちに伝えていきたいと思った。

私はこの発言（資料）に「母の願い」という題をつけた。この思いは私の母の思いでもある。この部落の母の願いが、すべての母の願いとなり、すべての人間の願いとなっていくことを求めてこの学習に取り組んでいきたいと思う。

またこの学習への取り組みを生徒たちが、主体的に取り組んでいこうとするより確かな学習になっていくように、本資料を事前に学年通信『きずな』に紹介し、生徒たちの資料に寄せる思いを生活ノートにまとめさせた。生活ノートの記されてきた生徒の思いをまとめ、その思いの中から発問を考えていった。以下生活ノートに記されてきた感想のいくつかをまとめておく。

※

今日の資料を読み返して、深く考えさせられたのは、最後の一行だ。差別の渦巻く社会であるにもかかわらず、差別がなくなったなんて言わせる社会、苦しいことやつらいことをつらいと言わせない社会、そんな社会を根底から変えていかなければ、本当に差別はなくなったとは言えないと思う。差別のために一体幾人の人が犠牲になってきたのか。差別のために人生をくるわされたり、生命をつみとられたりしてきた現実……。それを考えると今すぐにも差別がなくなってほしいと切実に心から思う。だけどそのための授業になると、自分は緊張して声が震えたり指ががくがくになる。これを必死で押さえるのがやっとだ。なるべくそれを悟られないようにゆっくりゆっくり発表する。差別のために今なお苦しんでいる人のことを考えると、このままではいけないと思うのだけど、この症状は押さえられない。でも差別をなくすために立ち上がっていかなければ駄目だと思う。こういう自分を変えていきたい。（M子）

※

一人の人間として差別を許さない生き方をするのは、自分の本当の思いを相手に伝えることから始まると思います。発表することはできても、思いを語るというところまではいっていない。少しでも多く語っていきたい。人間らしい生き方をしたい。

「差別はなくなりました」と言わせる社会自体に差別はあるという言葉、心が揺れた。まさにその通りだと思った。本当に差別がなくなったということは学習会もなく、出身地を隠す必要もない。そして人間として生きる喜びをみんながつかんでいくことができるということだ。こういう社会をつくっていくために私たちは今学んでいるんだと思う。私は自分の思いを語ることから

始めていきたい。(J子)

※

この「母の願い」を読んでいく中で、このお母さんは苦しかったことが何度も出てきて、その度に嫌な思いになったと思います。自分の子どもたちに本当のことが言えない悲しさや腹立たしさもこの文を読んで強く感じた。僕の知らないところでこんな苦勞をしている人がいるんだ、こんなつらい思いをしている人がいるんだという現実を知ると、自分たちはまだ力不足だと思う。

僕は隅っこで小さくなっているのではなくて自分をもっと出していこうと思う。このお母さんが訴えているように部落差別をなくす一人になっていこうと思う。

この文は、先生たちに訴えている文だけど、僕たちにも関係ないことはない。同和問題を自分たちの問題として考えていくためにも、この文を通して自分の生き方を考えていこうと思う。このような母の願いが訴えられていくのは、まだまだ部落解放に取り組む人たちが少ないからだと思う。差別問題はすべての人間が、自分に関わる問題として取り組んでいかなければ、その解決は遠い先のことになってしまう。自分も1年の時から変わってきた。人間はしっかりと学習していくことによってよりよい方向に変わっていくことができると思う。この母の願いを自分自身の願いにしていきたい。(C子)

※

今日「母の願い」を家で読みました。何で同じ人間なのに、部落のことを気にせなあかんのだろうと思いました。そんなことを気にしてびくびくしていたら何もできんと思います。本当に人間の心というのは弱いなあと思います。僕は言われたことはないけど、時々部落の子と遊んだらあかんというおばあちゃんがいるという話を友だちから聞かされたりします。ほんまに腹が立ってきます。同じ人間なのに、何で部落の子だったら遊んだらあかんのかと思います。

僕は小学校のとき学習会に行っていました。でも途中から行かなくなりました。そのときは差別されている子は可哀相だなと思ったこともなかった。むしろ僕がクラスの子を差別していた。だから差別のことを考えたこともありませんでした。クラスの子がそばに近寄ってきても、気に入らなかつたらけつたりしたこともあった。でもこの「母の願い」を読んで、差別してきた子のことを思ったら、僕は全然強くない、弱い人間だと思った。僕はそのことを思うとだんだん熱くなって、涙が出そうになった。でもそれがまた何日かたつと、まただれかをどこかで差別してしまう。全体学習では一生懸命自分の思いをぶつけていけたらと思います。(R夫)

※

この母の願いを読んで思ったことは、このお母さんの子どもや部落差別への考え方についてです。お母さんは昔、自分が苦しめられた部落差別で同じように子どもが苦しむのは、もちろん嫌だと思います。それは部落差別がどんなものであるかをお母さんが一番よく知っているからだと思います。

人間だれでも差別心はあると思います。この母の願いを読んでみても、部落差別に苦しめられたお母さんが、自分の差別心について書いてあります。でもお母さんはその自分の中にある差別心に気づきました。僕もみんなもまず自分には差別心があるということを知ることから始まると思います。

お母さんが最後に、「部落差別をなくしていく一人になってほしいです。」と書いてありますが、まだ僕は部落差別をなくしていく一人になっていません。今日の帰りの会でも、先生は生活ノートに自分の本当の思いを書いていこうと言いました。でも僕にはまだまだそれができていないと思います。また言ったり書いたりするのは簡単です。でも言ったり書いたりするだけでなく、実行することができる人間になりたいです。(N夫)

※

「母の願い」を読みました。このお母さんは自分が受けてきた厳しい部落差別っていうのを子どもたちには教えたくないと言っていたけど、それはあかんと思った。これは教えていかなければいけないことだと思った。部落差別っていうのが間違っているって、これはいかなのじやって否定せな、この部落差別を認めたことになると思った。つらいだろうけど、そう教えて否定せな、子どもたちが部落差別から逃げるような弱い人間になると思う。

「部落が悲惨であり、貧しく……」と資料にあるけど、そこに住む私たちは貧しいんですか。何で私らの背後には部落っていう言葉がついてくるんだらう。どうしてその一言で人間に値打ちが決まるんだらう。どうして、隣同志の家が部落であつたり部落でなかったり、橋を渡った向こうとこっちが部落だったり部落でなかったり、考えてみたらおかしいことばかりです。(F子)

※

以上のような生徒たちの資料「母の願い」への感想を吟味する中で、最も生徒たちの心に響いた文節を発問としてみた。その一つが「部落出身であることを教えることじたいが差別を認めることになる」であり、もう一つが「部落は悲惨であり、貧しく、そこに住む私たちは賤しいもの」という意識が知らず知らずのうちに入り込んでいた」であつた。特に資料の最後の言葉は多くの生徒たちの心を打つ。「差別はなくなりましたと言わせる社会自体に差別があることに気づいてほしい」という文節に込められた母の思い、その思いについて生徒たちの思いを語り合っていくことは、部落差別をなくしていく生き方を確かなものにしていくと考えた。また3年教師集団を含めた3年生のすべての仲間が、共に差別解消に向けて生きていく生き方をつかんでいくことを願って、「先生じゃなくて一人の人間として、差別を許さない生き方を見せてやってほしい」という文節についても考えさせたいと思う。生徒一人一人は資料を深く読み込み、生徒自身が最も重視した文節について生徒相互の思いを交わしていく。それは同和問題を自分自身の問題と捉え、差別解消の主体者として生きていく学習につながっていくと思う。

最後に発言することの意味についてP夫が綴った思い記し、主題である「人間としての生き方を求めて」の主題設定の理由のまとめとしたい。

※

今日僕は自分が先生に嘘をついていることに気づいた。今まで僕は発表する言葉は頭の中で考えてから発表してきた。でも今日は挙手して発表するために立ち上がった途端に頭の中が真っ白になった。何もわからなくなった。だけど何も考えなくても言葉がどんどん出てくるんです。そして、だんだんだんだん身体が熱くなり、本当に腹が立って怒りというものがこみ上げてくるんです。先生が言っているのはこのことなんだとそのとき思いました。こんな気持ちにみんながなれると、本当に固い鎖のような一生離れない仲間ができると思います。いや絶対になれると確信します。だから僕はそんな仲間を何人も見つけたいです。

※

これが同和問題学習、全体学習の意味だと思う。全体学習の取り組みを通してその思いを3年生全体の思いにしていきたいと思う。

### 3 ねらい

差別の本質と自らの差別性に気づき、人間として美しく生きる姿とはどういう姿であるかを生徒一人一人の生活に関わってとらえさせ、常に真実を見つめ、同和問題解決に立ち向かおうとする意欲と実践力を身につけさせる。

### 4 指導計画

#### (1) 学習の流れ

- |     |                               |
|-----|-------------------------------|
| ・道徳 | 「峠」(真壁仁)……………1時間              |
| ・特活 | 「卒業生の思いを受けて」～私にとって全体学習とは～…2時間 |

(1992年度卒業生・最後の全体学習授業記録)

(2) 本時の学習

- ・ 道德 「母の願い」 (全同教福岡大会より) ..... 1 時間
- ・ 第 1 回全体学習 「母の願い」 (全同教福岡大会より) ..... 2 時間(1/2)

(3) 今後の流れ

- ・ 道德 「自分以下を求める心」 (佐藤文彦) ..... 1 時間
- ・ 第 2 回全体学習 「自分以下を求める心」 (佐藤文彦) ..... 2 時間
- ・ 道德 「意識の芽ばえ」 (丸岡忠雄) ..... 2 時間
- ・ 第 3 回全体学習 「意識の芽ばえ」 (丸岡忠雄) ..... 2 時間
- ・ 道德 「私の目をみて！」 (土方 鉄) ..... 2 時間
- ・ 第 4 回全体学習 「私の目をみて！」 (土方 鉄) ..... 2 時間

5 本時の指導

(1) 目 標

差別解消に向けてひたむきに生きようとする母の思いを通して、同和問題を自分自身の生き方との関わりの中でとらせると共に、人間として生きるとはどういうことであるかを考えさせ、差別解消に向けて生き抜こうとする態度を育てる。

(2) 展 開

| 学 習 活 動                                                               | 指 導 上 の 留 意 点                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 「部落出身であることを教えることじたいが差別を認めることになる」ということについて考える。                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 差別の現実から目を背けるのでは、差別はなくなることに気づかせる。</li> <li>・ 厳しさや苦しさから目を背けようとする生き方では、本当の幸せをつかむことができないことをわからせる。</li> <li>・ 「寝た子を起こすな」という意識が、どれだけ多くの人々を悲しみのどん底に落としていったかをつかませる。</li> </ul> |
| 2 「部落は悲惨であり、貧しく、そこに住む私たちは賤しいものという意識が知らず知らずのうちに入り込んでいた」という母の思いについて考える。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 差別の蔓延する社会の中で、私たちは空気を吸うように差別心が植え付けられていることに気づかせる。</li> <li>・ 部落を恥ずかしがったり、部落を差別する生き方は、人間本来の生き方ではないことをつかませる。</li> </ul>                                                    |
| 3 「先生じゃなくて一人の人間として、差別を許さない生き方を見せてやってほしい」と訴える母の願いについて考える。              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部落差別をなくしていく生き方について考えさせる。</li> <li>・ 人間として、これからの人生の中で差別と闘い続けてことが、自らの生き方を輝いたものにしていくことに気づかせる。</li> </ul>                                                                  |
| 4 「差別はなくなりましたと言わせる社会自体に差別があることに気づいてほしい」という意味について考える。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦しいことを苦しいと言わせない学級の雰囲気、つらいことがつらいと言えない社会が差別を根強く残していることに気づかせる。</li> <li>・ 仲間同志が本当の思いを語り合っていくことの大切さをつかませる。</li> </ul>                                                      |

1993年5月14日（木）第5校時

3年A組 授業者 森口 健司

T<sub>1</sub> 授業を始める前に話をしておきます。3年生としての最初の全体学習になります。最初はA組からということで、A組の授業を見て、次の時間に3年全体で資料についての思いを深めていきます。この1年間、みんなとやっていく同和問題学習にスタートとして、みんなの心の底にある同和問題に寄せる本当の思いを語り合う中で、本当にみんなとこの学習に取り組んで良かったと思える授業にしていきたいと思います。みんなには先日13枚に及ぶ学年通信「絆」を配布しました。昨年度の卒業生が高校入試を終えた翌日、卒業式を間近に控え、その卒業式の式場準備ができた体育館で、卒業生全体で同和問題に寄せる思いを語り合った最後の全体学習、同和問題学習の記録をみんなに読んでもらいました。あの先輩たちの思いをみんなでつなげ部落解放への営みをより確かなものにしていくために、みんなで同和問題に寄せる本当の思いを語り合い、深め合うことができたと思います。授業というものは、本当に思っていることを語り合うからこそ、やってよかったなあという授業になっていきます。こんなこと言ったらへんに思われなくかという恐れや怯えの中でいくら発言を繰り返しても、そこに確かな展望は生まれてきません。本当によかったと言える授業、それは本当に思っていることを仲間に伝えることができた授業だと思います。そういう授業にしていきたいと思います。それでは授業を始めます。（礼）

T<sub>2</sub> 『母の願い』という資料についてみんなの思いをまとめてもらいました。みんながまとめた思いは、いくつかに集約されると思います。みんなの思いが集約されていた場面について語り合い、話し合って一人一人の部落解放に寄せる思いを確かなものにしていきたいと思います。まず1点目は、「部落出身であることを教えること自体差別を認めることになる。」という場面についてです。何人かの人



この部分についていろんな思いを示してくれていました。お母さんが語られた「かつて私は部落出身であることを教えること自体、差別を認めることになる」と考えていた。」という思いについてみんなが思うことを出し合いたいと思います。初めての公開授業ということで、非常に重いものがあるだろうけど、みんなで思いをつなげて最高の時間にしていきたいと思います。

AM(男)僕も学校で部落、部落といって教えるからみんながより意識して差別するようになると思っていたけど、差別というのは根本から差別のあやまりをなくしていかなければ、差別は密かに次の世代に伝っていくというか。根本を正していかなければ人間に意識の中に生き続けていくから、やっぱりみんながそのあやまりをしっかりと知って、なくしていく努力を続けなければならないと思います。

T<sub>3</sub> 差別のあやまりをしっかりと知って、なくしていく努力を続けなければならないとい

う意見、どう思いますか。

A D (男)子どもに差別を教えることが、差別を認めてしまっているというところで、僕は反対に部落だと教えたらいいと思いました。そんなに簡単に言えないけど、現実には差別があるにもかかわらず、黙って辛抱して差別をされているのにそのことに腹も立てんとじっと辛抱して、黙ってばかりいても何にも変わっていかないと思います。みんなが真剣に考えていく状況をつくっていくためにも、しっかりと誇りを持ってそのことを教えたらいいと思います。

A C (男)僕はそのお母さんは部落出身だということを卑屈に思い、差別に負けていたからそうやって逃げることばかり考えてしまったんだと思います。今まで自分が背負ってきた苦しみを子どもにさせたくないから、子どもたちに言いたくないんだろうけど、自分が差別から逃げていたのでは部落差別はなくなることはないと思います。

Y H (女)私もお母さんは自分を差別する人に負けていたと思います。だから子どもに部落出身ということが言えなかったんだと思います。部落差別がなんだという思いになれば、子どもに胸張って部落出身だということを話してやれると思います。

T 4 お母さん自身が部落出身を恥ずかしいもののように思っているからという意見が出てきましたけど、それにつなげてないでしょうか。

A B (男)僕は部落出身であることを教えてしっかりとした自覚を育てていかなければ、その子自身が差別者になってしまうと思うんです。その子どもにしっかりとした生き方をつかませていくためにも、また部落の人間としてどのように生きていくかをつかませるためにも、教えないといけないと思います。

T 5 部落出身であることをしっかりと押さえて教えていかなければ、その子自体が差別者になってしまうと今言ってくれたけど、そのことについてどうだろうか。考えてみてください。どうですか。

S S (男)僕も部落出身というのをやっぱり教えていかないと、これからの自分も子どもも、全然変わっていかないし、差別はなくなっていくかと思っています。もっと自分の苦しさとか、自分が部落差別の中をどのように生きてきたかという部落の人間としての生き方や自覚をみんなに言って、みんなと一緒に支え合って生きていくことを子どもにつかませていかなんだら、その子は人間として誇りを持った生き方はできていかないと思います。

T 6 今のS君の発言をどう聞きましたか。自分というものをしっかりと自覚することが必要だという発言。自分がどう生きていくかということ、部落に生まれた自分、それをしっかりと自覚し、どう生きていくかということをしつかりと教えなければ駄目だという発言。みんなの中にどう響いたでしょうか。なかなか本当につらい部分を語っていくことができないお母さんの思い。お母さんは、次のところでこう語っています。資料を読んでもみますよ。「部落は悲惨であり、貧しくそこに住む私たちは卑しいものという意識が知らず知らずのうちに入り込んでいたのです。だから自分自身が顔を上げることができなかったのです。」お母さんは自分自身が顔を上げることで、胸を張ることができなかった。だから自分の子どもに部落差別を乗り越えていく生き方を教えていくことができなかった。そうお母さんは語っています。そのお母さんの思いについて考えてみたいと思います。もう1回言います。「部落は悲惨であり、貧しくそこに住む私たちは卑しいものという意識が知らず知らずのうちに入り込んでいたのです。だから自分自身が顔を上げることができなかったのです。」このお母さんの思いについて考えていきましょう。

M T (女)私にとって小学校のときとかは、部落差別というのはとても遠い存在でした。それで部



落の人が貧しいとかいうのはあまり知らないでいたけど、段々と私の中に差別意識は芽生えてきたと思います。だから中学へきてからは本当に思っていることは全然言わなかったし、自分の差別意識をごまかし続けてきたように思います。私は西小学校出身で校区に同和地区がないということで、そんなに同和問題についての授業をした記憶がありません。自分の住むところに同和地区があるかないかですごく取り組みの差があると思います。

Y H(女)部落差別は間違っているとこのお母さんもきつと言ったと思うけど、苦しいことを苦しいと言わさない社会や、本当に間違っていることを間違っていると言わせない社会が、おかあさんにこんな思いをさせていったんだと思います。

T ー M Tさんが言ってくれたこと、Y Hさんが言ってくれたことについてつなげてどうでしょうか。

A E(男)部落と聞いてこんな思いが浮かんでくるのは、僕たち周りの人がこういうことを思っているから、このお母さんにもこんな意識が入り込んでしまったんだと思います。

T 。 部落問題について、部落について、私たちの中にある意識、その意識とお母さんの思いを重ねていく。みんなが今まで学んできたことについて、本当に感じてきたこと、思ってきたこと、それを重ねて発表してください。本当に思うことを出し合っていきたいと思います。(なかなか挙手がない)

T 。 手を挙げて発言していくことを大切にしたいと思います。頑張れ。これはこの授業は差別をなくしていく。確かな生き方をつかんでいく。みんな自身の中にあるドロドロしたものと闘っていく闘いであると思います。頑張ってください。弱い自分に打ち勝って、本当の思いを伝えたい、語り合いたいと思います。決して下を向くな。頑張らんか。うじうじするな。本当に頑張らんか。みんなと出会って1ヶ月余り、どんな思いで授業をしてきたんか。どんな思いで思いをぶつけ合ってきたんか。本当に仲間を信じて頑張っていきましょう。

M T(女)このお母さんの思いは、かつてに周りの人たちが言ってきたことをそのまま信じてきたから、こういう考え方になったと思うので、周りの人たちからもっとこういう考えをなくしていかなければと思います。

T 10。 周りにそういう意識があるから、お母さんにもそういった意識が植え付けられていったということ。他の人どうですか。

M T(女)私はこのお母さんが部落は悲惨であり、貧しくそこに住む私たちは卑しいものだという意識があったということは、周りの人がそういうようにお母さんに思わせただのかもしれないけど、このお母さん自身が自分が部落出身ということに対して、その部落というものを差別しているように思います。

M Y(女)このお母さんは自分を卑しいものと思うのではなく、自分は部落出身であっても卑しいものではない、普通の人間に変わりはないということを表に出す必要があると思います。

H T(女)私もM Tさんと同じで、部落は悲惨であり貧しいという意識を差別している人がつくってきたんだと思います。なのにお母さんは自分のことを貧しいと認めてしまっているんだと思います。

Y K(女)私もこのお母さんは、部落はみじめとか卑しいという気持ちで、周りから部落を非難する人の存在が恐かったと思うけど、さっきM TさんやH Tさんが言ったように、自分自身も部落を差別しているように思います。

A D(女)私もこのお母さんは、自分が部落出身だから差別されたくないという気持ちがあるから、やっぱりできるだけ部落差別に触れないように避けてきたんだと思うし、このお母さんは部

落差別は間違っていることだとわかっているけど、やっぱり心の底で差別があるのは仕方がないことのような思いがあって、差別を認めてしまっていると思います。

A A(男)僕もこのお母さんは自分自身の心の中に部落を差別する意識があって、その意識が自分で部落は悲惨であり、貧しくそこに住む私たちは卑しいものであるという意識となって、部落に生まれ自分を歎くことしか最初でできなかったんだと思います。

T<sub>11</sub> そんな弱い部分をいっぱい持っていたお母さんが、本当にいろいろな人と触れ合い、またいろんな研修会や学習の中で本当の思いを訴えていけるように変わっていきますね。悲しさの中でうずもれてしまいそうだった、負けてしまいそうだったお母さんが変わっていきます。そして力強く訴えていきますね。読んでみます。「先生じゃなくて一人の人間として、差別を許さない生き方を見せてやってほしい」心の底から差別をなくしていきたいということを見せてやってほしいということと、そんな取り組みをそんな同和教育を共にやっていきたいということ forcefully 訴えていくようになりますよね。その差別をなくしたいという願いを訴えるお母さんの願い。母の願いについて語り合いたいと思います。みんなが取り組んできた同和問題学習とお母さんの願いがどうつながっているかということについて、一人一人の意見を出し合いたいと思います。

S N(男)今まで同和問題学習をしていく中で、いつも一番最初に話を進めていくのは先生で、小学校のとき差別はいけなものだと教えてくれたのも先生だったから、知らない間に僕は先生には差別意識はないものだと思っていたけど、それは先生のことを僕と同じ人間でないと思っていたのかもしれない。けどそれは僕の思い違いで先生だろうが、総理大臣だろうが、誰だろうが、人間である以上差別心や差別意識というのはあって、そんな差別意識を洗っていくことが人間として生きていくことなんだと思うようになってきました。

T<sub>12</sub> 今の意見についてどうですか。

A M(男)みんな人間には総理大臣とか偉いと言われている人もいるだろうけど、どんな人でもやっぱり同じ人間だし同じような感情があって、心というものを持っていると思います。その中で人間として生きていく中で差別意識というのは知らず知らずのうちに入り込んでいくものだと思います。だからすべての人が自分の差別意識を洗っていくためにしっかりと、この同和問題学習をやっていかなければ部落差別はなくなっていくと思います。

T<sub>13</sub> 今の意見について、みんなの意見をつなげてください。

T I(男)僕は先生だから同和問題学習をしていくという意識でいるんだったら、いつまでたってもこの問題はなくなっていくと思います。先生も含めてみんなが本気で本音を語っていかないと差別はなくならないと思うので、僕も本気で語っていききたいと思います。

S F(女)森口先生が前に話してくれたことで、20年以上も同和問題学習をしているけど、差別はまだまだなくならないと言っていました。それはやっぱり口先だけでこの学習をやってきたから、差別はなくならないんだと思います。私も3年A組の仲間を信じて本音を語っていききたいと思います。

T<sub>14</sub> 本当に思っていることを出し合っていきましょう。つなげてください。

H T(女)本音を語ることは難しいことだと思うけど、仲間がいるから言えると思います。

T O(男)「俺たち一人一人は掛け替えのない大切な人間だ」と森口先生がしてくれたことをはっきりと覚えています。差別はあってはいけないと許さないと勉強しているけど、このお母さんの願いに応えていくためにも、先生たちと一緒に差別をなくすことを考えて一生懸命頑張っていこうと思います。

S Y(女)先生というのは、子どもを教育する人であって、絶対正しい人でなければならないという感じがあります。でも同和問題学習については、本音と建前をうまく使いわけて、やらなければならないからやっているだけで、心の中で嘘をつき続けている先生もいるかもしれません。私だって人のことをとやかく言えない生き方をこれまでにしてきました。私たちも頑張って、先生たちも頑張って、みんなで本当の思いを出し合って真剣に取り組む学習をこれからも積み上げていきたいと思っています。

M F(女)私も先生というのは偉い人とか、尊敬する人と思っていたので、先生には差別心とか差別意識というのはないように思っていたけど、先生もやっぱり人間だから、差別意識があって、その差別意識をなくしていくために頑張っているんだと思います。私にもたぶん差別意識があると思うけど、それがどういふものなのかということは、まだはっきりと見えていないところがあります。みんなとこの学習



を深めていく中で自分の差別意識に気づき、私もその差別意識を洗っていききたいと思っています。

S S(男)僕は本当にこの資料のように、「先生じゃなくて一人の人間として差別を許さない生き方を先生たちにしてもらいたい」と思います。先生の中にも結婚差別とかしている先生がいるのを知っています。その先生のしている同和問題学習ってどんなものだろうかと思います。機会があったら一度受けてみたいです。そしてその先生に言ってやりたいです。そんな先生を始めとするいろんな人が、本当に一人の人間として本音でもっとこの問題を語っていったら、絶対に部落差別というのはなくなると思います。

T 15 今のS S君の思いにつなげていこう。この授業は本当に差別をなくしていく闘いなんだ。

F M(女)自分の中にある差別意識をなくしていくために、本音で語って3年A組のみんなとつながっていききたいです。

K N(女)森口先生が部落問題に一生懸命に取り組んでいるのは、やっぱり自分の差別意識に気付いているからだと思います。先日、M Fさんがクラスのみんなに泣きながら話してくれたことを聞いて、みんなも先生も心の中に染み込んできたものがあつたと思うし、私たちも先生の話の聞いて心が洗われてくるのがたくさんあるから、私自身を変えていくために一緒に頑張っていきたいと思っています。

T 16 この学習は生徒のためにしていくんだと思っていたんですけど、いつしかこの学習は、先生自身のためにしているんだということを実感するようになりました。そのことは今までみんなに繰り返し話してきたことですけど……。この学習をしているのは自分自身のためだと思います。部落の人のためにしているのではなく、この学習は自分自身のためにしているということに気がきました。そして、部落差別をなくすのは、私たち自身のためであるということのしっかりとつかんでいきたいと思っています。

Y K(女)私たちは一人の人間として、同じ位置に立って部落問題を始めとするいろいろな差別を解消していくために取り組んでいくようにしたいです。それがこの学習は自分自身のために

しているということを実感していくようになり、部落差別をなくすということが、いろいろな差別をなくしていくことにつながっていくんだと思います。

T<sub>17</sub> 同和問題がなぜ自分自身の問題なのか。そのことを自分自身に問い続けていきたいと思います。私たちに課せられたものってとても大きいと思います。だからこそ歩む力も大きくなっていくし、本物の幸せをつかむことができると思うんです。私はこの資料を第1回の全体学習の資料としてみんなに訴えました。この資料はこれからの先生自身の生きる糧となっていく資料だと思っています。だからこそみんなと共に考え合いたいと思いました。

T<sub>18</sub> 特に資料の最後のところが胸につき刺さりました。最後の文章、読んでみます。「差別を受けている人たちの中に、差別はなくなったと言われる人がいる。こんな差別の渦巻く社会であるにもかかわらず、差別がなくなりましたと言わせる社会自体に差別があることに気付いてほしい。」昨年度、福岡県で開かれた先生たちの同和教育研究大会での発言です。体中に電気のようなものが走りました。思わず発言されたお母さんにところへ行き、「今発表された原稿、お借りできませんか」と言ってしまいました。それがこの資料なんですけど、その最後の訴え、「差別がなくなりましたと言わせる社会自体に差別があることに気づいてほしい。」この訴えについて、みんなのまだまだ語り切れてない部分、これだけはみんなに伝えておきたいという思いを出し合いたいと思います。

(挙手するもの数名)

T<sub>19</sub> 何で一部の人間だけが頑張らないかんのか。みんなどう思っているのか。いつも思う。どうして特定の人間だけが苦しめないかんのか。一部の人間だけが重たい切ない部分を出していかな授業が進んでいかんのか。それだったら、差別を残してきとる社会とそっくり同じでないか。下向いて自分をごまかして、己のドロドロした部分をごまかし続け、それで本当の人間としての生き方ができるのか。自分には関係ないと思ってきた人たちによって差別は根強く残されてきたことを自覚してほしい。そして差別社会の中で差別意識を持ち続けることによって、みんな自身が差別をされていくことに気づいてほしい。自分の足で歩いて自分を解放させなければ、本当の人間としての生き方はつかむことはできん。差別の檻の中で人を差別し、自分の魂を自分の最も大切なものを傷つける生き方をしてもらいたくはない。3年A組のみんなで、この問題を自分の問題として頑張っていける学習にしていきたいと思う。

A E (男) たくさんの人が、部落差別に立ち向かって頑張っているけど、社会そのものが頑張っていく状況になっていないから、まだいまだに差別が残っていると思うんです。もっともっと社会全体がこの差別問題に目を向けたら、すごい差別解消に向かって大きな前進になると思うので、多くの人が自分自身の問題として頑張っていける状況をつくっていくためにも、僕はこれからの授業の中で僕の本心を訴え続けたいと思います。

M T (女) この最後の文は最初読んだときあまりよくわからなかったけど、私たちの生活の中ですごく身近にあることだと思います。社会の中では本音が言いたくても言えない状況にいる人もいるだろうし、それは社会全体の中に差別があっても当然というような雰囲気があるからだと思います。そのことは私たちのクラスの雰囲気についても言えることだと思います。クラスの中に差別を許さないという雰囲気ができていくことによって、みんなは本音を言うことができるようになるんだと思います。

Y H (女) 私は中学2年生までは、この問題を学習するとき、こういう言葉を言ったら先生が喜んでくれるとか。このいう言葉を言っておけばその場をしのげるとか、自分の本当の意志に反して言葉を選び発表したり、感想を書いたりというようなことがたびたびありました。その

たびに心の中はしらけていました。私のような人間がいるから差別はなくなるんだと思うし、私のような人間がいるから他の人たちは本音を言いたくても言えなかったんだと思います。私はそんな私を変えていくためにも、私の本当の思いをこれから語っていきたいと思います。

Y N(女)私は、最後のこの1行に心を揺さぶられました。今なお苦しんだり、泣かされている人がいるし、自殺している人までいるのに、どうして差別がなくなったと言えるのか不思議に思いました。けどこのことが差別なんだと思います。人間の社会の基本には、苦しいことが苦しいと言え、間違っていることが間違っていると言えるというのが絶対に必要だと思います。それはよりよい社会をつくっていく根本だと思います。

M F(女)私も「差別がなくなりましたという社会自体に差別がある」という言葉に、共感を覚えています。差別がなくなったのなら、学習会だってなくなっているはずだし、こうやってみんなで本音を語っていかないと、差別はなくなるんだし、だからみんなも、まだ発表していない人もまだいるけど、3年A組の仲間を信じて発表してほしいと思います。

T<sub>20</sub>。 M Fさんの思いにつなげてください。

M T(女)私もM Tさんと同じで始めこの文章を読んだとき、あまりよくわからなかったけど、今思ってみたら、すごくこのことが差別なんだと考えさせられる文章だと思います。差別されているのに、差別はなくなりましたと言わせていたから、このお母さんは子どもたちに部落ということが言えない状況になっていたんだと思います。私たちの前にはまだまだ厳しいものがあると思うけど、差別はなくなりましたと言わせている人たちを変えていくために、必死に頑張っている私の先輩たちが頑張っているんで、その先輩たちに負けないように頑張っていきたいと思います。

A C(男)僕はここでみんなとこの学習をしていなかったら、差別はなくなりましたと言わせている社会に生きる一人として、同じように差別はなくなったと言っていたかもしれないと思います。同和教育は、本当のことを正しく認識していく学習だと思います。

A B(女)差別されている人はだいたい決まっているけど、差別する人は決まっていないので、社会自体も特に誰が差別をしているという形で取り上げることが少ないと思います。みんながそれぞれ考えなければいけないのに、みんなが自分の差別意識をごまかして、差別をなくなりましたと言っているだけだと思います。この問題は社会に生きる一人一人が、自分をごまかすのではなく自分の差別意識に気付いていくことが最も大切だと思います。

T<sub>21</sub>。 差別はなくなりましたと言って、みんなが自分をごまかしていく。本当に思っていることを伝えられない社会であり、学級の雰囲気であり、学校であり、学年である。そういうものを乗り越えて行って、本当につらいことがつらいと言える。苦しいことが苦しいと言える。そういう関係でありたいし、そういう仲間でありたい。そのために「絆」を今つくっているんだと思います。仲間の一人として思いを語っていきましょう。

A A(女)私の差別がまだ残っているのに、差別はなくなりましたと言わせる人は、その人自身自分の差別意識をごまかし、差別から逃げていると思います。私もさっきまで手を挙げるのができなかったのも、差別から逃げていたのかもしれませんが。でもこの発言をスタートにしてこれからは差別に立ち向かっていきたいです。

T<sub>22</sub>。 思いをつなげていく一人であってください。このまま石のように身体を固くして終わるのか。もう一度みんなに言う。どうして一部の人間だけの頑張りになってしまうのか。どうして一部の人間だけが苦しめないかのか。それが差別を残していることになっているんだと

思う。重たいものをみんなで越えていきましょう。

S S (男)僕は僕の周りに部落差別があることを知っています。それなのに差別はなくなりましたとよく言えたなあと思います。まだ苦しんでいるのに、まだ心の底に重たいものを感じているのに、そのことを素直に表現できずに、差別はなくなったと思い込ませていく社会に腹が立ってきます。僕も差別はなくなりましたと言える社会にしていきたいです。でも現実には僕の周りに結婚差別で今も苦しんでいる人がいます。だからこそ、こうやってみんなで部落問題の学習をしているんだと思います。僕はごまかしの中で差別はなくなりましたという社会ではなく、本当に差別はなくなったと言える社会にしていきたいために、これからも自分の本音を語っていきたいです。

Y M (女)私はこの最後の文章を読むまでは、差別はないと思っていました。でもやっぱりどこかに残っているんだと思います。本当のことを言うとして自身、差別はもうなくなっていると思っていたかっただけのような気がします。みんなが頑張っているのに私だけ自分をごまかしていたのでは、絶対に差別はなくならないと思うし、私も本当の幸せをつかむことはできないと思います。これからはみんなの思いに応えるためにもきちっと本音を語れるようにしていきたいです。

K K (女)私は今まで特に小学校のときは、差別はなくなったものだと思っていました。けどこういう授業をしていく中で、まだまだ厳しい差別が残っているんだと思い始めて、今までの私のような考えでは駄目だと思うようになりました。私も差別をなくしていく一人になっていくことができるように、みんなと一緒に頑張っていきたいと思いました。

T<sub>23</sub> 本当に思っていることを言い合えなかったり、出し切れなかったりする現実が、今までいっぱいあったと思う。それはやっぱり差別があるから、重苦しい状況が生まれ本当に思っていることをごまかしていく関係になっていくんだと思います。重苦しいことや切ないこと、くやしいことやつらいことが出し合える関係が大切だと思うんです。3年生になって初めてこの体育館に3年生全体が集いました。その意味をもっともっと考えていきたい。3年生には一つになって差別解消に向かって、本当の思いを語り合っていくことの意味を考えてみたいと思います。この1時間を振り返って誰かまとめてくれるか。

Y H (女)この『母の願い』を読んだとき、私はお母さんと一緒になって部落差別に対する悲しみのようなものを感じていきました。でもこのお母さんはそんなふうに悲しんでもらうために言っているのではなくて、このお母さんの願いを受けて、差別に対する怒りをみんなで考えてもらいたいと思ったんだと思います。M Tさんがさっき言ったように、部落があるところとないところでは、取り組み方が全然違うということに大きな疑問を感じています。私たちが学年全体とか、学校全体で一つになってこの同和問題学習に取り組んでいるのは、部落があるからではなくて、先生も生徒も一人の人間として本当の思いを出し合い、自分自身を本当に幸せにし、人間として誇りうる生き方をつかんでいくために頑張っているんだと思います。そしてその取り組みが、部落差別を始めとするさまざまな差別を解消していくことにつながると思うんです。まだまだ本音を語るということは難しく、苦しいことだけど、それを語って支え合っていくのが仲間であると思うし、それが3年A組というクラスでみんなと出会えた意味だと思います。

T<sub>24</sub> 3年A組というクラスでみんなと出会えた意味、また板野中学校の3年生として出会えた意味、そんなつながりを確かなものにしていくために6時間目は3年全体で語り合いたいと思います。公開授業は終わります。この感動を6時間目につなげていきましょう。

1993年5月14日（木）第6校時

3年全体 授業者 森口 健司

T<sub>1</sub>：3年生になって初めて取り組む全体学習、みんなの心の中にあるものを出し合って、5月14日という日を忘れられない日にしよう。みんなと共に解放の道を歩いていくスタートの日になろう。うれしいことがうれしいと言えて、つらいことがつらいと言える。5時間目にHさんがまとめてくれたことを受けて、TさんやS君やFさんが語ってくれたことを受けて、みんなが本当につながっていく6時間目、3年全体の授業にしたいと思う。それでは始めます。（全体で礼をする）

T<sub>2</sub>：4月新学期早々に『峠』という詩をそれぞれのクラスで学習したと思います。『峠』の詩に寄せてこの1年間、新たな峠を目指して頑張っていこうと思った人も多いと思います。手を挙げて自らの思いを語っていくということは、本当に苦しいものがあります。でも仲間を信じみんなの本当の思いをみんなが主体的に手を挙げて語ることができたら、こみ上げてくる喜びは本当に大きなものがあります。自分で自分をよく頑張ったとほめてやれるようなこれからの1時間にしたいと思います。第1回目の全体学習の資料となった『母の願い』という資料について、また先輩たちの最後の全体学習の記録を読んで、今のA組の授業に寄せて、いろいろと思うことを語り合いたいと思います。

SS(男)さっき僕たちも授業をしたけど、昨年、一昨年の先輩たちに比べたら、まだまだすごい授業はできないけど、まだ始まったばかりなので、もっともっとみんなを信じてみんなの心が通い合う授業にしていきたいと思います。

T<sub>3</sub>：授業というのはみんな自身の中ですくもるものです。みんな自身がやってよかったと納得できる授業がみんなにとって最高の授業なんです。自分が本当の思いを仲間と語り合えたという授業、みんなでつくっていきましょう。

YY(女)さっきの授業の一番最初の発問に、部落出身だと教えること自体差別を認めることになるというのがあったけど、私だったら部落出身ということをもみんなに言うことは勇気がいるけど、黙っていたら自分をごまかして逃げるしかないから、友達の本当の気持ちを語って堂々と闘っていく方が苦しいけど喜びが生まれていくと思います。

EY(女)今まで同和問題学習をしてきた中で手を挙げるということは私にとってすごくつらかったけど、後に続いてくれる人がいたときは心の底からよかったと思えたし、私のみんなの思いに応えていけるように頑張りたいと思います。

MM(女)私もYさんと同じで発表するのが私一人だったらどうしようと思うことがよくあって、なかなか自分から発表することができませんでした。でもみんながつながってみんなで本当の思いを語り合うことができたなら本当にすばらしいと思います。

T<sub>4</sub>：本当に思っていることを語って、すかさず仲間が手を挙げてその思いにつなげてくれたときの喜び、その喜びは本当に大きな勇気をみんなにくれます。みんなで大きな喜びと大きな勇気を手にすることができるよう頑張らしましょう。

SA(男)本音で言わなければ差別はなくなるし、本当の仲間はできないって言っていたけど、僕もそうだと思うけど、本音で言うことは難しいことだと思うし、本当に言えるかどうかかわからないけど、本当の仲間をつくるには本音で接していかなければ、たぶん本当の仲間はつけれないと思うし、僕はそういう仲間がほしいから、本音で語っていける自分にしていき

いです。

FA(女) 仲間に本音で語っていかなければ、自分の本当に思っていることもわかってもらえないと思います。私はこの学習でもっともっと勇気をつけて本音で語れるようになりたいです。

KH(男) 僕もさっきS君とかが話してくれたようにみんなの本当の仲間になるためにも本音で話せるようになりたいです。

YT(女) 私も発言するにしても本当のことを語っていかなければ、その発言の意味がとても薄いものになっていくと思うから、本当の思いをかたっていけるようになりたいです。

HH(女) 授業の前に13枚ある「きずな」を読んでいたんですけど、その中には先輩たちの最後の全体学習の授業記録が載っていたんです。その授業記録には先輩たちの本音が吹き出ていたし、その授業は私たちも見たんですけど多くの涙が流れていました。あの涙は先輩たちの怒りの涙だったと思います。私たちもあの先輩たちにつながれるように頑張りたいと思います。

TY(女) 私は今まで何度も全体学習の感想を書いてきたけど、その度に心の底ではそんなことを思っていないのに綺麗な言葉で先生によく思われるようなことを書いてきました。私はそんな私をこの学習で変えていきたいです。

SH(男) さっきのA組の授業は誰もが真剣に考えていたように思います。これからもっと同和問題について勉強していけばもっともっと意見が出てくるだろうし、みんなの差別に対する怒りも本物になっていくと思います。それとこの問題は毎日の生活がとても大切になってくると思います。みんなの思いをいつも頭において生活していくことが大切だと思います。

T : 今のS君の思いにつないでください。

YM(女) 本音で語るとはとても大切ですけど、裏切られたときの苦しみは本当につらいものがあります。でも私はみんなを信じて頑張りたいです。

HS(女) 本音で語るとするのは本当に難しいし、裏切られた傷というのはYさんが言うようにたまらなくつらいものがあると思います。でも信じることをみんなですていかなければ何も始まらないと思います。

T : 本当の思いを語っていけるということがこの学習の土台ですよ。部落問題について心の底にある本当のことをなかなか語っていけない。それは自分の中にある部落というものが特別なイメージでしかないからでしょう。部落を怖れたり、おびえたり、やっぱり部落でなくてよかったという思いがあるんでしょう。心の中に真っ黒なものがあるからでしょう。そんな意識をお互いが洗い合って、それは絶対におかしいと言い切れる自分にしていき、自分の本当の思いを胸張って言える生き方をつかんでいくんです。それがこの学習の意味です。みんな頭ではわかっている。差別されるのが悪いのではない、差別する方が間違っているって……。でも本当の気持ちはそうでない。間違っていることを間違っていると言える。そして、自分の気持ちの中にある部落というのはこうなんだ、それをこう変えていくんだということが語っていける、そんな関係をつくるためにみんなはこの体育館に3年全体が集まっている





んだと思うんです。みんなにとって同和問題学習をしていくことは、どんな意味があるのかを考えてみてください。

HK(女)私はこの学習は先生だから頑張るとか、板中生だから頑張るという考えはおかしいと思っています。この学習は一人の人間としてこの問題とどう向き合っていくかということが一番大切だと思います。それぞれの家庭で、それぞれの地域でこの問題に関わってどう生きているかが問われていると思います。

T : つなげてください。

KK(男)Hさんの意見と同じなんですけど、先生だから差別をしたらいかんとか、板中生だから差別をしたらいかんという感じでこの問題を考えていくんだったら、先生やめたり板中生をやめたら差別をしてもいいという考えにつながっていくと思います。

T : この板野中学校で頑張ってきた先輩たちが、高校に行ってつぶされそうになっている。それでも必死にあがいて頑張ろうとしている。みんなは今までどんな同和問題学習をしてきましたか。資料を配られて、資料を読んで、感想を書いてというパターンが多かったのではないかなと思うんです。これは中学校の同和問題学習の現実です。本当に心にあることを語ることもなく、資料について感想を書く、そのときにどうしても思ってしまうこう書いたら先生にいいように思われるだろうって……。同じような感想ばかり書いてきた過去何年間かの同和問題学習、そんな同和問題学習の時間でしかなかった。極端な場合、たった週に1回しかない大切な大切な道徳の時間が、他の教科の時間に代えられていく現実もある。そんな現実を打ち破ってきたのが先輩たちと築き上げてきたこの全体学習だったんです。しかし、高校の同和問題学習は形骸化していた。同和問題学習が意識調査や作文の時間でしかない現実には流されるのではなくて、高校の先生方にしっかりと思いを伝えていく先輩たちがいる。「先生、まだまだ現実に差別がある、私たちは言いたいことがいっぱいあるんだ。語りたいたことがいっぱいあるんだ。」と言って闘っている先輩たちがいる。その先輩たちの思いを受けて、その先輩たちの頑張りを励ましていくためにも私たちはその思いを受け継ぎ、本当に確かなものにしていきたい。頑張りたいと思う。すべては語り合うことから始まる。先輩の残した文章の中にこんな文章がありました。《たかが話し合いという。でもそのたかが話し合いの中で私たちは本当に生きる力を感じてきたんだ。今、私たちが燃えているのは、あのときの話し合いがあったからだと思う。語り合うということ、思いを語っていくということが、どんなにすばらしいことであるかを私たちはあの体育館で学んだ。》今もその思いを大切に高校1年や2年の先輩たちは頑張っているんです。その思いを受けて本当にみんなが今思うことを出し合いたいし、語り合いたいと思います。

TT(女)私も本音で語り合える仲間をつくっていくことは、本当に大切なことだと思います。この前の道徳の時間、去年の先輩からの手紙が届いていて、今、森口先生が言ってくれたような内容が書いてありました。この先輩は今一人で負けそうなので、今年の3年生には一人になっても仲間を思っただけ差別に立ち向かっていけるような仲間づくりをしてほしいと書いてありました。私はそのことを思うと、ここで一言もしやべらないでいるのはそんな先輩たちの思いを裏切ることになって行くと思います。

T : 授業はみんなで作るものですよ。そして喜びはみんなでつかむものですよ。

KO(女)本音を語るまでは勇気もあるし、みんながその思いをわかってくれるだろうかという恐怖心もあると思います。けど勇気を出して本当に自分の思っていることを語れたときは、その

恐怖心が全部なくなって発表してよかったと思えるから、みんな自分からどんどん言ってほしいと思います。

MM(女)私は今まで本音を語るということは意味のないことだと思っていました。でも中学校に入ってからこの全体学習をするようになって、本音を語るということがいかに難しいことであるかがわかったし、差別をなくすということがいかに大切であるがわかってきたように思います。

MM(女)この3年間同和問題学習をしてきて、私の心の中には差別意識があることに気がきました。私たちは私たちの思いを語り合うことによって私たちの差別意識に気付くことができると思います。でも発表するとき後にみんなが続いてくれるか不安になることがあります。それも私の弱さだと思います。

T<sub>10</sub>: 勇気を出して手を挙げて、その思いを語ったとき、みんなが黙って下を向いて全く反応がなかったら、絶望するよな。みんなに言いたいみんなの本音ってなんですか。みんなのこの問題に寄せる本当の気持ちってなんですか。

HS(女)私の心の中には親から植え付けられた差別意識があります。そのことを思うと本当に苦しくなります。私はこの学習で、この意識を変えていきたいし、親も変えていきたいです。この板野中学校を卒業するとき、自分を変われたと言えるようになりたいです。

OT(女)私は昨年まで頭で考えて学習ノートを書いていました。でも吉成先生や森口先生が力を入れていろいろ言ってくれたので、こうやって今も発表できました。小学校からずっと一緒に友達とかさっきどんどん発表して行って、やっぱり全体学習はいいなあと思いました。これからも頑張りたいと思います。

YY(女)私は同和問題をなくすということもとても大切だと思うけど、自分の周りにはいじめとか、無視したりする差別もあるからそのことを言いたいと思います。私は小さい頃や中学1年のときにいじめにあってきました。先生とかには失礼かもしれませんが、先生とかみんなの中には、いじめとか差別をささいなことと思っている人がいると思います。同じ年の人間に殴られたり、けられたり、無視されたりして、絶対に許せんと思うけど、やっぱり許すことも大切だと思います。でも私もそうだけど、いじめとか暴力を受けた人たちが味わった心の傷は絶対に消えないと思います。その人たちの本当の思いをみんなでわかっていくことをしなければ差別やいじめをなくすことは絶対に無理だと思います。(涙)

T<sub>11</sub>: 今言ってくれたこと、みんなはどう聞きましたか。本当のことを言い出したら涙がこぼれそうになる。つらい思いをこらえて頑張っていこうとしている人がいる。そんな思いを分かち合いながら、本当につながっていける関係になりたいです。勇気を持って自分の思いを語ってくれた仲間につながってください。

ON(女)Yさんの思いを私は本当に大切にしたいし、悲しみの涙を流す仲間がいない関係にしていきたいです。さっきOさんが吉成先生や森口先生が力を入れてくれてと言ってくれたけど、先生たちとか友達とかが力を入れてくれるからというのではなくて、自分から一生懸命力を入れて同和問題学習をしていきたいと思います。

YM(男)僕も本音で言い合って、本音をぶつけていくような同和問題学習にしていきたいと思います。その同和問題学習の中でちょっとでも差別意識をなくしていきたいと思います。

T<sub>12</sub>: S君にとって本音を語るってどういうことですか。

YM(男)自分の心の中にあるなかなか言えないことを語ることだと思います。

T<sub>13</sub>：みんなの本当の思いをつないでいって、あっという間に時間が過ぎたというような授業にしていきたいと思います。

BY(女)さっきYさんがいじめのことについて言ってくれたけど、最近ニュースとかでもいじめとかで死んだり、すごい怪我をしているというのを聞くけど、何でそんなことがあるのかと考えてみたら、やっぱりみんなが人のことを全然考えていないし、そういうことをちゃんと勉強していないから、自分のことしか考えないで人のことを考えなくなってしまっているんだと思います。私はそのニュースを見て腹が立つんだけど、みんながもっともって心の底にあることを語り合っていくような学習になっていかなければ、私たちはお互いを理解し合うことはできないと思うんです。だからこそこの学習は大切にしていきたいと思います。

T(富加見)資料のことについて少し言いたいことがあるんですけど、資料の中に「差別がなくなりましたと言わせる社会に差別がある」というところでいろんな意見が出ました。その中にFさんの「今、差別があるから学習会があるんだ」ということを発言してくれたと思うんです。このまえ学習会の開講式をしました。板野中学校には学習会の会場が5会場あるんですけど、放送でも「今日は〇〇会場で学習会があります」という放送が入ると思うんです。そこで考えてほしいのは、今も大勢の仲間が各会場に足を運んで一生懸命に差別に立ち向かっていく勉強をしているんですけど、よく考えてみたらそれぞれの会場にはもっともって多くの仲間がいるはずなのに、現実にはいろんな理由があるかもしれないけど来れていないんです。先日の開講式のとき、1年生を迎えるということである会場で待っていたんですけど、残念ながらある会場では1年生は誰もきませんでした。そのとき思ったんですけど、差別が残っているから来れないのかなあと思ったんです。その会場の開講式には、何人かのお母さんがきていましたから、お母さんともその話をしたんです。苦しいことが苦しいと言えない。そんな状況がみんなの中にもあると思います。ここにいる3年生ももっともって学習会の会場に足を運んでもらいたいと思います。そして本当の仲間を増やしてほしいと思うんです。差別があるから学習会があるんです。そのために今みんなで頑張ってこの学習に取り組んでいるんです。この第1回目の全体学習の資料となった『母に願ひ』は昨年の全国同和教育研究大会で森口先生が全体学習について発表されたとき、その会場にきていたお母さんが発表された思いなんです。その思いを今徳島県の板野中学校で学習しているけど、それぞれの都道府県にこの思いがつながっていくと思います。さっきみんなの中から板野中学校の教師だから、生徒だから勉強するというのはおかしいという意見が出ましたけど、本当にその通りだと思います。一人の人間として頑張っていかなければ本物にはなっていないと思います。学習会の仲間のすべてが堂々と学習会に参加して、それぞれの会場でみんなの思いを語り合って、その思いを学級に届けてほしいです。まだ残りの時間がありますから、そういう学習会のことも含めて、いろんな思いをもっともって語って深めてほしいと思います。

T<sub>14</sub>：話のテーマを学習会のことにしりたいと思います。学習会について思いを持っている人はたくさんいると思います。昼休みに放送がある。月に1回、担任の先生から学習会の計画表が渡される。その中でいろんなことを感じていると思います。学習会についてみんなが本当に思っていることを出し合えたらと思います。本当に思う部分、感じる部分を語り合いたい。不満があるならその不満を出し合ってよりよいものにしていきたいし、みんなの思いを語り合う中でみんながよりたくましくなってくれればと思っています。みんなに言いたい。給食を食べているときに流れてくる学習会の放送をどんな気持ちで聞いていますか。学習会

の通知を先生から渡されるとき、みんなはどんな気持ちでその通知を受け取っていますか。私は思う。本当の思いを語り合えるのが本当の仲間だと……。今やっていることはすぐに冷めてしまうような、すぐに切れてしまうような関係をつくるためではない。絶対切れることのない、そして絶対に消えることのない炎をみんなの心の中に燃やしていくための闘いなんだ。綺麗な作文で終わらすな、綺麗な文章で終わらすな、綺麗な言葉で終わらすな。みんなの本当の思い、吹き出るような叫びや訴えがみんなをつないでいくと思う。そして腹の底から頑張っていくというエネルギーを自分の中に蓄えていこう。みんなは先輩たちの血を吐くような、吹き出るような涙をどう受け止めたのか。解放の主体者として生きられる私たちでありたいと思う。

KI(女)私は最初学習会について何も思っていませんでした。去年の先輩が全体学習をしているのは差別があるからだと言っているとき、私は早く学習会がなくなってほしいと思いました。

ST(女)同和問題を部落の人だけの問題にせず、人間一人一人の問題となるようにすれば、学習会に行っている人はもちろんだけど、行っていない人も絶対に行けるようになると思います。

MM(女)私はここでみんなに初めて言うんですけど、私は学習会に行っています。学習会の予定表を月に1回もらうのはとても楽しみです。学習会に行ってみんなと話し合うことで勇気がわいてきます。今まで学習会でしか本音を話せなかったけど、今ここで学習会に行っているとみんなに言えたので、これからはみんなの前で本音を語れると思います。

T(豊田) 昨年、学習会の通知を渡すとき心が重いときがありました。今年もその通知を渡すとき、やっぱり心が重かったんです。そんなときMさんが「学習会の通知まだですか」と聞いてくれました。どんな気持ちでそう言っているのか、いろいろ考えたんですけど、今日Mさんの発言を聞いて、私がもっとしつかりしなければと思いました。私はこの板野中学校に来なかったら、同和問題学習はそんなにしなかったと思います。森口先生に影響されて私が頑張らないかんと思ってやっています。偉そうなこと言っていますが、皆さんと同じような気持ちで1時間1時間を楽しみに頑張っています。今日のこの授業も楽しみにしていました。でも今のMさんの意見を聞いて思わず手を挙げてしまいました。彼女がいつも私のところへきて「先生、学習会の通知を配りますからください」と笑顔で言ってくれるんです。そのときどんな対応をしようかと考えたこともありました。けど今日の彼女の意見を聞いて私自身が本当に頑張らないかんと思いました。

HU(女)学習会に参加しない人というのは、参加しないのではなくて参加できない状態になっているんだと思います。それは学習会に行ったら自分が部落出身だとみんなに知られてしまうから、おびえているんだと思います。学習会というのは部落差別をなくすために勉強しているんだから、おびえる必要はないと思います。だからみんなが堂々と学習会に参加できるようにするためにも、またおびえる人がなくすためにも、私たちは差別を絶対なくしていかなければいけないと思います。

T<sub>15</sub>：学習会の仲間の思いにつなげてください。

KM(女)今Mさんが学習会の予定表をもらうというのがとても楽しみというのを聞いて、私も1年生のときから学習会の予定表をもらうのが楽しみだったので、あの予定表を楽しみにしていたのは私だけではなかったんだと思ってうれしかったです。この前の月曜日、学習会で同和問題学習をしたとき、その日は人数が少なくて残念だったけど、自分では本当にすばらしい授業ができたと思いました。だから来月からの学習会の同和問題学習のときは多くの人に参

加してほしいし、自分ももっと本音が語れるようになりたいです。

T<sub>16</sub>: MさんやKさんにつなげてください。

TT(女)小学校のときは学習会というものがどんなものか知らないで、母に学習会に行きたいと言ったことがありました。周りのみんなが行っているというだけで、友達に学習会に行ってもいいでって言ったときに、その友達も学習会というものがどういうものか知らないで、行ってもいいよって言うてくれました。中学に入学して学習会のことが段々とわかってきて、あのとき私って何だったんだろうと思うようになりました。今日の全体学習、手を挙げるまでにすごく時間がかかったけど、今日こうやって自分の意見を言うてみてすごくよかったと思います。

ME(女)私も学習会の通知をもらっているんだけど、学習会に行こうと思うんだけどなかなか行けなくて、給食のとき放送がある度に行かなあかんと思うんだけどなかなか行けなくて、とても苦しい思いをしてきました。学校でも同和問題学習のときもみんなの前で自分の本音を語っているようなふりをしてきただけだったと思います。私の中に心の底から差別をなくしたいという気持ちがあったら、KさんやMさんのように学習会に必ず参加するようになっていたと思います。私は心の底で自分をごまかしてきたことに今やっと気付いたような気がします。二人が学習会の通知をもらうのが楽しみとってくれた言葉を私の励みとして、これから学習会に参加できるように頑張ります。

T<sub>17</sub>: 絶対に頑張れる。頑張ろうな。

HF(男)学習会に行ったら部落出身とばれるという意見があったけど、そう思っているのは親だと思います。僕も学習会に行っているけど、小学校2年の頃だったと思うけど、親にいきなり学習会に行くように言われて楽しかったけど、やっぱり気になるじゃないですか。みんな行っていないのにどうして僕だけ行かないかんのかと思って親に聞いたんです。親は何も言わなくてただ行って勉強をしてくるようにいうだけでした。5年生になって学習会ができた理由を聞いたとき、特別にショックを受けることはありませんでした。今は学習会に参加することによって僕自身が強くなっているように思います。でも現実には学習会に行っている子は部落の子という目に僕たちを見ている親ってけっこういると思うんです。みんなは学習会の意味をしっかりと理解して、そんな親の偏見や差別意識を受け継ぐんではなくて、それを正していく生き方をみんなにはしてもらいたいと思います。

SF(男)僕は今まで同和問題学習を嫌々やってきました。みんなの意見を聞いているとそのことがとても恥ずかしいです。これから自分を変えていきたいです。

T<sub>18</sub>: いっぱい出てきた学習会の仲間の立ち上がりに応えてください。

HA(女)富加見先生が言ったように1年生が学習会に行かなかったのは、行かなかったのではなくて行けなかったんだと思います。この資料に書いてあるように、差別があるにも関わらずもう差別はなくなったと言わせている社会が現実にあると思います。

IA(男)学習会が楽しいのは、差別を本気でなくそうとしているからだだと思います。みんながそんな気持ちになったら、この学習ももっともっと楽しいものになっていくと思います。

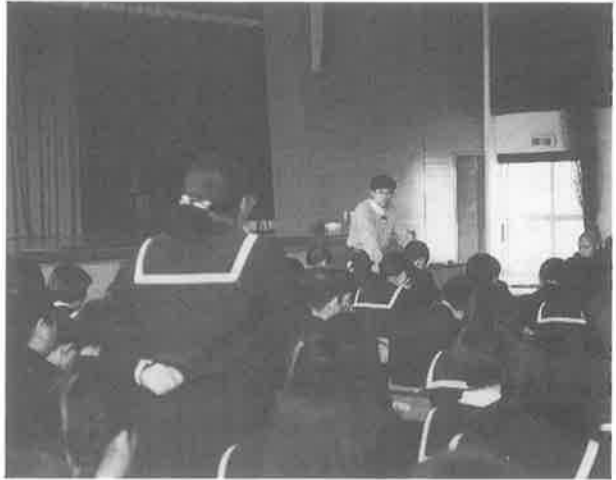
FA(女)私は前にA組で道德の授業をしたときに、部落に生まれた私の思いをクラスみんなに訴えたことがあるんだけど、実は私は学習会に行くはずだったけど、お母さんが行かなくていいと言って結局今まで行かしてくれなかったけど、近くの友達はみんな学習会に行っていて、私だけ行かないものだから仲間はずれにされているような気持ちになったこともあるし、学

校の帰りなんかも途中から別々という感じでした。だから小学校の頃は学習会に行きたいと言った頃があったけど、お母さんやお父さんやおじいちゃんやおばあちゃんは行かなくていいと言うのでずっと行かないままでした。中学2年のときにそのことをお母さんに言ったことがあったけど、お母さんは「差別されるから」と言いました。また

「今は先生がいるから守ってくれるけど社会に出たらそうはいかんのですよ」とも言いました。私はそんな話を聞くと本当に不安になるけど、そのためにも本当の仲間をつくっていかなければいけないと思うから、私は学習会に行けなかった分、この全体学習で頑張りたいと思います。

HT(男)小学校のとき友達が学習会に行っているのを見て、僕も行かなあかん

と思っていたけど、今までとうとう1回も学習会に参加することはありませんでした。学習会の通知をもらいながら1回も参加していないのはつらいものがあります。自分は今まで部落問題学習に一生懸命になったことはなかったけど、今いっぱい話してくれた人と一緒に頑張っていけるように学習会にも参加したいです。



KB(女)私もMさんやKさんと同じ会場の学習会に行っていて、私も学習会を楽しみにしているんだけど、今週の月曜日に部落問題学習があって、森口先生たちと一緒に本音を語り合っ、涙を流しながら自分の意見を発表してくれる子もいたんです。そのとき友達の本当の意見が聞けることは、その友達に私が信頼されているということなんだと思ったし、私もその友達を心の底から信じているし、そんな友達がいることが本当にうれしかったんです。それで人間は本当の思いを語り合う中から本当の人間としての関係が生まれていくと思ったんです。だからそんな感動を学習会だけですませないで、3年生全体にそんな関係をつくっていきたいと思います。

TA(女)私もMさんやKさんやNさんやYさんと同じ学習会場に行っています。実はその学習会場には1年生の一番始めに1回だけ行ったきりでずっと行ってなかったんです。この前の月曜日の放課後に森口先生に「今日学習会で同和問題学習をするから来いよ」と言われて初めて行ったんですけど、行く前は「嫌やなあ」という気持ちがありました。今まで行ってなかったのに同じ小学校の仲間だけど、あつかましいと思われなさそうとかいろいろのことを思っていました。でも私はその学習会で私の本当の気持ちを発表することができました。そのときは涙が出てきたけど、すごくうれしかったし、こんな仲間のいるところだったら絶対に頑張っていけると思いました。仲間を信じて語ったあの日は、絶対に忘れることはないと思います。信じることができるということって、本当にすばらしいことだと思います。それと今、Fさんが言ってくれたように、学習会に行っている人も学習会に出席できていない人も、その両方が部落というものと必死に闘おうとしていると思うんです。だからみんながつながっていけるように部落に生まれた人、部落に生まれなかった人、そんな区切りを越えて板野中学校の仲間として本当の思いを語り合えたらと思います。

HE(女)今Tさんが言ってくれたように学習会に行っていない子も、学習会に行っている子と同じような思いで、もっと真剣に同和問題学習に取り組み、みんなで協力していけたらいいなあと思います。

T(山口)さきほどMさんやTさんが話してくれた南会場の学習会に私も参加させてもらいました。あのときそこに参加した人たちが本当に仲間を信頼して、自分の本音を涙を流しながら訴えたことに、私は今までの自分の持っていた全体学習に対する考えが180度変わりました。今まで私はこんな授業をしなくてもクラスでやっていけばいいと思っていました。それは私自身がこのような授業をしなければならないという逃げの心があったからだと思うし、差別に対する私の認識が甘かったということに気がきました。差別というのはやっぱり重いんです。だからこそ本音を語り合える本当の仲間をつくらなければならないし、信頼できる友達になっていくためにどんどん自分を出していく。つまり発表していく。大勢の中で自分を出していく、さらけ出していくことが大切だと思いました。私は一人の人間としてこの差別をなくしていく生き方ができるようにみんなと頑張りたいと思います。

YY(女)さっきMさんたちの意見を聞いて、言葉にできないくらいうれしかったです。私は信頼されているんだと思いました。

FM(女)私も月曜日に学習会で同和問題学習をして本音を初めて語れたような気がします。Nさんたちがいろんな思いを堂々と語ってくれて、本当にすごいなあと思います。私ももっともっと私の思いが語っているように頑張りたいです。

OK(女)この前の学習会の同和問題学習、私は行きたくなかった家でじっとしていたんだけど、みんなの話を聞いていると私も頑張らないかんという気持ちになってきました。これからは学習会の同和問題学習にも参加して、みんなとの絆を深めたいと思います。

JT(男)僕も学習会に行っているのに、なかなか自分の思いを語れない自分が嫌になってきます。でも今日みんなの話を聞いて初めて全体学習という場で手を挙げることができました。僕は部落の人間として、絶対差別を怖れる生き方はしたくないので、学習会の仲間と頑張りたいと思います。

ET(女)私は学習会に行っていないけど、友達が行っています。友達の前には差別があります。その友達が一生懸命取り組んでいるのだから、その友達と本当の仲間になっていくためにも、私は一生懸命頑張っていこうと思います。

KT(男)僕ももっと部落問題のことをしっかりと勉強していきたいです。

T<sub>19</sub>: 段々と熱いものがこみ上げてきます。さっきYさんが言ってくれたんですけど、私たちに私たち自身を燃え上がらせてくれる仲間がいます。本当に頑張らなければと思います。授業が始まる前のみんなと授業が終わった後のみんなの思いを比較してみてください。授業する前の自分より授業が終わった後の自分が好きだと言えるだろうか。今日第1回目の全体学習にみんなで取り組んだわけですけど、これからの一日一日をみんなで精一杯に生きていきたいと思うんです。そしてその一日一日に「昨日の自分より今日の自分が好きだ」と言える思いが溢れる。そんな一日一日をみんなで創り上げていきたいと思います。今日3年A組の仲間が頑張った。その仲間の頑張りを受けて、全体でその頑張りをより大きなものにしようとした。そして、Mさんが訴えたことをみんなが受け止めて、差別をなくしていくんだという思いをみんなで語り合った。この思いをそれぞれの学級での同和問題学習につなげていきたいと思います。終わります。